

授業科目	解剖学	1 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	松村博文 (保健医療学研究棟 E411 号) e-mail : hiromura@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	水口 徹、(中村宅雄)、(鈴木大輔)、(小林英司)、(中野正子)、(溝口照悟)		
概要	ヒトの病態や機能を理解するには、正常な人体の構造を理解しておくことが必須である。それゆえに解剖学は理学療法/作業療法学科の学生にとって最も重要な基礎科目のひとつとなっている。解剖学では、人体を構成する骨格系と筋系、神経系、心臓・脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系、感覚器系において、各器官がどの様に構築され、またどのように機能と関連しているかを学習する。単なる暗記学問とならないためにも、人体の各構造物の科学的な意味と機能的関連を考えながら学習を進めることが肝要である。本講では座学だけでなく中枢神経系の構造の理解を深められるよう、脳実習や標本館での臓器見学もプログラムに組み入れている。筋骨格系の運動器や脈管系については本講でしっかりと基礎知識を習得し、2 年次におこなう解剖実習においてさらに理解を深めることとなる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な解剖学の人体各部の名称を記憶する。 2. 各器官の機能を理解し、かつその関連を説明できる。 3. 骨の形態と名称を正しく認識する。 4. 関節の構造を理解する。 5. 筋の起始停止、支配神経と作用を学ぶ。 6. 脳神経の機能を理解する。 7. 自律神経の仕組みを学習する。 8. 中枢神経についての理解を深める。 9. 発声器官を含む呼吸器の仕組みを学習する。 10. 消化器系における実質臓器と中空臓器の構造を理解する。 11. 動静脈系とリンパ系等の循環器の経路と心臓の構造および刺激伝導系を学習する。 12. 膜に関する構造(クモ膜、軟膜、漿膜、壁側膜、臓側膜、間膜、腹膜後器官・・・)を理解する。 13. 感覚器の構造を正しく説明できる。 14. 泌尿生殖器の構造を正しく説明できる。 		
関連科目	解剖学実習、生理学1、生理学2、運動学1、運動学2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	90%	
	スケッチ	10%	
教科書	①細田多穂、五味敏昭、浅井友詞、佐藤二美 [2015 年・6,480 円] 「運動器系解剖学テキスト」 南江堂 ②Wynn and Lawrence (著)、嶋井(訳) [2015 年・4,320 円] 「カラースケッチ解剖学 第4版」 廣川書店		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	人体の構造で理解すべき事項は広範囲におよび、解剖学用語(ノミナ)も膨大である。そのため知識の習得には日々の学習の積み重ねが欠かせない。そのため予習と復習を欠かさないこと。予習には教科書としてあげている運動器系解剖学テキストの該当頁を通読すること。また関連する局所解剖学の頁(340-478)も参照のこと。事後学習のためのカラースケッチ解剖学は講義時間中も活用するので、色鉛筆ともに毎回持参すること。標本館見学実習と脳実習は後半の適時に行う予定。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	人体構造総論 骨学総論	事前:運動系解剖学テキスト2-30 通読、事後:カラースケッチ	講義	松村

		1, 2, 5, 10, 17-19		
2	骨学各論 1(体幹骨)	事前:運動系解剖学テキスト 30-37 通読, 事後:カラスケッチ 25-28	〃	〃
3	骨学各論 2(上肢骨)	事前:運動器系解剖学テキスト 38-48 通読, 事後:カラスケッチ 29-34	〃	〃
4	骨学各論 3(下肢骨)	事前:運動器系解剖学テキスト 48-59 通読, 事後:カラスケッチ 35-41	〃	〃
5	骨学各論 3(頭蓋骨)	事前:運動器系解剖学テキスト 60-69 通読, 事後:カラスケッチ 22-23, 128, 129	〃	〃
6	筋学総論	事前:運動器系解剖学テキスト 70-81 通読, 事後:カラスケッチ 11, 21	〃	〃
7	筋学各論 1(頭頸部の筋)	事前:運動器系解剖学テキスト 82-90 通読, 事後:カラスケッチ 44, 46	〃	〃
8	筋学各論 2(上肢の筋)	事前:運動器系解剖学テキスト 93-94, 105-120 通読, 事後:カラスケッチ 52, 58	〃	〃
9	〃	〃	〃	〃
10	筋学各論 3(下肢の筋)	事前:運動器系解剖学テキスト 121-137 通読, 事後:カラスケッチ 60, 67	〃	〃
11	〃	〃	〃	〃
12	筋学各論 4(体幹の筋)	事前:運動器系解剖学テキスト 90-104 通読, 事後:カラスケッチ 48-50	〃	〃
13	神経総論	事前:運動器系解剖学テキスト 138-142 通読, 事後:カラスケッチ 13, 68-71, 84, 89	〃	〃
14	末梢神経系 1(脊髄神経系・脳神経系)	事前:運動器系解剖学テキスト 168-187 通読, 事後:カラスケッチ 70, 83-89	〃	〃
15	末梢神経系 2(自律神経系)	事前:運動器系解剖学テキスト 188-192 通読, 事後:カラスケッチ 91-93	〃	〃
16	中枢神経系 1(脊髄・脳幹・小脳)	事前:運動器系解剖学テキスト 157-165 通読, 事後:カラスケッチ 77-79, 85	〃	(小林)
17	中枢神経系 2(大脳)	事前:運動器系解剖学テキスト 154-156 通読, 事後:カラスケッチ 73-76, 80-82, 108	〃	(中野)
18	臓器総論 消化器系の構造と機能 1(口腔・咽頭)	事前:運動器系解剖学テキスト 237-243 通読, 事後:カラスケッチ 134-138	〃	松村

19	消化器系の構造と機能2	事前:運動器系解剖学テキスト 243-250 通読, 事後:カラースケッチ 134, 135, 137-141	〃	水口
20	消化器系の構造と機能3	事前:運動器系解剖学テキスト 251-254 通読, 事後:カラースケッチ 142, 143	〃	〃
21	循環器系の構造と機能1(心臓)	事前:運動器系解剖学テキスト 217-226 通読, 事後:カラースケッチ 101-106	〃	松村
22	循環器系の構造と機能2(動脈)	事前:運動器系解剖学テキスト 217-226 通読, 事後:カラースケッチ 101-105, 107, 109-113	〃	〃
23	循環器系の構造と機能3(静脈) 内分泌系・リンパ系	事前:運動器系解剖学テキスト 227-236 通読, 事後:カラースケッチ 116-121	〃	〃
24	呼吸器系の構造と機能	事前:運動器系解剖学テキスト 257-268 通読, 事後:カラースケッチ 127, 130-133	〃	〃
25	泌尿器系の構造と機能	事前:運動器系解剖学テキスト 269-277 通読, 事後:カラースケッチ 144-147	〃	〃
26	生殖器系の構造と機能	事前:運動器系解剖学テキスト 278-293 通読, 事後:カラースケッチ 155-161, 51	〃	(鈴木)
27	感覚器系の構造と機能	事前:運動器系解剖学テキスト 193-208 通読, 事後:カラースケッチ 90, 94-99	〃	(中村)
28	標本館見学実習(基礎医学棟8階)	事前:13回目～実施時点までの内容を 復習	観察実習	松村
29	脳実習(教育研究棟1地下 解剖実習室)	事前, 事後とも16, 17回内容を復習	実習	(小林) (溝口) (中野)
30	〃	〃	〃	〃

授業科目	解剖学実習	2 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	松村博文 (保健医療学研究棟 E411 号) e-mail : hiromura@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	青木信裕、中村充雄、齊籐秀和、(鈴木大輔)		
概要	既習得の解剖学で得た知識を実際の人体を解剖し観察する。教育研究棟 I の地下の解剖実習室において、5 人の班で 1 体を用いて実施する。人体解剖では軟部組織に覆われ骨がみえないため筋の起始停止を認識しづらい。そのため最初の 4 回(2 日間)は、1 年で学習した骨学の知識を再確認し、さらに知識を深めるための骨スケッチをおこなう。5 回目(3 日目)以降は人体解剖を進める。初回から終わりまで医学部と合同でおこなうが、このような実習形式は全国にほとんど例のない本学の特色であり、相互に連携することによりハイレベルの習得が可能である。PT/OT の学生は主に、運動器、脈管、末梢神経系について解剖をおこなう。内臓についても医学部の学生によって解剖された臓器の観察により学習が可能である。単なる暗記学問とならないよう、1 年次に学習したことをしっかり復習したうえで、毎回予習をしたうえで進めることが肝要。解剖実習では、「より良い医療従事者になるために、自分の身体を使って十分に勉強して下さい」という願いをこめて献体されたご遺体を用いるので、解剖学の知識の習得と同時に、献体に対する感謝の気持ちと、その期待に応える責任と自覚を持って取り組むこと。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の各部を同定できる。 2. 人体各部の名称の英名を習得する。 3. 筋骨格の形態と機能と支配神経を理解する。 4. 靭帯と関節の構造を学習する。 5. 脈管神経の走行を理解する。 6. 各臓器の構造と立体的な位置配置関係を理解する。 		
関連科目	解剖学、運動学 1、運動学 2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	口頭試問	90%	
	ノミナ試験	10%	
教科書	①F. H. Netter、相磯貞和 [2016 年・11,000 円] 「ネッター解剖学アトラス第 7 版」 南江堂 ②札幌医科大学解剖学第二講座編 [2024 年・1,500 円(予定)] 「解剖実習のマニュアル」 学内配布冊子		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医学部と共同で実習をおこなうため、医学部の実習に進行を合わせる必要がある。そのため、作業量の多い 5~8 回目(3,4 日目)の剥皮と皮下脂肪除去の作業は、時間的に夕方遅くまでかかることもあるので留意のこと。最後の納棺は医学部の実習がおわる 7 月上旬におこなう。 2) スムースに実習を進めるためには、毎回必ず予習が必要。進行スケジュールは事前に配布する。 3) 医学部の実習も十分に参考にしながらすすめること。 4) マニュアルは実習初回までに販売配布の予定。 5) 図譜なしに実習をすすめることはできないので、解剖学アトラスを必ず入手のこと。ネッターの旧版やネッター以外のアトラスでもかまわない。ネッターアトラスはやや高価であるが生涯にわたって活用できる。 6) 白衣と上履きと手袋が必要。白衣は各自入手のこと。上履きは室内シューズであれば何でも良い。手袋とメスの替え刃は特定日に業者が実習室前で販売する。メスのハンドルとピンセットは貸与する。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1, 2	骨実習 1(四肢・体幹骨)	事前: 実習マニュアル 第 1 回~4 回 (p. 13-57)	実習	松村

3, 4	骨実習 2(頭骨)	事前:実習マニュアル 第1回~4回 (p.13-57)	〃	松村・(鈴木)
5, 6	全身の剥皮	事前:マニュアル 第5回 (p.60-65)	〃	松村・青木・中村・齊藤・(鈴木)
7, 8	全身の皮下	事前:マニュアル 第6回 (p.66-71)	〃	〃
9, 10	背部の上肢帯筋 上肢の皮神経 ルンバール演習	事前:マニュアル 第7回 (p.72-78)	〃	〃
11, 12	腋窩 下肢の皮神経 大腿前面	事前:マニュアル 第8回 (p.79-93)	〃	〃
13, 14	腕神経叢 膝蓋骨と膝蓋靭帯 腹壁	事前:マニュアル 第9回 (p.94-101)	〃	〃
15, 16	頸部浅層 上腕伸側, 肩甲部 臀部	事前:マニュアル 第10回 (p.102-113)	〃	〃
17, 18	頸部深層 深背筋 大腿後面	事前:マニュアル 第11回 (p.114-129)	〃	〃
19, 20	前腕 下腿	事前:マニュアル 第12回 (p.130-139)	〃	〃
21, 22	手 足	事前:マニュアル 第13回 (p.140-153)	〃	〃
23, 24	腹膜と腰神経叢	事前:マニュアル 第14回 (p.165-169)	〃	〃
25, 26	口頭試問	事前:試問範囲 マニュアル 第5-24回	〃	〃
27, 28	白菊会総会 6月上旬 ノミナ試験(総会の前後の別日になることもある)	スーツ着用 事前:ノミナ試験マニュアル(第5-24回)の英名、	〃	〃
29, 30	納棺・再試・掃除 7月初旬に実施	事前:班ごとに献花用の花を持参のこと	〃	〃

授業科目	神経科学の基礎	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	石井 貴男 (保健医療学研究棟 E515 号) e-mail : ishitaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	石井 貴男、齊藤 正樹、(鶴飼 渉)		
概要	この科目では、脳の可塑性をテーマに、「神経系の発生・分化および成体の神経新生」「神経の変性と再生」「睡眠・覚醒の調節機構」「前頭葉機能と精神疾患」「精神疾患と精神薬理学」「ストレス反応と精神機能」「運動と精神機能」「脳研究の実際」について幅広く学習し、リハビリテーションが目標とする神経機能の回復に作用する神経科学的基盤を学ぶ。		
到達目標	1. 神経系の発生・分化、変性・再生、神経栄養因子の働きについて説明できる。 2. 運動発現、高次脳機能、睡眠・覚醒、学習と記憶、精神機能について神経科学的観点から説明ができる。 3. 神経の伝達科学と向精神薬の作用メカニズムについて説明できる。		
関連科目	生理学2、精神医学1、神経内科学、運動学1・2、臨床検査・薬理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	40%	
	レポート	60%	
教科書	指定なし		
参考書	①Kandel, E. R. 他 [2013 年] 「Principles of Neural Sciences 第5版」 McGraw Hill		
履修上の留意点	「神経科学の基礎」ではリハビリテーションにおいて重要な神経機能の回復や検査法の基盤に関して学ぶため、十分な復習を心がけて学習内容の理解に努めること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	神経系の発生・分化および成体の神経新生 神経系の発生・分化の機構、神経回路形成のメカニズム	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	講義	石井
2	神経の変性と再生 神経変性の過程と再生のメカニズム	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	齊藤
3	睡眠・覚醒の調節機構 睡眠と覚醒の神経調整メカニズムの理解	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	石井
4	前頭葉機能と精神疾患 意欲に関わる神経機構	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	〃
5	精神疾患と精神薬理学 向精神薬の作用メカニズム	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	〃
6	ストレス反応と精神機能 ストレス負荷が精神機能に及ぼす影響とその神経基盤	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	(鶴飼)
7	運動と精神機能 運動が精神機能に及ぼす影響とその神経基盤	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	〃
8	脳研究の実際 精神疾患と神経幹細胞の機能異常	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	〃

授業科目	生理学 1	1 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	丹野 雅也、水口 徹、久野 芳佳		
概要	生理学は生体機能を固体、器官、組織、細胞レベルで解明する学問である。本講では生体の恒常性の維持や基礎活動がどのように営まれているのかについて理解するため、循環、呼吸、消化吸収、代謝、内分泌、排泄、体液、神経、筋、生殖、血液、免疫の制御・調節機構を概説する。本講の内容は、2 年前期・後期において疾病の病態生理、診断、治療の理解を中心に学習する「内科学 1」「内科学 2」の基礎となる。		
到達目標	(1) 循環、呼吸、消化吸収、代謝、内分泌、排泄、体液、神経、筋、生殖、血液、免疫の制御機構について説明できる。 (3) 理学療法士・作業療法士国家試験の関連分野の問題を理解・正答できる。 (4) 臨床の現場で理学療法士・作業療法士としての実務において応用できる基礎知識を説明できる。		
関連科目	1 年次：「解剖学」「病理学」「生理学 2」 2 年次：「内科学 1」「内科学 2」		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	試験	100%	
教科書	①上田 晃、内田 さえ、鍵谷 方子、原田 彰宏 [最新版] 「人体の構造と機能」 医歯薬出版		
参考書	①武藤学 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 1 消化器」 MEDIC MEDIA ②鶴田ひかる 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 2 循環器」 MEDIC MEDIA ③森野勝太郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌」 MEDIC MEDIA ④巽浩一郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 4 呼吸器」 MEDIC MEDIA ⑤増田亜希子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 5 血液」 MEDIC MEDIA ⑥森尾友宏 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症」 MEDIC MEDIA ⑦尾上尚志 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 7 脳・神経」 MEDIC MEDIA ⑧池森(上條)敦子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器」 MEDIC MEDIA		
履修上の留意点	本学では理学療法学・作業療法学の基盤となる基礎知識体系である生理学、解剖学、病理学などを入学後より 2 年間で学ぶ。これらは互いに関連がある学問であり、それぞれで学習した知識を体系付けて理解することが重要である。生理学は今後の理学療法学・作業療法学の履修、実践の上で基礎となる学問の一つである。理学療法士・作業療法士国家試験にも出題される内容を多く含むが、学習する機会は 1 年次に限られるため、本講の履修とともに知識の習得を完結させることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	循環の生理 (1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	講義	丹野
2	循環の生理 (2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
3	循環の生理 (3)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
4	呼吸の生理 (1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
5	呼吸の生理 (2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃

6	消化・吸収機能(1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	水口
7	消化・吸収機能(2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
8	腎臓・排泄の生理(1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	丹野
9	腎臓・排泄の生理(2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
10	内分泌・代謝の生理(1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
11	内分泌・代謝の生理(2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
12	内分泌・代謝の生理(3)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
13	生殖機能と性の決定	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	久野
14	血液・免疫の生理(1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	丹野
15	血液・免疫の生理(2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃

授業科目	生理学2	1 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	齊藤正樹 (保健医療学研究棟 E513 号) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	齊藤正樹、(佐々木祐典)		
概要	人が環境に適応して活動する上で働く神経系の機能、すなわち動物的生理機能について、運動機能、感覚機能、高次脳機能などを通して学習する。主な学習内容としては「神経系の構成」「運動単位」「脊髄反射」「脳幹」「小脳」「大脳基底核」「大脳運動性皮質」「大脳連合野」「感覚器と感覚の種類」「体性感覚」「聴覚・平衡感覚」「視覚」「味覚・嗅覚」「自律神経系」である。これらの学習を通して、人の感覚・運動機能や高次脳機能の神経メカニズムについて理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の構成について説明できる。 2. 感覚器からの情報伝達、運動器への情報伝達のメカニズムについて説明できる。 3. 中枢神経系における情報伝達、情報統合、反射機構について説明できる。 4. 大脳の機能局在や感覚・運動メカニズムについて説明できる。 5. 自律神経系の構成と機能の特徴について説明できる。 		
関連科目	解剖学2・3、神経内科学、運動学1・2、精神医学1・2、臨床検査・薬理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	授業内容に対する理解度を筆記試験にて評価し、60 点以上を合格とする。
教科書	①岡田隆夫,長岡正範 [2018 年] 「標準理学療法学・作業療法学「生理学」」 医学書院 ②真島英信 [2018 年] 「生理学 新装版」 文光堂		
参考書	①Kandel, E. R. 他 [2012 年] 「Principles of Neural Science 第5版」 McGraw Hill ②本間研一 総監修 [2019 年] 「標準生理学 第9版」 医学書院		
履修上の留意点	「生理学2」で扱う学習内容はリハビリテーション領域にとって極めて重要な神経生理学が中心となるため、しっかり予習・復習をして理解を深めるように心掛けること。また、総論を中心に、講義の一部を看護学生と同時に(3 科合同で)開催する。講義日程、Zoom ID などは適時、学生サポートシステムを利用して履修者に連絡する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス/生理学総論/神経系の概要 (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	講義	齊藤
2	興奮性膜の性質 (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
3	筋の収縮 (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
4	神経系の構成 (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
5	脊髄・脳幹・小脳(総論) (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	(佐々木)
6	大脳(総論) (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
7	感覚系(総論) (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	齊藤

8	体性感覚 (3科合同)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
9	脊髄・脳幹・小脳(各論1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	(佐々木)
10	脊髄・脳幹・小脳(各論2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
11	視覚・聴覚・平衡感覚(総論)(3科合同)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	齊藤
12	視覚・聴覚・平衡感覚(各論)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
13	自律神経系(総論) (3科合同)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
14	脊髄・脳幹・小脳(各論3)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	(佐々木)
15	大脳(各論)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃

授業科目	生理学3	2 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	齊藤正樹 (保健医療学研究棟 E513 号) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	齊藤正樹、石井貴男、坂上真理、中島そのみ、中村裕二、中村充雄、森元隆文、横山和樹、齊藤秀和、早崎涼太、菅原和広、佐々木健史、井平 光、根木 亨、青木信裕、岩本えりか、田代英之、(佐々木祐典)		
概要	生理学1と生理学2で学んだ人体の植物的生理機能と動物的生理機能について計測を通して実体験する。計測を行う実習項目としては「循環機能」「呼吸機能」「基本筋電図」「誘発筋電図」「体性感覚」「平衡感覚」「視覚・聴覚」「脳波測定」「随意運動発現のメカニズム」の9項目である。また、計測で得られたデータを整理・解析し、これらをもとに実習報告としてレポートを作成する技術を習得する。これらの学習を通して、人の循環・呼吸機能、感覚・運動機能、脳機能について理解を深めることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命維持に重要な心肺機能について理解し説明できる。 2. 脳活動を反映する脳波について基本事項を理解し説明できる。 3. 種々の感覚の持つ特性を理解し説明できる。 4. 筋活動と運動機能、神経の情報伝達について理解し説明できる。 		
関連科目	生理学1・2、内科学1・2、神経内科学、運動学1・2、臨床検査・薬理学、精神医学1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	実習状況	20%	
	レポート評価	80%	
教科書	①指定なし		
参考書	①真島英信 [2018 年] 「生理学新装版」 文光堂		
履修上の留意点	<p>各 10 名程度の 4 グループに分かれて、各グループがローテーションしながら全 9 項目の実習を行う。実習時期は 3 期に分けられ、実習時間は 1 項目 4 時間(2 コマ)とする。各期の実習項目を以下に示す。</p> <p>I 期(実施回 2~13)</p> <p>実習 1: 「基本筋電図」筋活動を筋電計を用いて計測する。 実習 2: 「誘発筋電図」神経筋活動の情報伝達を神経刺激と筋電計を用いて計測する。 実習 3: 「呼吸機能」呼吸機能(呼吸曲線、呼吸気量、一秒率、呼吸運動)を呼吸器計を用いて計測する。 実習 4: 「視覚・聴覚」視聴覚を視力、視野、聴力測定により計測する。</p> <p>II 期(実施回 14~25)</p> <p>実習 5: 「循環機能」循環機能を心電計と血圧計を用いて計測する。 実習 6: 「平衡感覚」平衡感覚を重心動揺計を用いて計測する。 実習 7: 「体性感覚」体性感覚を皮膚表在感覚刺激により計測する。 実習 8: 「脳波測定」脳機能を脳波計を用いて計測する。</p> <p>III 期(実施回 26~30)</p> <p>実習 9: 「随意運動発現のメカニズム」随意運動に伴う運動関連脳電位を計測する。また大脳皮質運動野を経頭蓋磁気刺激し誘発される運動を観察する。(PT・OT 学科毎に実習する)</p> <p>各自が実験者または被験者として身体の様々な生理機能の計測を体験する。 人体を用いて生理機能の計測を行うため、実習中は事故が起こらないように十分に注意すること。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーションと各実習項目に関する説明	事前: 実習項目の予習 事後: 実習書の復習	講義	齊藤

2	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	演習	青木・田代・齊藤(秀)・齊藤(正)・早崎・岩本・佐々木(健)・中村(充)
3	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
4	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
5	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
6	測定で得られたデータの整理と解析を行う。	事前:データ収集とその解釈 事後:解析結果の復習	〃	〃
7	解析したデータをもとにレポートを作成する。	事前:関連文献の調査 事後:レポートの完成	〃	〃
8	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
9	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
10	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
11	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
12	測定で得られたデータの整理と解析を行う。	事前:データ収集とその解釈 事後:解析結果の復習	〃	〃
13	解析したデータをもとにレポートを作成する。	事前:関連文献の調査 事後:レポートの完成	〃	〃
14	実習5:「循環機能」 実習6:「平衡感覚」 実習7:「体性感覚」 実習8:「脳波測定」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	根木・横山・中島・中村(裕)・森元・齊藤

				(正)・石井・坂上
15	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
16	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
17	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
18	測定で得られたデータの整理と解析を行う。	事前: データ収集とその解釈 事後: 解析結果の復習	〃	〃
19	解析したデータをもとにレポートを作成する。	事前: 関連文献の調査 事後: レポートの完成	〃	〃
20	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
21	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
22	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
23	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
24	測定で得られたデータの整理と解析を行う。	事前: データ収集とその解釈 事後: 解析結果の復習	〃	〃
25	解析したデータをもとにレポートを作成する。	事前: 関連文献の調査 事後: レポートの完成	〃	〃
26	実習 9: 「随意運動発現のメカニズム」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	菅原・井平・(佐々木(秀))
27	実習 9: 「随意運動発現のメカニズム」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
28	実習 9: 「随意運動発現のメカニズム」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
29	実習 9: 「随意運動発現のメカニズム」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃

30	測定で得られたデータの整理および解析とレポートの作成	事前：データ収集とその解釈 事後：データ解析とレポートの完成	〃	〃
----	----------------------------	-----------------------------------	---	---

授業科目	運動学1	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E413 号) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村充雄、青木信裕、齊藤秀和		
概要	運動学は身体運動を考究する学問であり、その知識は運動機能障害をもつ患者の評価・治療を担う理学療法士・作業療法士にとって必要不可欠なものである。本講義では、関節の構造と運動特性および関節運動を導く筋機能について学習するとともに、主要な骨ランドマークや筋の触知手法について学習し、身体運動を理解するための基礎知識と基礎技術を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体運動の仕組みを力学の観点から説明できる。 2. 関節運動、身体運動に関して運動学用語を用いて記述できる。 3. 正常姿勢の特性を理解し、姿勢変化を記述することができる。 4. 上肢、下肢および体幹の各関節における構造、機能、および運動特性を説明できる。 5. 骨関節のランドマークを理解し、適切に触診できる。 6. 上肢、下肢および体幹における(主に体表に近い)筋の走行を理解し適切に触診できる。 		
関連科目	解剖学、解剖学実習、運動学2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①嶋田智明 他(監訳) [2018年・13,500円] 「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」 医歯薬出版 ②林典雄 [2022年・6,156円] 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版」 メジカルビュー社 ③林典雄 [2022年・6,156円] 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版」 メジカルビュー社		
参考書	①中村隆一、齊藤宏(著) [2003年・7,344円] 「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版		
履修上の留意点	触診の演習を含む授業は、適宜、露出が可能な服装を準備すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	運動学 総論	事前：筋骨格系解剖学の復習 事後：ワークシート	講義	谷口
2	筋骨格系運動学 総論(関節・筋の構造機能)	事前：筋骨格系解剖学の復習 事後：ワークシート	〃	〃
3	運動学の基本1 座標、位置、時間	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	中村
4	運動学の基本2 基底面、重心、身体運動の記述	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
5	運動学の基本3 力、トルク	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃

6	運動学の基本 4 テコの原理	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
7	姿勢の記述と理解 1(臥位)	事前：基本姿勢(姿勢の分類)の復習 事後：ワークシート	〃	〃
8	姿勢の記述と理解 2(立位)	事前：基本姿勢(姿勢の分類)の復習 事後：ワークシート	〃	〃
9	関節の構造特性と機能特性 1 股関節 1	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	講義・演習	青木
10	関節の構造特性と機能特性 2 股関節 2	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
11	関節の構造特性と機能特性 3 膝関節	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
12	関節の構造特性と機能特性 4 足関節	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
13	関節の構造特性と機能特性 5 体幹	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
14	関節の構造特性と機能特性 6 下肢・体幹まとめ	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
15	関節の構造特性と機能特性 7 肩関節	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	中村
16	関節の構造特性と機能特性 8 肘関節	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
17	関節の構造特性と機能特性 9 手関節	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
18	関節の構造特性と機能特性 10 上肢まとめ	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
19	筋の機能解剖と触診 1 下肢①	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	青木
20	筋の機能解剖と触診 2 下肢②	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
21	筋の機能解剖と触診 3 下肢③	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
22	筋の機能解剖と触診 4 下肢④	事前：配布資料およびテキストの pre-reading	〃	〃

		事後：配布資料の復習		
23	筋の機能解剖と触診5 体幹①	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
24	筋の機能解剖と触診6 体幹②	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
25	筋の機能解剖と触診7 上肢①	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	中村・齊 藤
26	筋の機能解剖と触診8 上肢②	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
27	筋の機能解剖と触診9 上肢③	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
28	筋の機能解剖と触診10 上肢④	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
29	筋骨格系運動学 総合演習 1	事前:触診演習 事後:ワークシート	〃	青木他・ 全教員
30	筋骨格系運動学 総合演習 2	事前:触診演習 事後:ワークシート	〃	〃

授業科目	運動学2	2 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	山田崇史 (保健医療学部棟 E407 号) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	太田久晶、山田崇史、菅原和広、佐々木健史、岩本えりか、根木 亨、青木裕信、田代英之、齊藤秀和、(宮城嶋沙織)		
概要	運動学1で修得した知識をもとに、運動発達、運動制御、運動学習などを学習する。さらに、種々の身体運動・動作を運動学的に分析することを通じて、その手法や身体運動・動作の仕組みについて理解することをねらいとする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学を力学の観点から理解し、関節運動や動作をその観点から説明できる。 2. 運動発達の諸段階を説明できる。 3. 姿勢や運動の制御を説明できる。 4. 運動学習の基礎的理論を説明できる。 5. 姿勢および平衡機能を分析、記述できる。 6. 正常歩行を分析・記述できる。 7. 筋の収縮からトルク発生までを、電気生理学的機器を用いて観察し、その結果について説明できる。 8. 運動中の呼吸循環反応について運動生理学機器を用いて観察し、その結果について説明できる。 		
関連科目	解剖学、生理学、運動学1、運動生理学、身体適応学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	50%	
	レポート	50%	
教科書	①中村隆一・齊藤宏・長崎浩 [2003 年] 「基礎運動学 第 6 版」 医歯薬出版		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	身体運動の発現 1	事後：講義・演習のまとめ	講義・演習	山田
2	身体運動の発現 2	〃	〃	〃
3	運動制御各論 1	〃	〃	菅原
4	運動制御各論 2	〃	〃	〃
5	運動制御総論 1	〃	〃	佐々木
6	運動制御総論 2	〃	〃	〃
7	運動学習 1	〃	〃	太田
8	運動学習 2	〃	〃	〃

9	運動発達 1	〃	〃	(宮城嶋)
10	運動発達 2	〃	〃	〃
11	姿勢制御 1	〃	〃	菅原・斎藤
12	姿勢制御 2	〃	〃	〃
13	運動学の理解(軌跡角度) 1	〃	〃	青木
14	運動学の理解(速度、加速度) 2	〃	〃	〃
15	筋力と筋電図 1	〃	〃	〃
16	筋力と筋電図 2	〃	〃	〃
17	身体重心と運動力学 1	〃	〃	〃
18	身体重心と運動力学 2	〃	〃	〃
19	動作時の運動力学 1	〃	〃	〃
20	動作時の運動力学 2	〃	〃	〃
21	動作筋電図による運動の理解 1	〃	〃	〃
22	動作筋電図による運動の理解 2	〃	〃	〃
23	呼吸循環代謝演習 1	〃	〃	岩本・根木
24	呼吸循環代謝演習 2	〃	〃	〃
25	基本動作の動作分析 1	〃	〃	青木
26	基本動作の動作分析 2	〃	〃	〃
27	歩行 1	〃	〃	〃
28	歩行 2	〃	〃	〃
29	歩行分析 1	〃	〃	青木・田代
30	歩行分析 2	〃	〃	〃

授業科目	運動生理学	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	山田崇史 (保健医療学研究棟 E407 号) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	菅原和広、岩本えりか		
概要	進化の歴史は、人間を含む多くの動物に、「ある一定量以上の身体活動を行って、初めてからだの機能を正常に保つことができる」という、植物にはみられない特質を持たせることとなった。本科目では、運動によってからだにどのような変化が生ずるのか、その現象としくみを学ぶ。さらに、理学療法の対象者に対し、科学的な根拠を基盤とした運動処方を実践するため、その基礎となる理論を習得する。		
到達目標	1. 体力を規定する身体諸機能について説明できる。 2. 運動が体力を規定する身体諸機能に及ぼす影響を説明できる。 3. 運動処方を構成する要素について説明できる。		
関連科目	解剖学、生理学、運動学 1-2、身体適応学、運動器障害理学療法学、神経障害理学療法学、内部障害理学療法学、発達障害理学療法学、高齢者理学療法学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	試験	80%	
	レポート	20%	
教科書	①勝田茂 [2015 年] 「入門運動生理学 第 4 版」 杏林書院		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	解剖および生理学の基本的な事項を復習するとともに教科書【入門運動生理学】の該当箇所を予習の上 講義にのぞむこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	理学療法における運動生理学の意義	事前：解剖・生理学の基礎知識	講義	山田
2	筋の構造と収縮のしくみ、エネルギー供給系	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと	〃	〃
3	筋線維の種類とその特徴	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと	〃	〃
4	運動単位の制御機構	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと	〃	菅原
5	随意運動における脊髄反射機構と一次運動野の役割	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと	〃	〃
6	筋の収縮様式と筋力	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと	〃	山田
7	内部障害系の構造と機能	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと	〃	岩本
8	運動による呼吸機能の変化	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと	〃	〃
9	運動による循環機能の変化	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと	〃	〃
10	運動による代謝機能の変化および呼吸・循環・代謝関連	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと	〃	〃

11	骨格筋の収縮特性の測定	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。事後：演習レポートを作成すること	演習	山田・菅原
12	骨格筋の疲労耐性の測定	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。事後：演習レポートを作成すること	〃	〃
13	反射時の電気生理学的測定	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。事後：演習レポートを作成すること	〃	〃
14	疲労時の運動単位の制御機構	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと。事後：演習レポートを作成すること	〃	〃
15	運動処方基礎	事前：教科書の該当箇所を読んでおくこと	講義	山田

授業科目	人間発達学 1	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	高橋義信 (教育研究棟 IC809 号) e-mail : yoshi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	人間発達がいかなるものか、それにどのような要因が影響するのかという事を通して、発達する生命体としての人間に対する理解を深める。またライフステージの各時期では、どのような形態機能的、認知的、社会情動的特徴があるのかを理解し、各時期にどのような発達上の問題が生じるのかを学ぶ。		
到達目標	1. 人間の発達の特徴を説明できる。 2. 人間の発達に影響を及ぼす主な要因を説明できる。		
関連科目	心理学、教育学、人間発達学 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 レポートは、授業で取り上げられたテーマの中から、より深く学びたいテーマを選び、それを自分なりに調査し、まとめるというものです。テーマの選択の適切性、調査内容の範囲や正確性が重要な評価対象となります。
	レポート	90%	
	提出物	10%	
教科書	指定なし		
参考書	①若井邦夫他 [2006 年] 「グラフィック乳幼児心理学」 サイエンス社		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	胎生期の栄養状態がその後の発達に及ぼす影響。エピジェネティックスを理解する。	事前学習：シラバスを読む。 事後学習：配布資料を復習する。	講義	高橋
2	新生児の視覚、聴覚とそれがどのように発達していくか	事前学習：参考書の該当箇所を読む。 事後学習：配布資料を復習する。	〃	〃
3	新生児期・乳児期の母子関係とそれが後の発達にどの程度影響を及ぼすか	〃	〃	〃
4	言語発達と臨界期の存在	〃	〃	〃
5	性同一性の形成とそれに影響する要因	〃	〃	〃
6	身長伸びとそれに影響を与える要因	〃	〃	〃
7	第二次性徴に影響を及ぼす要因と性淘汰	〃	〃	〃
8	青年期の自己同一性と職業選択	〃	〃	〃

授業科目	人間発達学2	2学年・前期・1単位(15時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	田畑久江(保健医療学研究棟E211号) e-mail: hisaet@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	仙石泰仁、今野美紀		
概要	本科目は人間発達学1を基盤として、小児期のリハビリテーションおよび看護に必要な運動、認知、知能の発達理論およびその評価に関する知識の提供を行う。特に、人間の胎児期から就学期までの発達原理の理解を深めるため、身体と精神、認知、情緒、社会性の発達が、横断的かつ縦断的に相互関係を持ちながらどのように育まれていくかに焦点を当てて学習を行う。また、講義とともに関連書籍の精読を行い、レポートとしてまとめることも課題とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期の身体の発達と主な疾患を説明できる。 2. 小児期の運動の発達を説明できる。 3. 小児期の認知や知能の発達を説明できる。 4. 1-3において、評価に関する知識を学ぶ。 		
関連科目	人間発達学1、心理学概論、教育学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	定期試験	80%	
	レポート	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①辛島千恵子[2020年]「人間発達とライフサイクル」理工図書		
履修上の留意点	人間発達学1を履修し合格していることが望ましい。		

実施回	内容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	人間発達の基盤とその障害について学ぶ	事前: なし 事後: 授業内容の振り返り	講義	仙石
2	身長・体重などの形態的発達の特徴	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	〃
3	神経の発達から見た反射の変化	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	〃
4	神経の発達から見た姿勢の変化	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	〃
5	胎児期の発達と出生後の呼吸・循環機能	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	今野
6	骨髄、免疫の発達など	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	田畑
7	消化器、腎機能など	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	〃
8	生活環境や習慣と発達との関連	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	今野

授業科目	病理学	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314 号) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(市戸義久)、(一宮慎吾)、丹野雅也、(久野篤史)、(久保輝文)、(村田憲治)、(櫻井晃洋)、(宮西浩嗣)、(菰澤慎也)		
概要	病理学では、臨床に必要な病態の基礎となる病理学の総論を体系的に学習する。疾病と病理の関係・役割を理解する。細胞レベルで起きる組織の再生や修復のメカニズムを理解する。循環障害として浮腫・出血・血栓塞栓を理解する。炎症と免疫・移植拒絶について理解する。感染症について理解する。先天性代謝異常や遺伝異常症について理解する。老化と死について理解する。腫瘍の基礎を理解する。臨床病態を把握できる、基礎的な知識を涵養する。		
到達目標	疾病の病因を理解できるようになることを目的とする。下記の各項目について、基礎的知識を身に付け、要約できる。 1. 病理学の定義・病因 2. 細胞・組織の機能と障害, 3. 循環障害と凝固線溶異常, 4. 炎症・免疫・生体防御, 5. 感染症の病態、病原微生物の特性, 6. 先天性代謝異常・遺伝病, 7. 腫瘍性病変の特徴 *関連する国家試験問題に対して70%以上の正答を得ることが出来る。		
関連科目	解剖学、生理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	評価は試験によって行う(100%)。ただし、授業参加の良い場合には10%程度の加点を行う場合がある。
教科書	①大橋健一ら(編集) [最新版] 「[系統看護学講座 専門基礎分野] 病理学」 医学書院		
参考書	①小林正伸 (著) [最新版] 「[病理学 病態形成の基本的な仕組み]」 南山堂 ②医療情報科学研究所(編) [最新版] 「クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説共通問題」 MEDIC MEDIA		
履修上の留意点	学習内容の講義順序や講義時間が変更されることがあるので、学生掲示板などで逐次講義予定を確認すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	病理学概説、病気の原因	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	講義	水口
2	炎症の概念、急性炎症、慢性炎症、炎症細胞	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
3	細胞の構造と機能、細胞障害、細胞増殖、細胞死	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(市戸)
4	組織再生、組織修復、創傷治癒、異物処理機構	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
5	老化の概念、老化機構、疾患との関連	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(一宮)
6	循環動態、浮腫、虚血、鬱血、ショック	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	丹野

		る。		
7	出血と止血機構、血栓形成、塞栓、梗塞、DIC	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
8	環境と栄養異常	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
9	代謝異常、脂質代謝異常、蛋白代謝異常	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(久野)
10	免疫の概念、生体防御機構	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(久保)
11	免疫細胞、免疫組織、免疫認識機構、HLA、エフェクター機構	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(村田)
12	染色体異常、遺伝病、遺伝子診断、遺伝カウンセリング	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(櫻井)
13	発癌機構、進展と転移、癌の病期、診断の基礎	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(宮西)
14	感染微生物の種類、検出法、伝搬様式、感染病態	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(菲澤)
15	細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	水口

授業科目	内科学1	2 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		作業 理学	必修 必修

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	WHO により提唱された国際障害試案の機能障害に属する内部障害は、心臓、呼吸、腎尿路、消化などの内部機能障害の総称と定義される。また我が国の身体障害者福祉法では、心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害、膀胱直腸機能障害、小腸機能障害、HIV による免疫機能障害、肝機能障害の 7 つを内部障害(内部機能障害)と規定している。2 年前期で開講される内科学 1 は、内部障害の原因となる内科疾患の理解を目的に開講する。医療の現場で行われている診断・治療の知識を習得することは、各種病態・疾患における適切なリハビリテーションの意義を理解し各々の患者に適切なケアを行う上で必須である。本講では幅広い内科的な疾病の診断・治療に関する医学的知識を概説する。これにより理学療法士・作業療法士国家試験に出題され得る内容を網羅し、かつ将来的に臨床の現場での実務に役立つ知識を提供する。		
到達目標	(1)様々な疾患・病態の診断・治療について説明できる。 (2)様々な疾患・病態の診断・治療の過程において適切なリハビリテーションの意義を説明できる。 (3)理学療法士・作業療法士国家試験の関連分野の問題を理解・正答できる。 (4)臨床の現場で理学療法士・作業療法士としての実務において応用できる知識を説明できる。		
関連科目	1 年次：「解剖学」「病理学」「生理学2」 2 年次：「内科学2」「内部障害理学療法学」		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①武藤学 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 1 消化器」 MEDIC MEDIA ②鶴田ひかる 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 2 循環器」 MEDIC MEDIA ③森野勝太郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌」 MEDIC MEDIA ④巽浩一郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 4 呼吸器」 MEDIC MEDIA ⑤増田亜希子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 5 血液」 MEDIC MEDIA ⑥森尾友宏 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症」 MEDIC MEDIA ⑦尾上尚志 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 7 脳・神経」 MEDIC MEDIA ⑧池森(上條)敦子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器」 MEDIC MEDIA		
参考書	①角田 亘、岡崎 史子 [最新版] 「リハビリテーションテキスト 内科学」 MEDICAL VIEW		
履修上の留意点	2 年後期で開講する「内科学2」と併せて、系統臨床内科学として一連の講義を行う。 本学では理学療法学・作業療法学の基盤となる基礎知識体系である生理学、解剖学、病理学、内科学などを入学後より 2 年間で学ぶ。これらは互いに関連がある学問であり、それぞれで学習した知識を体系付けて理解することが重要である。内科学は今後の理学療法学・作業療法学の履修、実践の上で基礎となる学問の一つである。理学療法士・作業療法士国家試験にも出題される内容を多く含むが、学習する機会は 2 年次に限られるため、本講の履修とともに知識の習得を完結させることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	内科学総論	事後：資料の復習	講義	丹野
2	循環器疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃

3	循環器疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
4	循環器疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
5	腎臓・泌尿器疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
6	腎臓・泌尿器疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
7	腎臓・泌尿器疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
8	呼吸器疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
9	呼吸器疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
10	呼吸器疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
11	内分泌・代謝疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
12	内分泌・代謝疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
13	内分泌・代謝疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
14	消化管疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
15	消化管疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃

授業科目	内科学2	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	WHO により提唱された国際障害試案の機能障害に属する内部障害は、心臓、呼吸、腎尿路、消化などの内部機能障害の総称と定義される。また我が国の身体障害者福祉法では、心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害、膀胱直腸機能障害、小腸機能障害、HIV による免疫機能障害、肝機能障害の 7 つを内部障害(内部機能障害)と規定している。2 年後期で開講される内科学 2 は、内部障害の原因となる内科疾患の理解を目的に開講する。医療の現場で行われている診断・治療の知識を習得することは、各種病態・疾患における適切なリハビリテーションの意義を理解し各々の患者に適切なケアを行う上で必須である。本講では幅広い内科的な疾病の診断・治療に関する医学的知識を概説する。これにより理学療法士・作業療法士国家試験に出題され得る内容を網羅し、かつ将来的に臨床の現場での実務に役立つ知識を提供する。		
到達目標	(1) 様々な疾患・病態の診断・治療について説明できる。 (2) 様々な疾患・病態の診断・治療の過程において適切なリハビリテーションの意義を説明できる。 (3) 理学療法士・作業療法士国家試験の関連分野の問題を理解・正答できる。 (4) 臨床の現場で理学療法士・作業療法士としての実務において応用できる知識を説明できる。		
関連科目	1 年次：「解剖学」「病理学」「生理学2」 2 年次：「内科学1」「内部障害理学療法学」		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①武藤学 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 1 消化器」 MEDIC MEDIA ②鶴田ひかる 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 2 循環器」 MEDIC MEDIA ③森野勝太郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌」 MEDIC MEDIA ④巽浩一郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 4 呼吸器」 MEDIC MEDIA ⑤増田亜希子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 5 血液」 MEDIC MEDIA ⑥森尾友宏 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症」 MEDIC MEDIA ⑦尾上尚志 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 7 脳・神経」 MEDIC MEDIA ⑧池森(上條)敦子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器」 MEDIC MEDIA		
参考書	①角田 亘、岡崎 史子 [最新版] 「リハビリテーションテキスト 内科学」 MEDICAL VIEW		
履修上の留意点	2 年前期で開講する「内科学1」と併せて、系統臨床内科学として一連の講義を行う。 本学では理学療法学・作業療法学の基盤となる基礎知識体系である生理学、解剖学、病理学、内科学などを入学後より2 年間で学ぶ。これらは互いに関連がある学問であり、それぞれで学習した知識を体系付けて理解することが重要である。内科学は今後の理学療法学・作業療法学の履修、実践の上で基礎となる学問の一つである。理学療法士・作業療法士国家試験にも出題される内容を多く含むが、学習する機会は2 年次に限られるため、本講の履修とともに知識の習得を完結させることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	肝・胆・膵疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	講義	丹野
2	肝・胆・膵疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃

3	血液疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
4	血液疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
5	血液疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
6	感染症(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
7	感染症(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
8	感染症(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
9	アレルギー・免疫疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
10	アレルギー・免疫疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
11	アレルギー・免疫疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
12	高齢者と疾患・老年症候群(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
13	高齢者と疾患・老年症候群(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
14	高齢者と疾患・老年症候群(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
15	心電図判読の演習	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃

授業科目	神経内科学	2 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	齊藤正樹 (保健医療学研究棟 E513 号) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	リハビリテーションを行う上で、理学療法士・作業療法士に必要な臨床神経学の基礎を学習する。また、リハビリテーションの際に理学療法士・作業療法士が理解すべき神経内科疾患を概説する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経内科疾患を理解する上で、必要な神経解剖・神経生理の知識を修得する。 2. 神経学的診断法および補助診断法の概要が説明できる。 3. 代表的な神経内科疾患の原因、症状、治療が説明できる。 		
関連科目	内科学1、内科学2、小児科学、外科学、整形外科		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	期末定期試験	100%	国家試験に準じた多肢選択式の期末定期試験(100 点満点)で評価する。
教科書	①今井富裕 [2021 年] 「はじめての講義 リハビリテーションのための神経内科学の学び方」 南江堂		
参考書	①NPO 法人北海道医療連携ネットワーク [2022 年] 「あんしん生活ガイドブック」 昇夢虹 ②NPO 法人北海道医療連携ネットワーク [2019 年] 「脳卒中・急性心筋梗塞あんしん連携ノート」 昇夢虹 ③福岡県循環器病総合支援センター [2023 年] 「福岡県脳卒中あんしん連携ノート」 福岡県循環器病総合支援センター		
履修上の留意点	1→15 の順に学習する予定であるが、順序に変更のある場合や学習主題・学習内容に改変がある場合はあらかじめ通知する。評価方法・基準に変更がある場合は履修期間内に通知する。 講義内容は国家試験に必要な基礎知識にとどまらず、病棟、訓練室、訪問先にて主体的にリハビリテーション医療を展開できるよう、高度な知識、最新の知見にも触れるよう努める。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス/脳血管障害 1	事前：教科書の当該部分を読んでくる。 事後：教科書の練習問題を解く。	講義	齊藤
2	脳血管障害 2	〃	〃	〃
3	高次脳機能障害	〃	〃	〃
4	認知症 1	〃	〃	〃
5	認知症 2	〃	〃	〃
6	変性疾患 1	〃	〃	〃
7	変性疾患 2	〃	〃	〃
8	脱髄疾患	〃	〃	〃

9	脊髄疾患	〃	〃	〃
10	末梢神経疾患	〃	〃	〃
11	筋疾患	〃	〃	〃
12	神経感染症	〃	〃	〃
12	機能性疾患	〃	〃	〃
13	代謝・中毒疾患/内科疾患に伴う神経障害	〃	〃	〃
14	神経内科学トピックス・復習	〃	〃	〃
15	小児神経疾患	〃	〃	〃

授業科目	外科学	2 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 選択

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314 号) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(原田敬介)、(巽 博臣)、(吉川裕介)、(秋山幸功)、(川原田 修義)、(宮島正博)、(高野賢一)、(杉村政樹)、(西田幸代)、(四ッ柳 高敏)、(島 宏彰)、(市戸義久)		
概要	外科治療における医療スタッフとして必要な基礎知識を習得する。専門領域ごとに術前管理・術後管理には特徴があり、本学を代表する専門講師陣により、基礎知識から高度専門領域までを網羅した近代外科を結集した包括的授業となる。国家試験に必要な知識はもとより、卒後の実地臨床で必要な知識に加え、生涯学習につながる将来の課題を見いだせることを目標とする。本科目では周術期におけるリハビリテーションとの分担的役割を外科的治療の基礎と実際の疾患と関連づけた統括知識として習得する。国家試験に対応した実践的な問題に対し、十分な理解力と回答力を涵養する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術前・術後管理とリハビリテーションの役割を説明できる。 2. 外科的治療の基礎と疾患を説明できる。 3. 終末期患者の病態を理解し、リハビリテーションの係わりを説明できる。 4. 過去の国家試験問題に対して 70%以上の正答を得る。 		
関連科目	病理学、生理学、解剖学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	評価は試験によって行う(100%)。ただし、授業参加の良い場合には10%程度の加点を行う場合がある。
教科書	指定なし		
参考書	①医療情報科学研究所(編) [最新版] 「病気がみえる vol.1 消化器(第5版)」 MEDIC MEDIA ②森田 孝夫/東条 尚 編 [最新版] 「研修医のための外科の周術期管理ズバリおまかせ」 羊土社		
履修上の留意点	教科書・参考書はがあると望ましい。病気がみえる vol.1 消化器(第5版)MEDIC MEDIA は将来にわたって使える。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	外科医療の基礎 (手術侵襲、腫瘍、外科的基本手技)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	講義	水口
2	外科救急の実際 (救急処置法、人工呼吸器・トリアージ・DCS)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(原田)
3	外科集中治療の基礎 (静脈栄養・経腸栄養・血液浄化)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(巽)
4	麻酔法 (全身麻酔、術前管理・術後管理)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(吉川)
5	心臓・血管疾患の外科治療	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(川原田)
6	呼吸器疾患の外科治療	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(宮島)

		る。		
7	消化管疾患（上部・下部）の外科診療	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	水口
8	肝胆膵疾患（肝臓・胆嚢・膵臓）の外科診療	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
9	脳神経疾患（疫学・診断・外科治療・予後）	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（秋山）
10	耳・鼻、咽頭疾患（疫学・診断・外科治療・予後）	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（高野）
11	産婦人科疾患（疫学・診断・外科治療・予後）	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（杉村）
12	泌尿器科疾患（疫学・診断・外科治療・予後）	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（西田）
13	形成外科領域の対象疾患	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（四ツ柳）
14	乳腺疾患（疫学・診断・治療・予後）	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（島）
15	口腔ケアに必要な歯科解剖・生理	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（市戸）

授業科目	整形外科学	2 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	渡邊耕太 (保健医療学研究棟 E410 号) e-mail : wkota@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(江森誠人)、(小助川維摩)、(杉 憲)		
概要	脊柱および四肢の骨・関節・神経・筋組織は身体の運動に直接関与する。これら運動器に発生する外傷・障害を機能解剖、病態生理の面から解説し、保存的・外科的治療の適応と方法を解説する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器における外傷障害の病態および治癒機転を説明できる。 2. 上肢の外傷障害の病態と治療を説明できる。 3. 脊椎・体幹の外傷障害の病態と治療を説明できる。 4. 下肢の外傷障害の病態と治療を説明できる。 5. 末梢神経の外傷障害の病態と治療を説明できる。 6. 関節リウマチの外傷障害の病態と治療を説明できる。 7. 運動器における感染症と腫瘍の病態と治療を説明できる。 		
関連科目	リハビリテーション医学、解剖学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	学習態度	20%	講義中は積極的な発言を求める。
	筆記試験	80%	
教科書	① [最新版] 「標準整形外科学」 医学書院		
参考書	①青木光広 [最新版] 「からだの機能と運動療法 上肢・体幹」 メジカルビュー社 ②内山英一 [最新版] 「からだの機能と運動療法 下肢・骨盤」 メジカルビュー社		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	整形外科総論	事前：整形外科についての概念を整理する。 事後：配布資料	講義	渡邊
2	骨、関節、腱・靭帯における外傷障害の治癒機転	事前：運動器の解剖についての知識を確認しておく。	〃	〃
3	運動器障害の診断と治療 総論/画像診断	事前：診断に用いる画像の種類、その特徴をおさえる。 事後：配布資料	〃	〃
4	上肢の外傷障害の病態と治療	事前：上肢に特有な運動器障害について整理する。 事後：配布資料	〃	〃
5	肩関節の外傷障害の病態と治療	事前：肩関節の特殊性について確認する。 事後：配布資料	〃	(杉)
6	手指・手関節の外傷障害の病態と治療	事前：手指の複雑な動きがいかにしてなされるかを理解する。 事後：配布資料	〃	渡邊

7	脊椎・体幹の代表的外傷障害の病態と治療1	事前：脊椎・体幹の機能とその障害への対策。 事後：配布資料	〃	〃
8	脊椎・体幹の代表的外傷障害の病態と治療2	事前：脊椎・体幹の外傷の理解とその対策。 事後：配布資料	〃	〃
9	股関節の代表的外傷障害の病態と治療	事前：股関節特有の運動器障害について整理する。 事後：配布資料	〃	(小助川)
10	膝関節の代表的外傷障害の病態と治療	事前：膝関節特有の運動器障害について整理する。 事後：配布資料	〃	渡邊
11	足関節の代表的外傷障害の病態と治療	事前：足・足関節特有の運動器障害について整理する。 事後：配布資料	〃	〃
12	末梢神経の外傷障害の診断と治療	事前：末梢神経の構造からその傷害を理解する。 事後：配布資料	〃	〃
13	関節リウマチの病態と治療	事前：関節リウマチとその類縁疾患の整理、鑑別点。 事後：配布資料	〃	〃
14	運動器における腫瘍の病態と治療	事前：良性・悪性腫瘍の違いをおさえる。 事後：配布資料	〃	(江森)
15	骨粗鬆症の病態と治療	事前：骨粗鬆症の問題点とその対策。 事後：配布資料	〃	渡邊

授業科目	小児科学	2 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	齊藤正樹 (保健医療学研究棟 E513 号) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(館延忠)、(福村忍)、(坂井拓朗)、(長岡由修)、(春日亜衣)、(石井玲)、(石川亜貴)、(横澤正人)		
概要	小児のリハビリテーションを行う上で、理学療法士・作業療法士に必要な小児神経学および小児科学関連領域の基礎を学習する。また、リハビリテーションの際に理学療法士・作業療法士が理解すべき小児科疾患を概説する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期の健康に関する概略を説明することができる。 2. 新生児に関する医学的知識を身につけ、周産期の異常を説明することができる。 3. 脳性麻痺の成因と症候を説明することができる。 4. 小児てんかんの診断と治療について説明することができる。 5. 自閉症、ADHD、LD の区別を説明することができる。 6. 小児神経筋疾患の診断と治療について説明することができる。 7. 代表的な小児疾患を挙げ、典型的な臨床症状を説明することができる。 		
関連科目	人間発達学1、人間発達学2、内科学1、内科学2、神経内科学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	期末定期試験	100%	期末定期試験(100 点満点)で評価する。
教科書	①富田 豊(編集) [2018 年] 「小児科学 第5 版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)」 医学書院		
参考書	①鴨下 重彦(監修) [2009 年] 「ベッドサイドの小児神経・発達の診かた(改訂第3 版)」 南山堂 ②原寿郎ら(編集) [2022 年] 「標準小児科学(第9 版)」 医学書院 ③桃井眞里子ら(編集) [2017 年] 「ベッドサイドの小児神経・発達の診かた」 南山堂		
履修上の留意点	1→15 の順に学習する予定であるが、順序に変更のある場合や学習内容に改変がある場合はあらかじめ通知する。評価方法・基準に変更がある場合は履修期間内に通知する。感染症の流行、講師の診療などにより講義日程が変更になった場合は、学生サポートシステムを利用して履修者に通知する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	科目ガイダンス/小児科学概論/神経・筋疾患(1)	事前：シラバス、教科書の当該部分を読んでくる。 事後：当日配布資料を復習する。	講義	(館)・齊藤
2	新生児・未熟児	事前：教科書の当該部分を読んでくる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(坂井)
3	重症心身障害児	事前：教科書の当該部分を読んでくる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(福村)
4	神経・筋疾患(2)	事前：教科書の当該部分を読んでくる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(館)
5	遺伝病・先天異常	事前：教科書の当該部分を読んでくる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(石川)

6	呼吸器疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(横澤)
7	感染症	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(館)
8	脳性麻痺	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(福村)
9	腎・泌尿器疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(長岡)
10	発達障害	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(福村)
11	循環器疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(春日)
12	消化器疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(横澤)
13	免疫疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(館)
14	てんかん	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(福村)
15	内分泌疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(鎌崎)

授業科目	精神医学 1	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	石井 貴男 (保健医療学研究棟 E515 号) e-mail : ishitaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	石井 貴男		
概要	精神障害者を診る・治療するという観点から精神障害の内容とその症状、診断、治療など医学的問題について学習する。学習内容としては「精神医学総論」の学習を通して、精神症状の種類や特徴、精神疾患の疫学・成因について理解を深める。さらに主たる精神疾患として「統合失調症とその関連障害」「気分(感情)障害」「神経症性障害」「器質性精神障害」「精神作用物質による精神・行動の障害」「生理的障害および身体的要因に関連した障害」の学習を通して、それぞれの精神疾患の概念、疫学、症状、診断、治療について理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害の成因と分類、精神機能の障害と精神症状について説明できる。 2. 統合失調症とその関連障害の概念、疫学、症状、診断、治療について説明できる。 3. 気分(感情)障害の概念、疫学、症状、診断、治療について説明できる。 4. 神経症性障害の概念、疫学、症状、診断について説明できる。 5. 症状・器質性精神障害の概念、疫学、成因、症状、診断について説明できる。 6. 摂食障害、非器質性睡眠障害の概念、疫学、症状、診断について説明できる。 7. 精神科リエゾンの概念、多職種連携について説明できる。 		
関連科目	生理学2、臨床検査・薬理学、臨床心理学、精神障害作業療法学、精神障害作業療法治療学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	①上野武治, 齋藤利和, 池田官司 他 [2021年・4,840円] 「標準理学療法学・作業療法学「精神医学」(第4版増補版)」 医学書院		
参考書	①西丸四方, 西丸甫夫 [2008年・2,730円] 「やさしい精神医学」 南山堂 ②第12版改訂委員会, 大熊輝夫 [2013年・8,085円] 「現代臨床精神医学」 金原出版		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	精神医学総論 精神障害の成因と分類、精神機能の障害と精神症状	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	講義	石井
2	統合失調症とその関連障害 統合失調症と関連疾患の概念、疫学、症状、病型	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
3	気分(感情)障害 うつ病、躁うつ病の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
4	器質性精神障害① 認知症の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
5	器質性精神障害② 症状・器質性精神障害の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
6	神経症性障害 不安障害、強迫性障害、解離性障害、身体表現性障害の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃

7	生理的障害および身体的要因に関連した障害 摂食障害、非器質性睡眠障害の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
8	リエゾン精神医学 総合病院における精神科の役割と多職種連携	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃

授業科目	精神医学2	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	選択 必修

科目担当責任者	石井 貴男 (保健医療学研究棟 E515 号) e-mail : ishitaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	石井 貴男、池田 望、(川村敏明)、当事者・comedicalスタッフ(協力:浦河ひがし町診療所)、(津山 雄亮)		
概要	精神障害の医学的問題と精神障害者を取り巻く社会的問題点について学習する。具体的には「精神障害の診断と評価」、「成人のパーソナリティ・行動・性の障害」「心理発達の障害および精神遅滞」について理解を深めるとともに「精神科の歴史と法体制」「臨床心理学と精神障害」「精神障害者の社会復帰と精神保健福祉」の学習を通して精神科医療の歴史や社会制度、精神障害者の社会復帰と精神保健福祉の実際について学習する。 さらに「地域精神障害医療」の学習では、当事者(患者さん)の講演を通して精神障害者の実問題や地域精神医療について理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症の生活障害と治療法について説明できる。 2. パーソナリティ・行動・性の障害の概念、疫学、症状、診断、治療について説明できる。 3. 心理発達の障害と精神遅滞の概念、疫学、症状、診断、治療について説明できる。 4. 当事者(患者さん)の講義を通して精神障害者の実問題や地域精神医療について説明できる。 5. 精神科医療の歴史的背景や社会制度について説明できる。 6. 精神科分野における心理士の役割について説明できる。 7. 精神障害者の社会復帰と精神保健福祉の関わりについて説明できる。 		
関連科目	生理学2、臨床検査・薬理学、臨床心理学、精神障害作業療法学、精神障害作業療法治療学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	80%	「地域精神医療」講義の際に、レポート課題を課す。レポートは提出状況および内容により評価する。
	レポート	20%	
教科書	①上野武治, 齋藤利和, 池田官司 他 [2021 年・4, 840 円] 「標準理学療法学・作業療法学「精神医学」(第4版増補版)」医学書院		
参考書	①西丸四方, 西丸甫夫 [2008 年・2, 730 円] 「やさしい精神医学」 南山堂 ②第12版改訂委員会, 大熊輝夫 [2013 年・8, 085 円] 「現代臨床精神医学」 金原出版		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	統合失調症 統合失調症の診断、生活障害、治療、リハビリテーション	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	講義	石井
2	成人のパーソナリティ・行動・性の障害 パーソナリティ、行動の障害、性の障害の概念、疫学、症状、診断、治療	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
3	心理発達の障害および精神遅滞 発達障害、精神遅滞の概念、疫学、診断、症状、治療	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
4	地域精神医療① 当事者(患者さん)による臨床講義	事前: 地域精神医療に関する情報収集 事後: 講義内容の復習	〃	(川村)・ 当事者・コ メディカ ルスタッ フ

5	地域精神医療② 当事者(患者さん)による臨床講義	事前：地域精神医療に関する情報収集 事後：講義内容の復習	〃	〃
6	精神科の歴史と法体制 精神保健福祉法、医療観察法、自立支援法	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	池田
7	臨床心理学と精神障害 精神医学と心理学の接点、公認心理師・臨床心理士の役割	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	(津山)
8	メンタルヘルスの問題 学校・職域でのメンタルヘルスに関する諸問題、自殺予防	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	石井

授業科目	老年医学	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	(垣内英樹) e-mail : kakiuchi-rok@sapporojikeikai.or.jp hkakiuchi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	齊藤正樹 (保健医療学研究棟 E513 号) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	本科目では、高齢者の医療や介護、福祉の実践に必要な高齢者の特徴、高齢者に特徴的な症候と疾患について学習する。具体的には、老化の概念と高齢者の身体及び精神機能的特徴を理解する。さらに、高齢期に生じる疾患の医学的治療法や、高齢期の諸問題に対する医学的マネジメント、認知症の原因、診断、治療法について学ぶ。		
到達目標	1. 老年期の身体と心理的な特徴を説明できる。 2. 老年期の身体障害と精神障害の特徴を説明できる。		
関連科目	内科学1・2、神経内科学、社会福祉学1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	期末定期試験	100%	筆記試験により評価する。
教科書	①指定なし		
参考書	①指定なし		
履修上の留意点	毎回、講義資料が配付されます。講義に使用する資料中のグラフや表データが、適時、最新のものに更新されるので、注意してください。また、講義内容が科目横断的に広がっています。加えて、講義回数は8回で1回あたりの内容量は多くなります。講義の理解を深めるために、出席に努めるようにしてください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	日本における高齢化社会の特徴 老化の概念、機構	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	講義	(垣内)
2	老化による身体の変化総論 老化による身体の変化各論(1)	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
3	老化による身体の変化各論(2) 感染症	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
4	栄養障害および摂食・嚥下障害(1)	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
5	栄養障害および摂食・嚥下障害(2)	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
6	老年症候群と要介護となる寝たきり	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
7	老化とがん	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
8	介護保険制度について	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃

授業科目	公衆衛生学	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	選択 選択

科目担当責任者	山本 武志 (保健医療学研究棟 E311) e-mail : t-yamamoto@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	私たちがとりまく物理学的環境、化学的環境、生物学的環境、社会的環境は人々の生理機能に影響を与え、健康、健康障害の発生に大きく関わっている。健康問題を環境との関わりから広く理解し、疾病の予防、健康増進を図るために良い環境とは何かを学ぶ。		
到達目標	1. 環境を生態学的にとらえ、人間をその中の一員として考えられる 2. 生物学的・化学的・物理学的環境要因と健康問題を理解し、その問題の今後の予防策について述べるができる 3. 環境測定の基礎について学び、科学的に適切な測定を実践できる力を身につける		
関連科目	疫学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	100%	提出物はレポート、グループワーク等の成果物とする。
教科書	①辻 一郎 [2024 年] 「シンプル衛生公衆衛生学」 南江堂		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	看護学科(2 年)の環境保健論と合同で行う場合がある		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション: 公衆衛生学/環境保健学の意義、歴史的 背景	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	講義	山本
2	地球環境と健康	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
3	化学的環境と健康	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
4	物理学的環境と健康	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
5	産業保健	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
6	学校保健	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
7	放射線と健康	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
8	公害と健康問題	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃

授業科目	救急医療総論	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護 理学 作業	選択 必修 必修

科目担当責任者	渡邊耕太 (保健医療学研究棟 E410 号) e-mail : wkota@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	根木 亨、横山和樹、田口裕紀子、小木曾寛樹、(成松英智)、(村中沙織)、(向谷怜奈)		
概要	急病や事故などの救急状況は思いもよらぬ時に起き、誰もが遭遇する可能性がある。特に医療者には、このような救急状況に遭遇したときに冷静に状況を判断し応急処置を行うことが期待される。本教科では、救急医療についての概念を学ぶとともに、救急状況にある患者と家族の特色と救急医療における理学療法士、作業療法士、看護師それぞれの役割を学ぶ。また、基本的な応急処置に必要な知識・技術について、実技・演習を通して身につけることをねらいとしている。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急医療システムと救急医療を必要とする対象の特性について説明できる。 2. 救急医療に関連した倫理的問題について考えることができる。 3. 救急医療における理学療法士、作業療法士、看護師の役割について説明できる。 4. 基本的な応急処置の方法を理解し実施できる。 		
関連科目	内部障害理学療法学、身体障害療法治療学、疾病治療論 2 など		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 授業態度：授業への集中度、質問や発言の状況
	筆記試験	70%	
	レポート	20%	
	授業態度	10%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	救急医療の概念 1 : 救急医学と救急医療システム	事前：救急医療に関する知識の整理 事後：配付資料の確認	講義	(成松) 他
2	救急医療の概念 2 : 重症救急病態 1 (循環不全、呼吸不全、中枢神経障害など)	事後：配付資料の確認	”	”
3	救急医療の概念 3 : 重症救急病態 2 (外傷、熱傷、精神科疾患など)	事後：配付資料の確認	”	渡邊
4	救急医療の概念 4 : 脳死と臓器提供に関わる倫理的問題	事後：配付資料の確認	”	(成松) 他
5	救急医療の概念 5 : 災害医療とその実際	事後：配付資料の確認	”	”
6	基本的な応急処置 1 : 固定法と止血法	事前：固定法、止血法に関する知識の整理	”	小木曾・横山

7	基本的な応急処置2： 熱中症と緊急処置	事前：応急処置に関する知識の整理	講義・ 演習	(村中)・ 小木曾
8	一次救命処置、AED のつかい方	事前：AED に関する知識の整理	”	(向谷)・ 田口・ 根木・ 横山・ 小木曾

授業科目	災害医療・保健活動論	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	秋原志穂 (保健医療学研究棟 E208 号) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	青木亜砂子、森元隆文、根木亨、(根本昌宏)、(上村修二)、(田村周子)、(工藤篤志)、(北海道危機対策課)、他		
概要	近年、災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している。本科目は、災害の種類や特性、災害が人々の生活や健康に及ぼす影響を理解し、保健医療専門職として、被災者の医療、生活支援を行うために必要な基礎的能力を養う。また、避難所運営演習では避難所で起こる様々な課題への対処を模擬体験し、被災者の健康管理のあり方の理解を図る。		
到達目標	1. 災害の定義、種類および災害発生の状況と法律・制度の変遷を説明できる。 2. 災害サイクルおよびフェーズの特徴、疾病との関連を説明できる。 3. 北海道における災害の特徴を説明できる。 4. 災害サイクル各期における医療や健康管理活動とチーム連携について説明できる。 5. 避難所運営について模擬体験し、避難所生活が健康に及ぼす影響について考察できる。		
関連科目	救急医療総論、災害看護		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	70%	レポート：毎回の授業後のミニッツレポート提出状況(30%)、最終レポートの提出状況と記載内容(40%) 演習：参加態度、グループワークへの貢献度についてルーブリックによる評価
	演習	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①小井土雄一・石井美恵子編著 [2017] 「多職種連携で支える災害医療 身につけるべき知識・スキル・対応力」 医学書院 ②大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会企画・編集 [2018] 「災害リハビリテーション標準テキスト」 歯葉出版 ③小原真理子監修 [2019] 「災害看護：心得ておきたい基本的な知識 改訂3版」 南山堂 ④榛沢和彦監修 [2018] 「別冊地域保健 いのちと健康を守る避難所づくりに活かす18の視点」 東京法規出版		
履修上の留意点	医療者として災害時に対応できる基礎的知識を習得し、災害時に活用できるように積極的に学修して欲しい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 災害および災害医療・保健活動の基本：災害の定義と分類およびその特性、災害発生の現状と活動の根拠となる法律・制度、災害サイクル・災害フェーズと疾病構造	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	講義	秋原 青木
2	北海道における災害と災害時の活動の実際 積雪寒冷地の災害の特徴	事前：北海道の災害について調べる 事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(根本)
3	災害発生時の医療活動とチーム連携	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(上村)
4	災害サイクルを通しての保健活動：災害時及び平常時の健康管理と地域の体制整備	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(田村)
5	災害時の健康管理1：被災住民の健康維持、障害者および高齢者の活動性の維持・改善	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(工藤)
6	災害時の健康管理2：災害時の心理変化とこころのケア	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	森元

7	避難所の運営 1 : Do はぐ(避難所運営ゲーム北海道版)	事前 : 配付資料を読む	演習	(北海道危機対策課)、青木、森元、根木、秋原
8	避難所の運営 2 : 避難所ゾーニング	事後 : ルーブリック評価、レポート課題	〃	〃

授業科目	臨床検査・薬理学	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	選択 必修

科目担当責任者	石井貴男 (保健医療学研究棟 E515 号) e-mail : ishitaka@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	石井貴男 (保健医療学研究棟 E515 号) e-mail : ishitaka@sapmed. ac. jp
担当教員	石井貴男、(菰澤慎也)、(盛合亮介)、(斎藤和)、(藤井博匡)、(久野篤史)、(館越勇輝)		
概要	リハビリテーションの臨床では病態を正確に把握するための臨床検査と各種非破壊画像診断技術は、対象者の治療を行う基盤となる知識であり、本講義ではその基礎について学ぶ。 また、薬物療法はリハビリテーション治療過程において最も考慮すべき要因の一つであり、患者の投薬状況を的確に把握できるように、薬物の性質と薬理作用についても学習する。		
到達目標	1. 通常の臨床検査技術について学び、正常値・異常値が説明できる。 2. 薬の作用様式や生体内動態、代謝について説明できる。 3. 臨床で用いられる代表的な薬の作用について学ぶ。		
関連科目	生理学1～3、精神医学1・2、内科学1・2、化学1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	①三木直正(監修) [-] 「薬理学電子教科書」 https://drugacademy.atlassian.net/wiki/spaces/PHARMACOLOGY/overview		
履修上の留意点	化学や生物学の基礎知識を必要とする学科であるので、生命の化学・生物学を予め履修しておく方が望ましい。 薬理学では講義の後に内容を復習して下さい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	臨床検査の種類と特性について	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	講義	(菰澤)
2	血液、一般、遺伝子、輸血検査について	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(盛合)
3	心電図測定と病態との関連について	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(斎藤)
4	MRI・CT について	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(藤井)
5	薬理学入門	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(久野)
6	循環器の薬理学	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(館越)
7	代謝の薬理学	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(久野)
8	神経系の薬理学	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	石井

授業科目	臨床栄養学	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	選択 必修

科目担当責任者	太田久晶 (保健医療学棟 E512 号) e-mail : hisoh@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	齊藤秀和 (保健医療学棟 E504 号) e-mail : hidekazu@sapmed. ac. jp
担当教員	青木亜砂子、(志賀一希)、(澤田篤史)、(長多好恵)、未定(大学附属病院管理栄養士4名)		
概要	臨床栄養とは、栄養科学および医療の原理を、栄養素の欠乏症、過剰症あるいは代謝の均衡異常によって生じた人の疾患の診断、治療、および予防のために応用することである。近年は食生活の変化から疾患構造が変化しており、生活習慣病の概念から、これまでの早期発見・早期治療から早期介入・疾患予防が目標とされている。それゆえリハビリテーションの立場から健康維持・増進や疾患予防を含めた、治療のための栄養に関する知識を学ぶ。		
到達目標	1. 栄養の基礎的知識を知る。 2. 食生活の変化に伴う身体的状況、疾病構造の変化を知る。 3. 健康維持・増進、疾病予防のために栄養学、薬と食物の関連について考える。 4. リハビリテーションに必要な栄養の知識について説明できる。 5. 病院における食事療法、栄養サポートチームの役割を知る。		
関連科目	内科学1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考 ・提出物：記載内容については、講義の中で説明する。
	筆記試験	80%	
	提出物	20%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	リハビリテーションを実践していく上で、栄養サポートチーム(NST)の一員として参加できる知識を習得する。 講義の順序が変更になる場合は、通知文等で周知する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	栄養学の基礎知識	事後：配布資料の復習	講義	(志賀)
2	薬物療法の基本 運動療法における薬物療法	〃	〃	(長多)
3	地域における栄養指導 生活習慣病・介護予防のための栄養指導	事前：生活習慣病の原因を予習する 事後：配布資料の復習	〃	青木
4	チームアプローチ 大学病院における栄養サポートチーム	事後：配布資料の復習	〃	附属病院 管理栄養 士
5	栄養指導 大学病院における栄養指導	〃	〃	〃
6	病院食 入院中の食事療法	〃	〃	〃
7	病態別の栄養学	事前：代謝・循環器疾患の食事について予習 事後：配布資料の復習	〃	〃

8	リハビリテーションに必要な栄養の知識	事前：運動と栄養について予習 事後：配布資料の復習	”	(澤田)
---	--------------------	------------------------------	---	------

授業科目	リハビリテーション医学	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	渡邊耕太 (保健医療学部研究棟 E410 号室) e-mail : e-mail : wkota@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(村上孝徳)、(青木昌弘)、太田久晶、(菅野敦哉)、(加藤正巳)、(岡 亨治)、(土岐めぐみ)		
概要	リハビリテーション医学の位置づけおよび歴史、および特質を理解し、さらに基礎となる医学的知識および診断、治療の方法論、代表的疾患のリハビリテーションについて学ぶ。		
到達目標	1. リハビリテーション医学の位置づけおよび特質を説明できる。 2. 代表的疾患について、主な徴候・所見・検査法の概略を説明できる。 3. 代表的疾患について、リハビリテーションの概略を説明できる。		
関連科目	運動器障害理学療法学、整形外科学、内科学、脳神経外科学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	授業態度	20%	授業への集中度、質問や発言の状況
	筆記試験	80%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	特に教科書や参考書は指定しない。講義順序や担当教員の変更がある場合はあらかじめ掲示板などで連絡する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	高次脳機能のリハビリテーション：高次脳機能障害、失語・失行・健忘・遂行機能障害の症候学、半側空間無視、失認、治療介入方法	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	講義	太田
2	スポーツ傷害のリハビリテーション：スポーツにおける外傷・障害の理解とそのリハビリテーション。運動器疾患の予防	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	渡邊
3	脳卒中のリハビリテーション：脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の治療とリハビリテーション	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	(岡)
4	整形外科疾患(四肢、脊柱)、疼痛症候群のリハビリテーション：整形外科疾患の治療とリハビリテーション、疼痛症候群への対応	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	(村上)
5	小児のリハビリテーション：脳性麻痺、二分脊椎、筋ジストロフィーのリハビリテーション	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	(土岐)
6	神経変性疾患のリハビリテーション：パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症等の変性疾患とリハビリテーション	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	〃
7	がんのリハビリテーション：がん患者の生活機能と生活の質の改善を目標とする医療ケア 嚥下障害のリハビリテーション：嚥下障害の基礎、評価、リ	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	(青木)

	ハビリテーション			
8	呼吸器のリハビリテーション 運動器(上肢)のリハビリテーション	事前：学習内容関連参考図書を用いた 予習 事後：講義内容の復習	〃	(管野)・ (加藤)

授業科目	社会福祉学	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	(川勾亜紀奈) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E413 号) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	日本の社会福祉の歴史を概観し、社会福祉の基本的な考え方を理解する。わが国における社会福祉の仕組み、考え方、現状の概要を学ぶ。また、医療従事者に必要な社会福祉関係の知識の獲得、チーム医療実践の必要性を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の概念・理念について説明できる。 2. 社会福祉の対象とその課題について説明できる。 3. 社会福祉の専門職について説明できる。 4. 医療専門職と社会福祉専門職との連携、チーム医療実践の必要性について説明できる。 		
関連科目	保健福祉行政論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	①大久保秀子 [2022 年・1,760 円] 「新・社会福祉とは何か(第4版)」 中央法規出版		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・私語等の授業の妨げとなる行為は厳禁とする。注意に従わない場合は教室からの退出を指示する場合がある。 ・出席の不正登録には厳正に対処する。 ・講義の進展等により学習内容が変更となる場合がある。毎回、講義資料を配布する。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	社会福祉の概念・理念と範囲	事前：シラバスの確認 事後：講義資料の重要項目の確認	講義	(川勾)
2	社会福祉の対象理解①－貧困・生活困窮者の福祉－	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
3	社会福祉の対象理解②－児童家庭福祉－	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
4	社会福祉の対象理解③－障がい児・者福祉－	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
5	社会福祉の対象理解④－高齢者福祉－	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
6	社会福祉の対象理解⑤－地域福祉－	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
7	ソーシャルワークの概念・理念と方法	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
8	社会福祉専門職 (社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士)	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃

授業科目	社会保障論	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	(佐橋克彦) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	池田 望 (保健医療学研究棟 E514 号) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	基本的人権としての生存権を保障する制度としての社会保障制度の概念、歴史、および保健・医療・福祉の体系と施策・制度の仕組みを学び、社会福祉・社会保障の機能や活用方法と課題について理解する。		
到達目標	1. 現代社会における社会保障の理念と意義につちえ述べるができる。 2. 社会保障制度の体系と概要について述べるができる。 3. わが国の年金保険・医療保険・介護保険などについて述べるができる。 4. 社会保障の実施体制と専門職の役割について述べるができる。		
関連科目	社会福祉学、作業療法管理学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	①川村匡由編著 [2020] 「社会保障」 健帛社		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	国民生活と社会保障 社会保障の概念と理念	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	講義	(佐橋)
2	少子高齢化の状況と社会保障の関係	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
3	社会保障給付の動向と近年の社会保障改革の概要	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
4	年金保険制度の歴史と概要、課題	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
5	医療保険制度の歴史と概要、医療供給システム	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
6	介護保険制度の背景と概要、課題	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
7	社会経済的観点からみた社会保障の今後の見通し	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
8	社会保障制度の統括	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃

授業科目	リハビリテーション概論	1 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護 理学 作業	選択 必修 必修

科目担当責任者	坂上真理 (保健医療学研究棟 E510 号) e-mail : todo@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	横山和樹、調整中、(土岐めぐみ)、(調整中)、(大槻美佳)、(佐藤由佳子)		
概要	リハビリテーションは、医学的リハビリテーションから社会福祉的、職業的なリハビリテーションまで広範な概念を含むもので、その実践にはさまざまな専門職がチームを組んで実践している。ここでは、領域を超えた包括的な視点に立って、リハビリテーションの概念とその実際について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・保健、福祉に於けるリハビリテーションの役割について述べるができる。 2. 国際障害分類を基本に障害者の評価とリハビリテーション介入方法を述べるができる。 3. リハビリテーション(医療)に参加する各専門職の役割についてチームワークの観点からその重要性を述べるができる。 4. リハビリテーション(医療)における社会福祉についてチームワークの観点から述べるができる。 		
関連科目	保健医療総論2、3、4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の撮影、録画を禁止する。 2. 出席の不正登録には厳正に対処する。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	リハビリテーション医療の構造(国際障害分類)とその実際	事前：特になし 事後：配付資料の整理	講義	(土岐)
2	リハビリテーションの理念・歴史と現状	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	〃
3	リハビリテーション看護の実際(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	(佐藤)
4	理学療法の実際(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	調整中
5	作業療法の実際 (チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	坂上
6	在宅・介護予防(チームワークの視点から) 地域リハビリテーションの実際	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	横山
7	言語障害の病態・診断・治療の実践(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	(大槻)
8	社会福祉論と社会資源の活用(チームワークの視点から) ケースワークの理念と実際(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	(調整中)

授業科目	臨床心理学	2,3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護2年 理学3年 作業3年	必修 必修 必修

科目担当責任者	(山本創) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	澤田いずみ (保健医療学研究棟 E207 研究室) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	<p>心理学には心の科学として様々な研究や理論が積み重ねられてきた歴史がある。臨床心理学はそれらを土壌としつつも、単に科学的な知見だけでは整理のつかない個別性と歴史性を持つ生身の人間のこころを対象としており、その人が人間関係や社会の中で生きているうちに抱えるに至った、こころの課題を理解し援助するための実践的学問である。</p> <p>本講義では今日の臨床心理士が、援助の対象となった方々のこころをどのように理解し、援助関係を紡いで、ご本人との共同作業としての援助をおこなっているのかについて、具体的な事例を交えながら講義を行う。</p> <p>援助の場面であれ、そうではない場面であれ、人が人を理解するという事は相手との関係性に基づいた営みである。だから本当に理解するためには、相手を理解することのみに留まらず、自分自身を理解し、自分と相手の関係性を理解し、二人が出会っている環境や社会を理解するという複眼的な思考が必要となる。本来、職種別を問わず対人援助職にはそのような視点が必要不可欠であり、本講義の受講が学生諸君にとってその獲得の第一歩となることを目指したい。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こころの発達過程について、授業内容に基づいた基本的な知識を説明できる。 2. 共感的理解とは何であるのか、授業内容を通して得た理解に基づいて説明できる。 3. 心理検査、心理療法、集団精神療法などの援助的な関わりについて、授業内容を通して得た理解に基づいて説明できる。 4. 講義を通して自らのこころの理解が深まったのなら、それを言語化することができる。 		
関連科目	人間関係論、心理学概論、倫理と哲学、文化人類学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	最終レポート	70%	
	ミニ・レポート	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	できるかぎり授業が双方向的なものになるよう、授業の終了間際に質問や感想についてのコメントペーパーを書いていただき、そのうちの幾つかについて次回授業冒頭でフィードバックします。私語、スマホいじりなどは謹んでいただきます。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	こころとはなんだろうか？ ～こころを「容器」あるいは「おまんじゅう」に例えて考えてみる～	事前：心理療法関連書物の一読 事後：レジュメ再読	講義	(山本)
2	こころが育つということ ～人は人間関係の中で人になる～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃

3	こころの援助のための対話の基盤 ～共感的理解とはなんだろうか～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
4	心の援助のための対話の基盤2 ～心理療法の事例を通して考える～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
5	こころは可視化できるか？ ～心理検査を用いてのこころの理解～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
6	集団とはなんだろうか？ ～集団力動、集団精神療法について～	事前：集団力動関連図書一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
7	こころと社会 ～こころの「容器」「環境」としての社会～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
8	援助者のこころ ～公と私、転移と逆転移、感情労働、そして自己理解についで～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レポート課題の準備	〃	〃

授業科目	人間関係論	1 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	選択

科目担当責任者	(川俣智路) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	澤田いづみ (保健医療学研究棟 E207 号) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	<p>「こちらはこんなに頑張って関わっているのに、なぜ受け入れてもらえないのだろうか」、「なぜこの同僚は私にこんなに批判的なのだろうか」。人が人に何かを働きかける、たとえば援助するときや共同で仕事をするときには、活動が円滑に進むかに加えて人間関係が上手く築けるかどうかが重要となってきます。人間とは、この人と人との関わりを通じて変容したり成長したりするのです。</p> <p>本講義では、援助、指導、協働などに関わる人間関係について体験的に理解し、専門職としての成長を目指すものです。</p>		
到達目標	<p>対人関係に関連する理論について理解し、他人に説明することができる</p> <p>自己理解、他者理解の方法を学び、対人関係に活かすことができる</p> <p>対人関係に関連する理論を応用して、ロールプレイや実習などに活かすことができる</p>		
関連科目	臨床心理学、倫理と哲学、文化人類学、国際社会論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	40%	試験は短答式と論述式です。ワークは授業内に複数回実施し、レポートはワークに関するもので、A4 用紙半分か 1 枚程度の分量です。ワークやその解説があるため、出席は前提となっています。
	ワーク	45%	
	レポート	15%	
教科書	指定なし		
参考書	<p>①川瀬正裕, 松本真理子 他 [1997 年・1700 円+税] 「新 自分さがしの心理学—自己理解ワークブッカー」 ナカニシヤ出版</p> <p>②川瀬正裕, 松本真理子 他 [2001 年・2400 円+税] 「これからの心の援助 役に立つカウンセリングの基礎と技法」 ナカニシヤ出版</p> <p>③平木典子 [2008 年・1300 円+税] 「人間関係が驚くほどうまくいくなりたいことがきちんと伝わるレッスン」 大和出版</p>		
履修上の留意点	<p>この授業では対人関係の理論や実践について体験的にワークを通して学ぶ時間があります。ワークに不安があるなど、様々な事情から評価基準を満たすことが難しい場合には、授業の目的や評価の基準が変わらないような、代替の評価方法を準備できる場合があります。希望者は初回の授業終了時まで担当教員に相談して下さい。</p> <p>担当教員についてのプロフィールは、教員情報のウェブサイトをご覧ください (https://goo.gl/c8kpEZ)。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	イントロダクション 事実と「ストーリー」の違い	事前： 「ナラティブ」について検索してくる 事後： 来週の演習ために授業内容を振り返る	講義	(川俣)
2	「ストーリー」の聞き方	事前： 事前資料を読んでくる 事後： 振り返りのレポートを書く	演習	〃
3	無知の姿勢 開かれた対人関係とは？	事前： 事前資料を読んでくる 事後： 紹介された文献に目を通す	講義	〃
4	自分について考える	事前： 事前資料を読んでくる 事後： 振り返りのレポートを書く	演習	〃
5	自己を知ることの意味を考える 私と集団の関係とは？	事前： 事前資料を読んでくる 事後： 紹介された文献に目を通す	講義	〃

6	言いたいことを伝える技術	事前：事前資料を読んでくる 事後：振り返りのレポートを書く	演習	〃
7	対人関係を円滑に進めるためのアサーティブな態度とは？	事前：事前資料を読んでくる 事後：紹介された文献に目を通す	講義	〃
8	援助における対人関係	事前：事前資料を読んでくる 事後：紹介された文献に目を通す	〃	〃

授業科目	社会と健康史	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護 理学 作業	必修 選択 選択

科目担当責任者	秋原志徳 (保健医療学研究棟 E208 号) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	水口徹、船木祝、(菊地和美)、(高橋智美)他		
概要	医療とそれを取りまく社会情勢が目まぐるしく変化するなか、医療と社会のつながりを理解することが求められている。人の健康は経済や戦争といったその時代・国の文化、社会情勢により影響され、医療職もまたその影響を受けて発展してきた。本科目は、医学の歴史とともに、医療と関わり深い社会問題を学び、人々の健康生活は社会にどのような影響を受けているのか、医療はどのような社会を背景に発展してきたのかを理解することを目的とする。そして、各職種立場から人々の健康と生活・権利を守るための社会の在り方を考えることを目指している。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学の発展・変遷の背景にあった社会の歴史について概要を説明できる。 2. 戦争が人々の健康と医療に与える影響について概要を説明できる。 3. 薬害(エイズ、肝炎など)やハンセン病などの社会問題について概要を説明できる。 4. 優生保護法の歴史について概要を説明できる。 5. 医療と社会の歴史を学び、これからの医療について意見交換できる。 		
関連科目	社会学概論、文化人類学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	ミニレポート	40%	講義ごとのミニレポートは、各コマ5点配分とし、講義終了時に毎回提出する。最終レポートは、授業中にテーマを提示する。
	最終レポート	60%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	主体的に学修してください。出欠席は自己管理し、注意を受けないようにしてください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 社会と健康	事前：自己の学習目標を明確にする 事後：身近にある健康と社会との関連について考える	講義	秋原
2	医学の歴史：手術の歴史	事前：医学の歴史に関する文献を読む 事後：講義の関連文献を読む	〃	水口
3	戦争と医療	事前：ナチスドイツによる戦争犯罪について調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	船木
4	感染症と社会 - ハンセン病 -	事前：ハンセン病に関して調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	(菊地)
5	薬害問題と社会 - 薬害エイズ -	事前：薬害エイズに関して調べる 事後：薬害の関連文献を読む	〃	秋原他
6	優生保護法の歴史 - 障害者に対する強制不妊手術 -	事前：旧優生保護法について調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	(高橋)

7	緩和医療の歴史	事前：ホスピスの歴史について調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	船木
8	これからの医療のあり方	事前：将来的な医療に関して調べる 事後：これからの医療在り方についての文献を読む	〃	秋原

授業科目	身体適応学	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	山田崇史 (保健医療学研究棟 E407 号) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	菅原和広、岩本えりか、根木亨		
概要	様々な物理刺激ならびに運動刺激が身体に及ぼす生理反応や身体適応の基礎について学習する。これらの包括的な理解は、理学療法の中核的役割を担う運動療法を科学的に治療手段として適用するうえで不可欠である。当該科目では、適切な運動療法を実施するために必要な基礎理論ならびに基本的な治療技術について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法における基礎理論を説明することができる。 2. 種々の疾患、障がい者に対する運動の効果の説明ができる。 3. 種々の疾患、障がい者に対する効果的な運動療法を立案することができる。 		
関連科目	運動生理学、物理療法学、運動器障害理学療法学、神経障害理学療法学、内部障害理学療法学、発達障害理学療法学、高齢者理学療法学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	60%	
	レポート	40%	
教科書	①市橋則明 編 [2014 年] 「運動療法学(第2 版)」 文光堂 ②日本体力医学会体力科学編集委員会 監訳 [2002 年] 「運動処方指針(原書第8 版)」 南江堂		
参考書	①奈良勲 編集 [2002 年] 「運動処方マニュアル」 文光堂		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	運動療法の意義、運動処方の基礎	事前：運動生理学の復習	講義	山田
2	演習①リスク管理(運動中止基準、安静時・運動時の血圧測定)	事前：運動生理学の復習	講義・演習	岩本・根木
3	演習②最大下運動負荷試験	事前：運動生理学の復習	演習	山田
4	演習③基本的な運動処方の実践	事前：運動生理学の復習	〃	〃
5	筋力強化運動の基礎	事前：これまでの学習の復習	講義	〃
6	演習④筋力強化を目的とした運動療法の立案	事前：運動生理学の復習	演習	〃
7	演習⑤筋力強化を目的とした運動療法の実践	事前：解剖学、運動学の復習	〃	〃
8	脳卒中片麻痺に対する運動の効果	事前：これまでの学習の復習	講義	菅原
9	演習⑥末梢神経刺激を用いた電気生理学的測定	事前：生理学の復習	演習	〃
10	演習⑦中枢神経刺激を用いた電気生理学的測定	事前：運動学の復習	〃	〃

11	運動負荷試験の基礎・データの解釈	事前：解剖学, 運動学の復習	講義	岩本
12	演習⑧運動時の呼気ガス分析・最大酸素摂取量の測定	事前：解剖学, 運動学の復習	演習	岩本・根木
13	演習⑨運動時の呼気ガス分析・最大酸素摂取量の測定	事前：運動生理学の復習	〃	〃
14	呼吸循環機能の向上を目的とした運動処方	事前：解剖学, 生理学の復習	講義	岩本
15	ロコモティブ症候群に対する運動の効果	事前：これまでの学習の復習	講義	山田

授業科目	日常生活活動学	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	井平光 (保健医療学研究棟 E402 号) e-mail : ihira@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田代英之		
概要	日常生活動作(ADL)とは人間の諸活動を支える基本的活動であり、その意義と把握の仕方を理解するための評価指標を学習する。とくに、国際的に使用され臨床的にも使用頻度の多いADL 評価指標を学習する。また、起き上がりや立ち上がりなどの基本動作の評価や、食事やトイレ動作を含むADL 動作の評価方法を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ADL とは何かを概念的に説明できる 2. ADL の構造を理解し、代表的な評価方法を学習し、実践できる 3. 基本動作能力と ADL の関係を理解し、基本動作の評価ができる 4. ADL 動作の捉え方を学習し、ADL 動作の評価ができる 		
関連科目	日常生活活動学演習、運動学、地域理学療法学、神経障害理学療法学、高齢者理学療法学、臨床実習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	評価は筆記試験(100%)によって行う。
教科書	①鶴見 隆正 / 隆島 研吾 編集 [2021] 「標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版」医学書院		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	これまでに受講した関連の深い領域の復習を十分に行って本講義を受講する事が求められる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ADL の概念と意義	事前：配布資料の抄読 事後：講義・配付資料の復習	講義	井平
2	ADL 評価の基礎	事前：配布資料の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	〃
3	Barthel Index	事前：配布資料の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	〃
4	Functional Independence Measure (運動項目)	事前：配布資料の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	田代
5	Functional Independence Measure (認知項目)	事前：配布資料の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	〃
6	基本動作の理解1	事前：配布資料の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	〃
7	基本動作の理解2	事前：配布資料の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	〃
8	日常生活活動のまとめ	事前：配布資料の抄読後：講義・配付資料の復習	〃	井平

授業科目	日常生活活動学演習	3 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	井平光 (保健医療学研究棟 E402 号) e-mail : ihira@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	佐々木健史、田代英之、(濱本龍哉)、(安田圭佑)、(山本昌明)		
概要	これまでに学習した理学療法評価学系と日常生活動作(ADL)評価学系の知識を統合し、様々な疾患をベースにした患者のADLの観察およびその支援について学習する。ADLを支援するための具体的な手段についての学習を深めるとともに、包括的な観点からADLを支援する必要性を理解する。さらに、症例検討の演習を通して実践的にADLの支援方法を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ADLの評価指標を用いて、統合的な解釈ができる 2. 基本動作の仕組みとその一般的な支援を実践できる 3. 疾患を有する患者や高齢者のADL支援の考え方を立案できる 4. ADL支援の具体的な手段を提案できる 		
関連科目	日常生活活動学、運動学、地域理学療法学、神経障害理学療法学、高齢者理学療法学、臨床実習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	評価は筆記試験(100%)によって行う。
教科書	①鶴見 隆正 / 隆島 研吾 編集 [2021] 「標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版」 医学書院		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	日常生活活動学における基本的な事項の復習を十分に行って受講する事が求められる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ADL 支援について	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	講義・演習	井平
2	起居動作の観察とその支援方法	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
3	動作支援の補助具の種類と適応	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
4	ADL 支援のまとめ	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
5	動作分析の実際と演習 1	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	田代
6	動作分析の実際と演習 2	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
7	片麻痺患者に対する ADL 支援 1	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	(濱本)
8	片麻痺患者に対する ADL 支援 2	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
9	難病患者に対する ADL 支援 1	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	(安田)

10	難病患者に対するADL支援2	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
11	脊髄損傷者のADL支援1	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	(山本)
12	脊髄損傷者のADL支援2	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
13	在宅でのADL支援1	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	佐々木
14	在宅でのADL支援2	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
15	症例検討	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	井平

授業科目	理学療法基礎セミナー1	3 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E413 号) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	理学療法学科全教員		
概要	理学療法の専門領域を学ぶためのリテラシーの形成と醸成をはかる。各テーマに基づく専門用語とメカニズムを学習し、専門雑誌を独力で読む能力を養成する。また、数種の論文をまとめて、簡単なレビューとして記述することを学ぶ。さらに、収集した情報を整理・分析し、ある意図をもってプレゼンテーション資料を作成し、それをもとに発表する。これらの活動を通して、理学療法領域の研究の概要を把握し、それぞれの専門領域の知識を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各セミナーのテーマに沿った知識を深め、疑問や問題点を解決するための手段を説明できる。 2. 各セミナーのテーマに応じた論文を読むことができる。 3. 数種の論文をまとめて簡単なレビューを作成することができる。 4. 情報収集や分析を行い、それをまとめてプレゼンテーション資料を作成することができる。 5. 作成したプレゼンテーション資料をもとに適切に発表できる。 		
関連科目	理学療法研究法、理学療法基礎セミナー2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	学習過程(発表)	50%	
	成果物	50%	
教科書	指定なし		
参考書	①木原雅子, 木原正博 訳 [2014 年] 「医学的研究のデザイン」 メディカル・サイエンス・インターナショナル		
履修上の留意点	詳細は担当教員の指示による		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	授業の進め方のガイダンス、卒業研究に向けたプロセス	担当教員の指示による	講義・演習・実験など	全教員
2	研究リテラシーの醸成	担当教員の指示による	〃	〃
3	研究リテラシーの醸成	担当教員の指示による	〃	〃
4	研究リテラシーの醸成	担当教員の指示による	〃	〃
5	研究リテラシーの醸成	担当教員の指示による	〃	〃
6	クリティカルレビューの方法と実践	担当教員の指示による	〃	〃
7	クリティカルレビューの方法と実践	担当教員の指示による	〃	〃
8	クリティカルレビューの方法と実践	担当教員の指示による	〃	〃

9	クリティカルレビューの方法と実践	担当教員の指示による	〃	〃
10	クリティカルレビューの方法と実践	担当教員の指示による	〃	〃
11	興味、関心領域についての要約と発表	担当教員の指示による	〃	〃
12	興味、関心領域についての要約と発表	担当教員の指示による	〃	〃
13	興味、関心領域についての要約と発表	担当教員の指示による	〃	〃
14	興味、関心領域についての要約と発表	担当教員の指示による	〃	〃
15	興味、関心領域についての要約と発表	担当教員の指示による	〃	〃

授業科目	理学療法基礎セミナー2	3 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E413 号) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	理学療法学科全教員		
概要	理学療法の専門領域を学ぶためのリテラシーの形成と醸成をはかる。各テーマに基づく専門用語とメカニズムを学習し、専門雑誌を独力で読む能力を養成する。また、数種の論文をまとめて、簡単なレビューとして記述することを学ぶ。さらに、収集した情報を整理・分析し、ある意図をもってプレゼンテーション資料を作成し、それをもとに発表する。これらの活動を通して、理学療法領域の研究の概要を把握し、それぞれの専門領域の知識を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各セミナーのテーマに沿った知識を深め、疑問や問題点を解決するための手段を説明できる。 2. 各セミナーのテーマに応じた論文を読むことができる。 3. 数種の論文をまとめて簡単なレビューを作成することができる。 4. 情報収集や分析を行い、それをまとめてプレゼンテーション資料を作成することができる。 5. 作成したプレゼンテーション資料をもとに適切に発表できる。 		
関連科目	理学療法基礎セミナー1、理学療法学研究		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	学習過程(発表)	50%	
	成果物(研究計画書)	50%	
教科書	指定なし		
参考書	①木原雅子, 木原正博 訳 [2014 年] 「医学的研究のデザイン」 メディカル・サイエンス・インターナショナル		
履修上の留意点	詳細は担当教員の指示による		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	授業の進め方のガイダンス、卒業研究に向けたプロセス	担当教員の指示による	講義・演習・実験など	全教員
2	クリティカルレビューの方法と実践	担当教員の指示による	〃	〃
3	クリティカルレビューの方法と実践	担当教員の指示による	〃	〃
4	興味、関心領域についての要約と発表	担当教員の指示による	〃	〃
5	興味、関心領域についての要約と発表	担当教員の指示による	〃	〃
6	計画書(案)の作成	担当教員の指示による	〃	〃
7	計画書(案)の作成	担当教員の指示による	〃	〃
8	計画書(案)の作成	担当教員の指示による	〃	〃

9	計画書(案)の作成	担当教員の指示による	〃	〃
10	計画書(案)の作成	担当教員の指示による	〃	〃
11	計画書(案)の作成	担当教員の指示による	〃	〃
12	計画書(案)の作成	担当教員の指示による	〃	〃
13	計画書(案)の作成	担当教員の指示による	〃	〃
14	計画書(案)の作成	担当教員の指示による	〃	〃
15	計画書(案)の作成	担当教員の指示による	〃	〃

授業科目	理学療法学研究	4 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	山田崇史 (保健医療学研究棟 E407 号) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	理学療法学科全教員		
概要	理学療法の専門領域および理学療法基礎セミナー1・2 で学んだ知識を基盤に各指導教員の下で研究・専門的探求テーマを設定する。研究の一連のプロセス(すなわちテーマに関する情報収集、仮説立案、方法の構築、データ収集と分析、結果および考察)や、システムティックに実施される高度な専門的知識の学習や整理(レビュー)を通して、科学的・論理的思考と研究リテラシーの醸成をはかる。理学療法研究はチュートリアルに近い少人数によるセミナー形式で行われ、学生自身の主体的な参加と研究態度が望まれる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを設定し、それに基づき実験・調査を実施し、適切な手続きによって結果を要約・分析して、それを通して1つの結論を導くことができる。 2. 専門的探求テーマを設定し、それに基づき計画的に知的探究活動(専門的情報収集も含む)を行い、エビデンスに基づくレビューとそれに対する結論を導くことができる。 3. 課題の帰結に基づき、適切なプレゼンテーションの資料を作成し発表できる。 4. 課題の帰結に基づき、論文(レビューも含む)形式にまとめることができる。 		
関連科目	理学療法研究法、理学療法基礎セミナー1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	発表	50%	
	論文	50%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	詳細は担当教員の指示による		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	授業の進め方のガイダンス、論文のまとめ方	担当教員の指示による	講義・演習・実験など	全教員
2	研究テーマの焦点化と研究仮説形式に向けたレビュー	〃	〃	〃
3	研究テーマの焦点化と研究仮説形式に向けたレビュー	〃	〃	〃
4	研究テーマの焦点化と研究仮説形式に向けたレビュー	〃	〃	〃
5	研究テーマの焦点化と研究仮説形式に向けたレビュー	〃	〃	〃
6	研究テーマの焦点化と研究仮説形式に向けたレビュー	〃	〃	〃
7	研究テーマの焦点化と研究仮説形式に向けたレビュー	〃	〃	〃

8	研究テーマの焦点化と研究仮説形式に向けたレビュー	〃	〃	〃
9	研究テーマの焦点化と研究仮説形式に向けたレビュー	〃	〃	〃
10	研究テーマの焦点化と研究仮説形式に向けたレビュー	〃	〃	〃
11	仮説立案と研究デザインの構築	〃	〃	〃
12	仮説立案と研究デザインの構築	〃	〃	〃
13	仮説立案と研究デザインの構築	〃	〃	〃
14	仮説立案と研究デザインの構築	〃	〃	〃
15	仮説立案と研究デザインの構築	〃	〃	〃
16	仮説立案と研究デザインの構築	〃	〃	〃
17	仮説立案と研究デザインの構築	〃	〃	〃
18	仮説立案と研究デザインの構築	〃	〃	〃
19	仮説立案と研究デザインの構築	〃	〃	〃
20	仮説立案と研究デザインの構築	〃	〃	〃
21	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
22	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
23	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
24	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
25	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
26	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
27	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
28	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
29	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
30	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃

31	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
32	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
33	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
34	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
35	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
36	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
37	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
38	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
39	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
40	研究方法の具現化(実験または調査)とデータ収集	〃	〃	〃
41	データ分析と要約およびプレゼンテーション技法	〃	〃	〃
42	データ分析と要約およびプレゼンテーション技法	〃	〃	〃
43	データ分析と要約およびプレゼンテーション技法	〃	〃	〃
44	データ分析と要約およびプレゼンテーション技法	〃	〃	〃
45	データ分析と要約およびプレゼンテーション技法	〃	〃	〃
46	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
47	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
48	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
49	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
50	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
51	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
52	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
53	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃

54	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
55	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
56	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
57	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
58	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
59	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃
60	研究論文作成と研究成果の発表	〃	〃	〃

授業科目	理学療法概論	1 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E413 号) e-mail : ktani@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田代英之、(柿澤雅史)、(菅野教哉)、(鎌塚香央理)、(藤澤真博)、他理学療法学科教員		
概要	これから理学療法を志す学生達と共に理学療法の理念、倫理、歴史を学びつつ、医療人としての理学療法士はどのような人間像が望まれているのか、社会が我々に何を期待しているのかなどを考える。また、医学的リハビリテーションの中で果たすべき役割を自覚し、リハビリテーションに関与する他の職種、職域を理解しリハビリテーションチームの円滑な運営方法について討議する。専門教員が理学療法の面白さについて講義する。		
到達目標	将来、自分が理学療法士になった時の姿を述べるができる。 理学療法士助手の体験をし、その報告をすることができる。		
関連科目	リハビリテーション概論・臨床実習 1		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	70%	
	レポート	30%	
教科書	①細田多穂(監) [2017 年] 「理学療法概論テキスト改訂第 3 版」 南江堂		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	医療施設(附属病院)での体験を含むので、個人情報の取り扱いと体調管理に十分留意すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス・アイスブレイク・自己紹介の後、各自の志望動機を発表する。	事前：自己紹介等の準備	討論	谷口・田代
2	理学療法って何だろう(歴史、定義、各種技術など)? 理学療法の役割(臨床や研究の現状)	事前：教科書該当部分の抄読 事後：講義抗議内容の要約作成	講義	谷口
3	理学療法士に関する法律 理学療法士に求められる使命、倫理	事前：教科書該当部分の抄読 事後：講義抗議内容の要約作成	〃	谷口・田代
4	理学療法士の活躍の場(医療の現場、保健福祉の現場、教育研究の現場、スポーツの現場)	事前：教科書該当部分の抄読 事後：講義抗議内容の要約作成	〃	谷口
5	専門領域別理学療法業務の理解(1)	事前：なし 事後：講義内容の要約作成	〃	理学療法 学科教員
6	専門領域別理学療法業務の理解(2)	事前：なし 事後：講義内容の要約作成	〃	〃
7	専門領域別理学療法業務の理解(3)	事前：なし 事後：講義内容の要約作成	〃	〃
8	専門領域別理学療法業務の理解(4)	事前：なし 事後：講義内容の要約作成	〃	〃
9	札幌医科大学附属病院での理学療法士体験のためのガイダンス 個人情報の取り扱いに関する説明	事前：なし 事後：配付資料の整理	〃	谷口・田代
10	附属病院での理学療法士助手の体験(A グループ) 理学療法対象疾患の学習(B, C, D グループ)	事前：総合リハビリテーションの概観 事後：各種資料の整理	演習・ グループ	(柿澤)

			ワーク	
11	附属病院での理学療法士助手の体験(Bグループ) 理学療法対象疾患の学習(A, C, Dグループ)	事前：総合リハビリテーションの概観 事後：各種資料の整理	〃	(菅野)
12	附属病院での理学療法士助手の体験(Cグループ) 理学療法対象疾患の学習(A, B, Dグループ)	事前：総合リハビリテーションの概観 事後：各種資料の整理	〃	(鎌塚)
13	附属病院での理学療法士助手の体験(Dグループ) 理学療法対象疾患の学習(A, B, Cグループ)	事前：総合リハビリテーションの概観 事後：各種資料の整理	〃	(藤澤)
14	理学療法士体験の報告、その共有と討論(1)	事前：体験内容の資料作成	討論	谷口・田代
15	理学療法士体験の報告、その共有と討論(2)	事後：討論内容の要約作成	〃	〃

授業科目	理学療法管理・政策学	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	片寄正樹 (保健医療学研究棟 E409 号) e-mail : katayose@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(柿澤雅史)、(濱本龍哉)、(小岩幹)、(佐々木雄一)		
概要	理学療法士としての職業倫理、および臨床におけるリスク管理について理解するとともに、病院、施設の組織および理学療法施設基準、診療報酬等を含む理学療法部門の管理・運営について学ぶ。また、理学療法の知識・技術の更なる社会還元を目的とした行政施策への関わりを学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士としての職業倫理について理解し、説明できる。 2. 医療事故の原因となる背景や要因、原因を理解するとともに、事故発生予防につながるリスク管理を説明できる。 3. 理学療法の実施に必要な管理運営手続きについて説明できる。 4. 理学療法を広く市民の健康保持に役立てるための行政や施策との関連性について意見を述べるができる。 		
関連科目	理学療法概論、臨床実習 1、臨床実習 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	①細田多穂(監) [2023 年] 「理学療法概論テキスト改訂第 4 版」 南江堂		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	事前学習はその回のキーワードについて記してあります。少なくともその定義については学習して授業に参加すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	理学療法のマネジメント概論	事前：マネジメントに関する自己学習	講義	片寄
2	理学療法士の専門職倫理	事前：医療の中の倫理に関する自己学習	〃	片寄
3	理学療法部門の管理運営	事前：医療、介護領域の施設種別に関する自己学習	〃	(濱本)
4	理学療法業務におけるリスク管理	事前：リスクの種別に関する自己学習	〃	〃
5	理学療法部門における労務管理とキャリア形成	事前：キャリア形成に関する自己学習	〃	(小岩)
6	理学療法施設の施設基準と診療報酬	事前：診療報酬に関する自己学習	〃	(柿澤)
7	理学療法診療管理システム	事前：Hospital Automation に関する自己学習	〃	(佐々木)
8	行政施策と理学療法	事前：理学療法士の行政職種に関する自己学習	〃	片寄

授業科目	理学療法評価診断学 1	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E413 号) e-mail : ktani@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	戸田創		
概要	評価とは、種々の検査・測定を通じ情報収集し、その結果を統合・解釈することで、対象者のもつ障害とその程度を把握する一連の過程をいう。この過程は、理学療法において効果的な治療を実施するうえで極めて重要な位置を占める。本講義では、理学療法評価の目的と意義を理解するとともに、評価過程の 1 つである 種々の検査・測定のうち、形態計測法、関節可動域検査法および徒手筋力検査法に關しての基礎理論と技術を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法における評価の意義と目的を説明できる。 2. 形態計測の意義と具体的手法を説明し、基本的検査手技を実施できる。 3. 関節可動域検査法の意義と具体的手法を説明し、代表的な関節の基本的検査手技を実施できる。 4. 徒手筋力検査法の意義と具体的手法を説明し、代表的な関節の基本的検査手技を実施できる。 5. 各検査の結果から左右差や個体差を解釈し、その要因を推察できる。 		
関連科目	運動学 1、理学療法評価診断学 2、臨床実習 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	①千住秀明監修 [2016 年] 「理学療法評価法 第 3 版」 神陵文庫 ②Dale Avers 他著(津山直一他訳) [2020 年] 「新・徒手筋力検査法 原著第 10 版」 協同医書		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	演習は、触診や検査手技の実施に適したシャツ、短パン等の露出が可能な服装を準備すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	理学療法評価の目的と意義	事前：理学療法概論の関連内容を復習	講義	谷口
2	形態測定(肢長の計測)	事前：筋骨格の解剖学の復習、事後：検査内容の復習	講義・演習	〃
3	形態測定(周径の計測)	事前：筋骨格の解剖学の復習、事後：検査内容の復習	〃	〃
4	形態測定のまとめ	事前：各形態計測法の総復習	〃	〃
5	関節可動域検査の概念①	事前：関節運動学の復習	〃	谷口・戸田
6	関節可動域検査の概念②	事前：関節運動学の復習	〃	〃
7	股関節の可動域検査①	事前：テキストの関連内容の予習、事後：検査内容の復習	〃	〃
8	股関節の可動域検査②	事前：テキストの関連内容の予習、事後：検査内容の復習	〃	〃

9	膝関節の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
10	関節可動域検査のまとめ	事前:各可動域検査法の総復習	〃	〃
11	徒手筋力検査の概念①	事前:骨格筋の構造・筋力の生理学の復習	〃	〃
12	徒手筋力検査の概念②	事前:骨格筋の構造・筋力の生理学の復習	〃	〃
13	股関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
14	膝関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
15	徒手筋力検査のまとめ	事前:各筋力検査法の総復習	〃	〃

授業科目	理学療法評価診断学 2	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E413 号) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	戸田創		
概要	評価とは、種々の検査・測定を通じ情報収集し、その結果を統合・解釈することで、対象者のもつ障害とその程度を把握する一連の過程をいう。この過程は、理学療法において効果的な治療を実施するうえで極めて重要な位置を占める。本科目では、理学療法評価診断学 1 で学んだ基礎理論や代表的な検査手技を応用し、臨床場面で実施する機会の多い四肢・体幹における種々の関節可動域検査法および徒手筋力検査法についての理論と技術を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節可動域検査法の意義と具体的手法を説明し、各関節の基本的検査手技を実施できる。 2. 徒手筋力検査法の意義と具体的手法を説明し、各関節の基本的検査手技を実施できる。 3. 各検査の代表的な代償運動や別法を説明し、臨床場面を想定した肢位で検査手技を応用的に実施できる。 4. 特定の部位に求められる形態測定、関節可動域検査および徒手筋力検査を選択し、一連の検査手技を統合しながら実施できる。 5. 関節可動域検査および徒手筋力検査法の検査結果に影響しうる様々な原因を考察できる。 		
関連科目	運動学 1、理学療法評価診断学 1、臨床実習 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	試験	100%	
教科書	①千住秀明監修 [2016 年] 「理学療法評価法 第 3 版」 神陵文庫 ②Dale Avers 他著(津山直一他訳) [2020 年] 「新・徒手筋力検査法 原著第 10 版」 協同医書		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	演習は、触診や検査手技の実施に適したシャツ、短パン等の露出が可能な服装を準備すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	足関節の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	講義・演習	谷口
2	肩関節の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
3	肘関節の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
4	手関節の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
5	体幹・頸部の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
6	関節可動域検査のまとめ①	事前:各可動域検査法の総復習	〃	谷口・戸田
7	関節可動域検査のまとめ②	事前:各可動域検査法の総復習	〃	〃
8	足関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	谷口

9	肩関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
10	肘関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
11	手関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
12	体幹・頸部の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
13	徒手筋力検査のまとめ①	事前:各筋力検査法の総復習	〃	谷口・戸田
14	徒手筋力検査のまとめ②	事前:各筋力検査法の総復習	〃	〃
15	理学療法評価の総括	事前:各検査法の基礎理論の総復習	〃	〃

授業科目	運動器障害理学療法評価学	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	戸田 創 (保健医療学研究棟 E401 号) e-mail : toda.h@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	片寄正樹、谷口圭吾、青木信裕、(河合誠)、(加藤拓也)		
概要	運動器障害に対する理学療法評価を総合的に学習する。運動器障害における機能障害の評価・診断の理論と実際について学習するとともに、病態から考える理学療法を進める上でのリスク管理についても理解を深める。		
到達目標	1. 運動器障害における機能障害の系統的評価の進め方を理解する。 2. 評価に必要な触診や各種検査手技を実施できる。 3. 運動器障害に対する理学療法を進める上でのリスク管理について配慮できる。		
関連科目	理学療法評価診断学、整形外科学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	90%	・レポート課題提出物(10点分)と筆記試験(90点分)により評価する。 ・提出物は提出状況、および内容の目標到達状況により評価する。 ・筆記試験は定期試験の結果に基づき評価し、6割以上を単位認定の条件とする。
	レポート課題	10%	
教科書	指定なし		
参考書	①山下敏彦 監修 [2019年・3,700円+税] 「PT・OTのための画像のみかた 第2版」 金原出版 ②David J. Magee [2023年・12,100円] 「運動器リハビリテーションの機能評価-原著第7版- 1,2巻」 ELSEVIER ③加藤浩 編集 [2020年・6,500円+税] 「Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学」 MEDICAL VIEW		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	運動器障害理学療法評価学総論	事前:整形外科学・理学療法評価診断学の復習 事後:ワークシート	講義	片寄・戸田
2	機能評価診断と治療計画	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	講義	戸田
3	Alignment 評価(1) 姿勢分析・静的アライメント	事前:姿勢アライメント計測 事後:レポート作成	講義・演習	〃
4	Alignment 評価(2) 動的アライメント	事前:動的アライメント計測 事後:レポート作成	〃	〃
5	Mobility 評価	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	(加藤)
6	Stability 評価(1) EMG 基礎	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	青木
7	Stability 評価(2) EMG 応用	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	〃
8	Stability 評価(3) 臨床評価	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	戸田
9	Performance 評価	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	〃

10	運動器における超音波画像診断	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	講義	谷口
11	運動器障害の病態と検査(1) 上肢	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	講義・演習	戸田
12	運動器障害の病態と検査(2) 下肢 1	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	(河合)
13	運動器障害の病態と検査(3) 下肢 2	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	〃
14	運動器障害の病態と検査(4) 体幹	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	戸田
15	ADL 評価・リスクマネジメント	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	青木

授業科目	神経障害理学療法評価学	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	菅原和広 (保健医療学研究棟 E404 号) e-mail : kaz.sugawara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	佐々木健史		
概要	理学療法評価の目的は、種々の検査・測定を通じて情報収集を行い、その結果を統合・解釈することで、対象者が有する障害とその程度を把握することである。当該科目では、神経障害を有する対象者に対する検査の目的と意義を理解し、病態に応じた的確かつ正確な検査法を実践するための基礎理論と技術を学ぶ。さらに、具体的な症例に関する評価を通じて、理学療法の方針決定につながるプロセスを学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経学的検査の臨床的意義や目的を説明できる。 2. 検査を実施する際の留意点を説明できる。 3. 対象者の病態に応じた的確で正確な検査を実施し、正確に記録できる。 4. 検査結果を統合・解釈し、障害像を適切に評価できる。 5. 代表的な病態を理解した上で、一連の検査と評価を実施できる。 		
関連科目	神経障害理学療法学、臨床実習 2、神経内科学、生理学 3		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	テスト	100%	
教科書	①医療情報科学研究所 編集 [2017 年] 「病気がみえる Vol. 7 脳・神経 第 2 版」 メディックメディア ②千住秀明監修 [2011 年] 「理学療法評価法 第 3 版」 神陵文庫		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション, 腱反射 1	事前:教科書の予習 事後:検査・評価法の復習	講義・演習	菅原
2	腱反射 2, 病的反射	事前:教科書の予習 事後:検査・評価法の復習	〃	〃
3	感覚検査 1	事前:教科書の予習 事後:検査・評価法の復習	〃	〃
4	感覚検査 2	事前:教科書の予習 事後:検査・評価法の復習	〃	〃
5	筋緊張検査, 協調性検査	事前:教科書の予習 事後:検査・評価法の復習	〃	佐々木
6	姿勢バランス, 姿勢反射反応検査 1	事前:教科書の予習 事後:検査・評価法の復習	〃	〃
7	姿勢バランス, 姿勢反射反応検査 2	事前:教科書の予習 事後:検査・評価法の復習	〃	〃
8	パフォーマンステスト	事前:教科書の予習 事後:検査・評価法の復習	〃	〃

9	脳神経検査1	事前：解剖学・生理学の復習	〃	菅原
10	脳神経検査2	事前：解剖学・生理学の復習	〃	〃
11	高次・認知機能検査	事前：教科書の予習 事後：検査・評価法の復習	〃	〃
12	片麻痺機能検査1	事前：教科書の予習 事後：検査・評価法の復習	〃	〃
13	片麻痺機能検査2	事前：教科書の予習 事後：検査・評価法の復習	〃	〃
14	神経障害系理学療法評価復習1	事前：病態に関する予習	〃	菅原・ 佐々木
15	神経障害系理学療法評価復習2	事前：病態に関する予習	〃	〃

授業科目	内部障害理学療法評価学	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	岩本えりか (保健医療学研究棟 E403) e-mail : e.iwamoto@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	片寄正樹、根木亨、井平光		
概要	身体運動を遂行するためには、呼吸循環機能による酸素運搬系と二酸化炭素排出系の円滑かつ総合的な働きが必要となる。本科目においては、これらの基礎を学び、呼吸器疾患や心血管疾患、代謝障害の理学療法におけるモニタリングの内容や必要性について学習する。また、胸部レントゲン写真や冠動脈造影、CT、MRI 等の画像所見についても学び、各種モニタリング指標との関連性についても理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸・循環・代謝のメカニズムを簡潔に説明することができる。 2. 運動時の呼吸調節を理解し、呼吸関連指標を説明することができる。 3. 運動時の循環調節を理解し、循環関連指標を説明することができる。 4. 運動時の代謝調節を理解し、代謝関連指標を説明することができる。 5. 関連指標を解釈し、病態や症候について簡潔に説明することができる。 		
関連科目	内科学1・内科学2・内部障害理学療法学・内部障害理学療法学演習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	・筆記試験(100点分)により評価する。 ・筆記試験は定期試験の結果に基づき評価する。
教科書	①増田卓(編) [2020年・6,380円] 「循環器理学療法の理論と技術 第2版」 メジカルビュー社 ②本間生夫(監) [2014年・5,720円] 「呼吸リハビリテーションの理論と技術 第2版」 メジカルビュー社		
参考書	①古谷伸之(編) [2007年・6,600円] 「診察と手技がみえる vol.1 第2版」 メディックメディア社 ②岡田隆夫(監訳) [2011年・8,360円] 「心臓・循環の生理学」 メディカル・サイエンス・インターナショナル		
履修上の留意点	学生サポートシステムからの連絡を確実に受信できるようにし、速やかに必要な行動をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	循環1: 心血管機能1・バイタルサイン測定	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	講義・演習	根木・片寄
2	循環2: 心血管機能2	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	根木
3	循環3: 運動機能・ADL/QOL	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	〃
4	呼吸1: 呼吸機能1・バイタルサイン測定	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	岩本
5	呼吸2: 呼吸機能2	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	〃
6	呼吸3: 運動機能・ADL/QOL	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	〃
7	代謝: 腎機能・代謝機能	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	〃
8	がん	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	井平

授業科目	理学療法研究法	3 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	山田崇史 (保健医療学研究棟 E407 号) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	菅原和広		
概要	理学療法学研究の基礎(研究の定義、意義、理論)、倫理、実験計画、計測、分析、文献的考察および論文の読み方・書き方に関し講義・演習を行い、研究リテラシーの醸成をはかる。また、内外の研究論文を輪読しながら、批判的な読解力を養うとともに、理学療法学研究についての理解を深める。		
到達目標	1. 理学療法学における研究の定義、異議、理論、倫理について系統立てて述べることができる 2. 実験計画、計測、データ分析、文献的考察および論文の書き方のエッセンスを言える 3. 比較的簡単な論文について批判的に吟味できる		
関連科目	理学療法基礎セミナー1、理学療法基礎セミナー2、理学療法学研究		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	70%	
	レポート	30%	
教科書	①内山靖、島田裕之(編集) [2013] 「理学療法研究法 第3版」 医学書院		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	講義形式に演習を盛り込みながら進める。 事前学習では、シラバスに記載してある用語や定義などを把握しておくことが望ましい。 事後学習には、必要に応じてレポートを課す場合があるのでその旨留意しておくこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	理学療法研究の意義	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	講義・演習	山田
2	リサーチマッピング1	〃	〃	〃
3	研究概論	〃	〃	菅原
4	研究倫理	〃	〃	〃
5	研究デザイン	〃	〃	〃
6	クリティカルリーディング	〃	〃	〃
7	クリティカルリーディングの実践	〃	〃	〃
8	研究計画と計画書	〃	〃	〃
9	統計手法1	〃	〃	〃
10	統計手法2	〃	〃	〃

11	発表の方法	〃	〃	〃
12	リサーチマッピング2	〃	〃	山田
13	リサーチマッピング3	〃	〃	〃
14	研究計画書立案演習1	〃	〃	〃
15	研究計画書立案演習2	〃	〃	〃

授業科目	義肢装具学	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	渡邊耕太 (保健医療学部研究棟 E410 号室) e-mail : wkota@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	太田久晶、中村充雄、戸田創、(野坂利也)		
概要	一時的あるいは永久に身体機能を消失した時、その機能を身体外部から代償する方法を学ぶ。四肢及び体幹の形態が残存している場合に用いる装具と、消失した場合に用いる義肢、及び車椅子について、材質やその構造や機能について学び、個々の患者や障害者の有する機能不全に適した義肢装具の処方、採寸、採型、製作、適合判定を学習する。		
到達目標	1. 義肢・装具・車椅子の名称、各部の名称や機能を説明できる。 2. 疾患や障害を考慮した処方ができる。 3. 義肢・装具・車椅子の適合判定ができる。 4. 義肢・装具・車椅子の有用性について評価ができる。		
関連科目	運動器障害理学療法学、リハビリテーション医学、整形外科学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	75%	受講態度：授業への集中度、質問や発言の状況
	レポート	10%	
	受講態度	15%	
教科書	指定なし		
参考書	①日本義肢装具学装具学会 監修 [2015] 「義肢学(第3版)」 医歯薬出版 ②日本義肢装具学装具学会 監修 [2013] 「装具学(第4版)」 医歯薬出版		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス. 装具総論, 靴型装具, 靴の補正	事前：装具、靴型の種類。 事後：靴の補正方法。	講義	戸田
2	上肢の装具	事前：上肢の装具の種類。 事後：装具の使用、治療効果の実際を復習。	〃	中村
3	上肢の自助具	事前：上肢の自助具の種類。 事後：自助具の適応と治療の実際を復習。	〃	〃
4	上肢の切断	事前：切断となる疾患、病態。 事後：切断レベルによる違いを復習。	〃	太田
5	下肢装具, 体幹装具	事前：下肢、体幹装具の種類。 事後：装具の適応と装着の実際。	〃	(野坂)
6	切断総論, 足部・サイム・下腿切断と義足	事前：切断に至る病態や疾患、切断法。 事後：各切断法の違いと特徴。	〃	〃
7	大腿切断と義足, 股関節離断と義足	事前：大腿切断・股関節離断に至る病態、疾患。 事後：義足の種類、その機能。	〃	〃

8	ギプスの巻き方(講義・演習)	事前：ギプスの適応。 事後：ギプス治療時の肢位、合併症。	実習	渡邊
---	----------------	---------------------------------	----	----

授業科目	物理療法学	3 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	山田崇史 (保健医療学研究棟 E407 号) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	菅原和広、(安孫子幸子)		
概要	物理療法とは、物理的なエネルギーを生体に加えることによって生じる生理学的な反応を利用した治療法の総称である。本講義では、熱、超音波、電気、機械的刺激など種々の物理的エネルギーが持つ性質や、それらを生体に適用した際に生じる現象やそのしくみについて学習する。また、各種物理療法を安全かつ効果的に実施できるように、適応、禁忌、注意事項についても学ぶ。さらに、これらの学習を通して、病態像に即した物理療法を選択、適用できる論理的思考能力を養う。		
到達目標	1. 各種物理的エネルギーの特性を説明できる。 2. 各種物理的エネルギーを生体に適用した際の生理学的反応について説明できる。 3. 各種物理療法の適応、禁忌、注意点を列挙できる。		
関連科目	運動器障害理学療法学、神経障害理学療法学、内部障害理学療法学、発達障害理学療法学、高齢者理学療法学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	90%	
	レポート課題	10%	
教科書	①千住秀明 [2010 年] 「物理療法 第2版」 SHINRYOBUNKO		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	事前学習として、教科書の該当箇所を読んだ上で、授業に臨むこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	物理療法総論 定義と概要	事前：教科書第1章を読んでおくこと	講義	山田
2	物理療法の適応が多い病態の理解	事前：教科書第2章を読んでおくこと	〃	〃
3	温熱療法の概論	事前：教科書第3章を読んでおくこと	〃	〃
4	温熱療法の生理学的作用と治療への応用	事前：教科書第3章を読んでおくこと	講義・演習	〃
5	水治療法、寒冷療法の概論	事前：教科書第4章を読んでおくこと	講義	〃
6	水治療法、寒冷療法の生理学的作用と治療への応用	事前：教科書第4章を読んでおくこと	講義・演習	〃
7	電気刺激療法の概論	事前：教科書第7章を読んでおくこと	講義	〃
8	電気刺激療法の生理学的作用と治療への応用①	事前：教科書第7章を読んでおくこと	講義・演習	〃
9	電気刺激療法の生理学的作用と治療への応用②	事前：教科書第7章を読んでおくこと	講義	菅原

10	電気刺激療法の生理学的作用と治療への応用③	事前：教科書第7章を読んでおくこと	講義・演習	〃
11	電気刺激療法の生理学的作用と治療への応用④	事前：教科書第7章を読んでおくこと	講義	(安孫子)・山田
12	電気刺激療法の生理学的作用と治療への応用⑤	事前：教科書第7章を読んでおくこと	講義・演習	〃
13	超音波療法の概論	事前：教科書第3章を読んでおくこと	講義	〃
14	超音波療法の生理学的作用と治療への応用	事前：教科書第3章を読んでおくこと	講義・演習	〃
15	機械的刺激療法の概論	事前：教科書第9-10章を読んでおくこと	講義	山田
16	機械的刺激療法の生理学的作用と治療への応用	事前：教科書第9-10章を読んでおくこと	講義・演習	〃
17	課題発表1	事前：課題レポートを作成すること	演習	〃
18	課題発表2	事前：課題レポートを作成すること	〃	〃
19	課題発表3	事前：課題レポートを作成すること	〃	〃
20	課題発表4	事前：課題レポートを作成すること	〃	〃
21	症例別物理療法処方の実際①：腰痛症	事前：講義内容を復習すること	〃	〃
22	症例別物理療法処方の実際②：変形性膝関節症	事前：講義内容を復習すること	〃	〃
23	症例別物理療法処方の実際③：上腕骨外側上顆炎	事前：講義内容を復習すること	〃	〃
24	症例別物理療法処方の実際④：頸椎椎間板ヘルニア	事前：講義内容を復習すること	〃	〃
25	症例別物理療法処方の実際⑤：関節リウマチ	事前：講義内容を復習すること	〃	〃
26	症例別物理療法処方の実際⑥：手根管症候群	事前：講義内容を復習すること	〃	〃
27	症例別物理療法処方の実際⑦：痙性麻痺	事前：講義内容を復習すること	〃	〃
28	症例別物理療法処方の実際⑧：幻肢痛	事前：講義内容を復習すること	〃	〃
29	症例別物理療法処方の実際：総合演習①	事前：講義内容を復習すること	〃	〃
30	症例別物理療法処方の実際：総合演習②	事前：講義内容を復習すること	〃	〃

授業科目	運動器障害理学療法学	3 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	片寄正樹 (保健医療学研究棟 E409 号) e-mail : katayose@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	青木信裕、戸田創、(原清和)、(寒川美奈)、(池田祐真)		
概要	運動器障害に対する理学療法を総合的・系統的に学習する。運動器障害に対する評価に基づいて、運動療法を主体とした治療の理論を学習する。		
到達目標	1. 運動器障害における評価に基づいた治療計画立案の考え方を説明できる。 2. 運動器障害に対する基本的な運動療法手技を説明できる。 3. 運動器障害に対する理学療法を進める上でのリスク管理について配慮することができる		
関連科目	運動学 1、整形外科学、運動器障害理学療法評価学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	100%	・筆記試験は定期試験の結果に基づき評価し、60 点以上を単位認定の条件とする。
教科書	指定なし		
参考書	①山下敏彦 監修 [2019 年・3,700 円+税] 「PT・OT のための画像のみかた 第 2 版」 金原出版 ②David J. Magee [2023 年・12,100 円] 「運動器リハビリテーションの機能評価-原著第 7 版- 1,2 巻」 ELSEVIER ③加藤浩 編集 [2020 年・6,500 円+税] 「Crosslik 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学」 MEDICAL VIEW		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	運動器障害理学療法治療学総論 運動器障害に対する運動療法(1) Mobility control	事前: 整形外科学の復習 事後: ワークシート	講義・演習	片寄・青木・戸田
2	運動器障害に対する運動療法(2) Stability control	事前: 配布資料の pre-reading 事後: ワークシート	〃	戸田
3	運動器障害に対する運動療法(3) Aligment control	事前: 配布資料の pre-reading 事後: ワークシート	〃	〃
4	運動器障害に対する運動療法(4) Performance・ADL control	事前: 配布資料の pre-reading 事後: ワークシート	〃	〃
5	運動器障害に対する感覚障害・動作分析	事前: 配布資料の pre-reading 事後: ワークシート	〃	(池田)
6	徒手関節治療学(1)	事前: 配布資料の pre-reading 事後: ワークシート	〃	(原)
7	徒手関節治療学(2)	事前: 配布資料の pre-reading 事後: ワークシート	〃	〃
8	徒手関節治療学(3)	事前: 配布資料の pre-reading 事後: ワークシート	〃	〃
9	運動器障害に対するテーピング(1)	事前: 配布資料の pre-reading 事後: ワークシート	〃	(池田)
10	運動器障害に対するテーピング(2)	事前: 配布資料の pre-reading 事後: ワークシート	〃	〃

11	運動器障害に対するストレッチング	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	(寒川)
12	Mobility control 演習	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	戸田
13	Stability control 演習	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	〃
14	Alignment control 演習	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	〃
15	Performance・ADL control 演習	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	〃

授業科目	運動器障害理学療法学演習	3 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	戸田創 (保健医療学研究棟 E401 号) e-mail : toda.h@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	片寄正樹、青木信裕、(野坂利也)、(原清和)、(小林匠)、(佐々木和広)、(森田寛子)、(榊善成)、(野村勇輝)、(高橋智士)		
概要	運動器障害に対する理学療法を総合的・系統的に学習する。運動器障害に対する評価に基づいて、運動療法を主体とした治療の実践を学習する。また、運動器障害理学療法を進める上で有益となる、物理療法、義肢装具、アスレチックリハビリテーション、レッドコード、産業保健、ロボットリハビリテーションといった関連領域の理論と実際も学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢・下肢・体幹の運動器障害における評価に基づいた治療計画立案の考え方を説明できる。 2. 主要疾患における運動機能障害を説明できる。 3. 運動器障害に対する理学療法に必要な評価診断項目を挙げ、基本的な評価診断手技を用いて実践ができる。 4. 評価診断結果に基づいた理学療法の治療計画を立案し、基本的な運動療法手技を用いて実践ができる。 5. 運動器障害理学療法における関連領域の動向について理解し、説明できる。 		
関連科目	整形外科学、運動器障害理学療法評価学、運動器障害理学療法学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	50%	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験(50点分)と実技試験(50点分)により評価する。 ・筆記試験は定期試験の結果に基づき評価し、実技試験は講義・演習で学習した知識技能に関する実践能力に基づき評価する。 ・両試験ともに6割以上を単位認定の条件とする。
	実技試験	50%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①David J. Magee [2023年・12,100円] 「運動器リハビリテーションの機能評価-原著第7版- 1,2巻」 ELSEVIER ②松野丈夫、他 [2014年・9,400円] 「標準整形外科学 第12版」 医学書院 ③嶋田智明、他 [2012年・12,960円] 「筋骨格のキネシオロジー 原著第2版」 医歯薬出版 ④加藤浩 編集 [2020年・7,150円] 「Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学」 メジカルビュー社 ⑤山下敏彦 監修 [2019年・4,070円] 「PT・OTのための画像のみかた 第2版」 金原出版 		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	運動器障害理学療法学演習総論	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	講義・演習	片寄・青木・戸田
2	体幹の理学療法(1)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	青木・(野村)
3	体幹の理学療法(2)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
4	体幹の理学療法(3)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
5	体幹の理学療法(4)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
6	体幹の理学療法(5)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
7	上肢の理学療法(1)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	戸田・(榊)

8	上肢の理学療法(2)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
9	上肢の理学療法(3)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
10	上肢の理学療法(4)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
11	上肢の理学療法(5)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
12	下肢の理学療法(1)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	(小林)
13	下肢の理学療法(2)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
14	下肢の理学療法(3)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
15	下肢の理学療法(4)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
16	下肢の理学療法(5)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
17	運動器障害理学療法における治療プログラム構築・指導	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	戸田
18	運動器障害理学療法における物理療法	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	(佐々木)・(高橋)・青木
19	義足実習・義足の適合判定(1)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	(野坂)
20	義足実習・義足の適合判定(2)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
21	義足実習・義足の適合判定(3)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
22	装具の歩行解析・適合判定(1)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
23	装具の歩行解析・適合判定(2)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
24	装具の歩行解析・適合判定(3)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
25	運動器障害理学療法学トピックス(1)：画像情報を用いた理学療法治療学	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	戸田
26	運動器障害理学療法学トピックス(2)：アスレチックリハビリテーション	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	(森田)
27	運動器障害理学療法学トピックス(3)：レッドコード(1)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	(原)
28	運動器障害理学療法学トピックス(3)：レッドコード(2)	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃
29	運動器障害理学療法学トピックス(4)：産業保健分野での理学療法	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	青木
30	運動器障害理学療法学トピックス(4)：運動器障害に対するロボットリハビリテーション	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	〃

授業科目	神経障害理学療法学	3 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	菅原和広 (保健医療学研究棟 E404 号) e-mail : kaz.sugawara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	佐々木健史、(山本昌明)		
概要	末梢神経障害、脊髄損傷、脳卒中、基底核障害、小脳障害などの神経障害によって生じるさまざまな病態の詳細な理解、および神経科学に基づいた神経障害に対する臨床的推論について演習する。また、神経病変によって起こる ICF 構成要素間の相互作用に基づいた評価プロセス、および理学療法治療を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象疾患に関する病因、および病態を説明できる。 2. 対象疾患の病態が生活機能に与える影響を説明できる。 3. 対象疾患に応じて、適切な検査を選択し、評価を実施できる。 4. 評価の結果に基づいて、的確な治療計画を立案できる。 5. 治療計画に基づいて実施する治療方法を説明できる。 		
関連科目	リハビリテーション医学・身体適応学・神経障害理学療法評価学・神経内科学・日常生活活動学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	小テスト	20%	
	試験	80%	
教科書	①吉尾雅春他 [2018 年] 「標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学(第2版)」 医学書院		
参考書	①原寛美他 [2019 年] 「脳卒中理学療法の理論と技術(第3版)」 メジカルビュー社		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 中枢神経系の構造と機能	事前:解剖学・生理学の復習	講義	菅原
2	脳卒中の病態とリスク管理	事前:病態の復習	〃	〃
3	脳卒中の回復メカニズム 障害構造	事前:病態の復習	〃	〃
4	運動麻痺	事前:病態の復習	〃	〃
5	感覚障害	事前:病態の復習	〃	〃
6	脳画像と各種経路の把握	事前:病態の復習	〃	〃
7	半側空間無視 上肢機能障害	事前:病態の復習	〃	〃
8	神経ネットワークと高次脳機能障害	事前:病態の復習	〃	〃
9	異常筋緊張 運動失調	事前:病態と神経障害理学療法評価学の復習	〃	佐々木

10	姿勢定位障害 姿勢バランス障害	事前:病態と神経障害理学療法評価学の復習	〃	〃
11	起居動作障害 歩行障害	事前:日常生活活動学の復習	〃	〃
12	ADL 障害とアプローチ	事前:日常生活活動学の復習	〃	〃
13	脊髄損傷患者に対する理学療法 1	事前:事前:病態の復習	〃	(山本)・ 佐々木
14	脊髄損傷患者に対する理学療法 2	事前:事前:病態の復習	〃	〃
15	中枢神経疾患についてのまとめ	事前:第1講～14講のまとめ	〃	菅原

授業科目	神経障害理学療法学演習	3 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	菅原和広 (保健医療学研究棟 E404 号) e-mail : kaz.sugawara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	佐々木健史、田代英之、(林真範)、(小島伸枝)、(長濱宏史)、(野坂利也)		
概要	神経障害評価学および神経障害理学療法学で得た知識をもとに、科学的根拠に基づいた治療を計画するプロセスを学習する。また、臨床的推論に基づき適切な治療を選択し、実施方法を演習する。さらに、臨床場面で治療の実施方法を演習することで、知識の統合を図る。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象疾患に関する医学的治療の概要を簡潔に説明できる。 2. 医学的状況を踏まえて、理学療法計画を立案できる。 3. 各種の神経障害に対する治療法の基本原理を理解し、実施できる。 4. 各種の病態に応じた日常生活活動の支援および環境調整を図り、説明できる。 5. 社会的参加のための適切な支援計画を立案し、実施方法を説明できる。 		
関連科目	リハビリテーション医学・神経障害理学療法評価学・神経内科学・日常生活活動学・神経障害理学療法学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	実技試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	中枢神経障害の理学療法評価 ①：神経学的評価	事前：理学療法評価学を復習	講義・演習	佐々木・菅原
2	中枢神経障害の理学療法評価 ②：神経学的評価	事前：理学療法評価学を復習	〃	〃
3	中枢神経障害の理学療法評価 ③：運動・動作学的評価(姿勢制御)	事前：理学療法評価学を復習	〃	佐々木・田代
4	中枢神経障害の理学療法評価 ④：運動・動作学的評価(基本動作)	事前：理学療法評価学を復習	〃	〃
5	中枢神経障害の理学療法評価 ⑤：運動・動作学的評価(歩行)	事前：理学療法評価学を復習	〃	〃
6	脊髄損傷の治療	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	講義	佐々木・菅原・田代
7	脊髄損傷の基本動作(歩行・姿勢)	事前：運動学1・2、神経障害理学療法学を復習	講義・演習	〃
8	脊髄損傷のADL	事前：日常生活活動学、神経障害理学療法学を復習	〃	〃
9	脳卒中の治療	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	講義	佐々木・菅原・田代

10	脳卒中の基本動作 介助・支援(基本動作)	事前：運動学1・2、神経障害理学療法学を復習	講義・演習	〃
11	脳卒中の基本動作 介助・支援(歩行)	事前：運動学1・2、神経障害理学療法学を復習	〃	〃
12	脳卒中のADL 介助・支援	事前：日常生活活動学、神経障害理学療法学を復習	〃	〃
13	神経難病患者の治療	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	〃	佐々木・菅原・田代
14	神経難病患者の基本動作 介助・支援	事前：運動学1・2、神経障害理学療法学を復習	〃	〃
15	神経難病患者のADL 介助・支援	事前：日常生活活動学、神経障害理学療法学を復習	〃	〃
16	脳血管障害患者に対する評価と治療 ①：理学療法トピックス1	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	〃	佐々木・菅原
17	脳血管障害患者に対する評価と治療 ②：理学療法トピックス2	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	〃	〃
18	脳血管障害患者に対する評価と治療 ③：急性期におけるリスク管理	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	〃	佐々木・(林)
19	脳血管障害患者に対する評価と治療 ④：急性期理学療法の展開	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	〃	〃
20	脳血管障害患者に対する評価と治療 ⑤：回復期リハビリテーション	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	〃	佐々木・(小島)
21	脳血管障害患者に対する評価と治療 ⑥：回復期理学療法の展開	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	〃	〃
22	脳血管障害患者に対する評価と治療 ⑦：症例検討1	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	〃	佐々木・菅原・田代
23	脳血管障害患者に対する評価と治療⑧：症例検討2	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	〃	〃
24	中枢神経障害患者の脳画像の見方と評価 ①	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	〃	佐々木・(長濱)
25	中枢神経障害患者の脳画像の見方と評価 ②	事前：神経障害理学療法評価学、神経障害理学療法学を復習	〃	〃
26	神経障害患者に対する装具療法 ①：評価と処方	事前：義肢装具学を復習	〃	(野坂)
27	神経障害患者に対する装具療法 ②：装具の選定と作製	事前：義肢装具学を復習	〃	〃
28	神経障害患者に対する装具療法 ③：装着と適合のチェック	事前：義肢装具学を復習	〃	〃
29	神経障害患者に対する環境整備・社会資源	事前：日常生活活動学、地域理学療法学を復習	〃	佐々木・田代
30	神経障害患者に対する福祉用具・日常生活用具	事前：日常生活活動学、地域理学療法学を復習	〃	〃

授業科目	内部障害理学療法学	3 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	岩本えりか (保健医療学研究棟 E403 号) e-mail : e.iwamoto@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	片寄正樹、根木 亨、井平光、(管野敦哉)		
概要	これまでに学習した運動生理学や内科学、内部障害系評価学を基盤として、内部障害に対する理学療法を展開するために必要な評価手法と運動療法について学習する。具体的な診療情報(カルテ情報)から必要なデータを読み取り、医学的な検査結果の所見と理学療法の評価結果との関連性を統合、解釈することの重要性について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部障害における機能障害の系統的評価の進め方を説明することができる。 2. 評価に基づいた理学療法の治療計画立案の考え方を説明できる。 3. 内部障害に対する基本的な運動療法(運動処方)を説明できる。 4. 病態や症候に関連した指標を選択し、解釈した結果について簡潔に説明することができる。 		
関連科目	内科学1、内科学2、運動生理学、身体適応学、内部障害理学療法評価学、内部障害理学療法演習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	70%	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験(70点分)とレポート課題(30点分)により評価する。 ・筆記試験は定期試験の結果に基づき評価する。 ・レポート課題は提出状況、および内容の目標到達状況により評価する。
	レポート課題	30%	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①増田卓(編) [2020年・6,380円] 「循環器リハビリテーションの理論と技術 改訂第2版」 メジカルビュー社 ②本間生夫(監) [2014年・5,720円] 「呼吸リハビリテーションの理論と技術 第2版」 メジカルビュー社 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①細田多穂(監) [2017年・5,500円] 「内部障害理学療法学テキスト 第3版」 南江堂 ②居村茂幸(監) [2015年・5,060円] 「ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション 改定第2版」 羊土社 ③医療情報科学研究所(編) [2021年・3,960円] 「病気がみえる vol.2 循環器 第5版」 メディックメディア ④医療情報科学研究所(編) [2018年・3,850円] 「病気がみえる vol.4 呼吸器 第3版」 メディックメディア 		
履修上の留意点	学生サポートシステムからの連絡を確実に受信できるようにし、速やかに必要な行動をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	呼吸器疾患1: 評価1	事前: 内科系・評価診断系の学習内容の復習	講義・演習	岩本・片寄
2	呼吸器疾患2: 評価2	事前: 内科系・評価診断系の学習内容の復習	〃	岩本
3	呼吸器疾患3: 呼吸不全1	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	講義	〃
4	呼吸器疾患4: 呼吸不全2	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	〃
5	呼吸器疾患5: 急性肺障害	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	(管野)
6	循環器疾患1: 虚血性疾患	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	根木
7	循環器疾患2: 弁膜疾患	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	〃
8	循環器疾患3: 心不全	事前: 教科書該当部分の抄読 事後: 講義・配付資料の復習	〃	〃

9	循環器疾患4：ベッドサイド	事前：教科書該当部分の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	〃
10	循環器疾患5：大血管疾患・末梢血管疾患	事前：教科書該当部分の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	〃
11	循環器疾患6：浮腫・ペースメーカー・薬	事前：教科書該当部分の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	〃
12	代謝系疾患：腎不全・糖尿病・脂質異常症	事前：教科書該当部分の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	〃
13	重症患者管理	事前：教科書該当部分の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	岩本・根木
14	がんのリハビリテーション1：概論	事前：教科書該当部分の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	井平
15	がんのリハビリテーション2：概論	事前：教科書該当部分の抄読 事後：講義・配付資料の復習	〃	〃

授業科目	内部障害理学療法学演習	3 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	岩本えりか (保健医療学研究棟 E403 号) e-mail : e.iwamoto@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	片寄正樹、根木亨、井平光、中村円、小木曾寛樹、(山下康次)、(三浦利彦)、(荒谷隆)、(橋本佳苗)、(片野峻敏)、(宮城島沙織)、(尾山陽平)		
概要	内部障害(呼吸循環代謝障害、悪性新生物を含む)をきたす各種疾患に対する理学療法を総合的・系統的に学習する。各種疾患の理学療法の治療計画を立案する上で必要となる機能評価診断の理論と実際、およびその理学療法の具体的手法について、講義のみならず演習・実習を通じて理解を深める。また、理学療法を進める上でのリスク管理についても学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部障害をきたす代表的疾患に特徴的な機能障害および能力障害を簡潔に説明できる。 2. 内部障害に対する理学療法に必要な評価診断項目をあげ、基本的な評価診断手技を用いて実践ができる。 3. 評価診断結果に基づいた、理学療法の治療計画を立案することができる。 4. 内部障害に対する基本的な理学療法が実践できる。 5. 理学療法を実践する上でのリスク管理に配慮することができる。 		
関連科目	内科学1、内科学2、運動生理学、身体適応学、内部障害理学療法評価学、内部障害理学療法学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート課題	30%	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題(30点分)、実技試験(20点分)、筆記試験(50点分)により評価する。 ・レポート課題は、提出状況、および内容の目標到達状況により評価する。 ・実技試験は、OSCEの試験点数に基づき評価する。 ・筆記試験は定期試験の結果に基づき評価する。
	実技試験	20%	
	筆記試験	50%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①並木昭義(編) [2014年・5,280円] 「よくわかる人工呼吸管理テキスト第6版」 南江堂 ②千住秀明(監) [2008年・3,520円] 「呼吸理学療法標準手技」 医学書院 ③谷口興一(編) [2004年・10,450円] 「心肺運動負荷テストと運動療法」 南江堂 ④日本体力医学会体力科学編集委員会(監訳) [2011年・3,850円] 「運動処方指針 第8版」 南江堂 ⑤玉木彰(編) [2017年・4,730円] 「内部障害の症例検討」 羊土社 		
履修上の留意点	学生サポートシステムからの連絡を確実に受信できるようにし、速やかに必要な行動をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	循環1(症例検討1)	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	講義・演習	片寄・根木
2	循環1(症例検討2)	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
3	循環2(症例検討1)	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	根木 (尾山)
4	循環2(症例検討2)	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
5	呼吸循環代謝 総合演習1(実習報告会)	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	岩本・井 平・根木
6	呼吸循環代謝 総合演習1(実習報告会)	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
7	呼吸循環代謝 総合演習1(実習報告会)	事前：配付資料の pre-leading 事後：work-sheet	〃	〃

8	呼吸1(COPDに対する理学療法演習1)	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	(荒谷)
9	呼吸1(COPDに対する理学療法演習2)	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
10	呼吸2(COPDに対する理学療法演習1)	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
11	呼吸2(COPDに対する理学療法演習2)	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
12	代謝1：代謝系疾患(障害)の評価/治療・演習	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	岩本
13	代謝2：代謝系疾患(障害)の評価/治療・演習	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
14	呼吸循環代謝 総合演習(OGTT 演習1)	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	岩本・根木
15	呼吸循環代謝 総合演習(OGTT 演習2)	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
16	内部障害：気管内吸引法・演習1	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	中村・小木 曾
17	内部障害：気管内吸引法・演習2	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
18	内部障害：人工呼吸療法・演習1	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	(橋本)
19	内部障害：人工呼吸療法・演習2	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
20	循環：心大血管リハビリテーション・演習1	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	(片野)・根 木
21	循環：心大血管リハビリテーション・演習2	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
22	内部障害：がんのリハビリテーション・演習1	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	(宮城嶋)
23	内部障害：がんのリハビリテーション・演習2	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
24	内部障害：神経筋疾患に対する呼吸理学療法1	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	(三浦)
25	内部障害：神経筋疾患に対する呼吸理学療法2	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
26	内部障害：ICU管理における理学療法1	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	(山下)
27	内部障害：ICU管理における理学療法2	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	〃
28	呼吸循環代謝 総合演習3(OSCE 事前演習1)	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	岩本・根木
29	呼吸循環代謝 総合演習4(OSCE 演習1)	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	岩本・根木 (尾山)
30	呼吸循環代謝 総合演習4(OSCE 演習2)	事前：配付資料のpre-leading 事後：work-sheet	〃	岩本・根木 (尾山)

授業科目	発達障害理学療法学	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	菅原和広 (保健医療学研究棟 E404) e-mail : kaz.sugawara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	佐々木健史、(土岐めぐみ)、(宮城島沙織)、(鎌塚香央里)、(西部寿人)		
概要	脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎、ダウン症候群などの姿勢と運動の異常を示しながら発達する障害児に対する理学療法(評価と治療)を学習する。正常な運動発達を理解することにより、神経系障害に起因する運動障害と運動器系障害に起因する運動障害の違いを学習し、理論的背景のある小児理学療法を理解する。		
到達目標	1. 正常運動発達と異常運動発達を説明できる。 2. 脳性麻痺が示す障害の特異性を説明できる。 3. 脳性麻痺の評価と治療の体系を理解し、説明できる。 4. 筋ジストロフィー、二分脊椎、ダウン症候群に関する評価から治療を理解し、説明できる。		
関連科目	人間発達学1、人間発達学2、小児科学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	①田原弘幸・大城昌平・小塚直樹 [2018 年] 「小児理学療法テキスト改訂第3版」 南江堂		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	運動発達障害の理学療法における基本的な知識を学ぶ。それまで受講した該当講義の復習を充分に行って受講することが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 脳性麻痺1 (疾患定義, 病型分類と麻痺の部位, 主症状, 随伴障害, 原因, 健康管理)	事前・事後: 教科書、配付資料の該当箇所を抄読	講義	(土岐)
2	運動発達の正常と異常1 (正常運動発達(粗大運動)指標, 正常運動発達と原始反射, 姿勢反射・反応との関係)	事前・事後: 教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	(宮城島)
3	運動発達の正常と異常2 (運動発達の遅滞と解離, 解離の概念)	事前・事後: 教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
4	脳性麻痺2 (総合評価・神経学的評価・運動学的評価・筋骨格系評価)	事前・事後: 教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	佐々木
5	脳性麻痺3 (運動機能評価(GMFM・GMFCS・PEDI), 保存療法, 観血療法, 運動療法)	事前・事後: 教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	(西部)
6	その他の肢体不自由児1 (筋ジストロフィー, 二分脊椎)	事前・事後: 教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	菅原
7	その他の肢体不自由児2 (精神遅滞児と染色体異常(ダウン症候群), 重症心身障害児・者)	事前・事後: 教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃

8	ハイリスク新生児 (新生児評価, 治療, 介入)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	”	(鎌塚)
---	-----------------------------	------------------------	---	------

授業科目	発達障害理学療法学演習	3 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	菅原和広 (保健医療学研究棟 E404 号) e-mail : kaz.sugawara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	佐々木健史、田代英之、(鎌塚香央里)、(宮城島沙織)、(笹川古都音)、(時田優衣)、(井上和広)、(三浦利彦)、(齋藤由希)、(江川奈美)、(奥山祐香)		
概要	発達障害理学療法学 1 の内容に基づき、各種発達障害に対する理学療法評価と治療を実施する。 演習の中で各種理学療法評価と介入を各種疾患に適用し、学習する。 I 施設：肢体不自由児総合療育施設 II 施設：重症心身障害児・者入所施設 III 施設：総合病院 IV 施設：特別支援学校(肢体不自由)		
到達目標	1. 運動発達障害児・者に関わる理学療法評価および治療手技の実習を臨床に即して実施できる。 2. 運動発達障害児・者に対する理学療法評価を計画し実施できる。 3. 運動発達障害児・者に対する理学療法治療計画を立案できる。		
関連科目	人間発達学 1、人間発達学 2、小児科学、発達障害理学療法学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	40%	
	レポート	60%	
教科書	①田原弘幸・大城昌平・小塚直樹 [2018 年] 「小児理学療法テキスト改訂第 3 版」 南江堂		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	運動発達障害、ハイリスク新生児、小児がんの理学療法における実践的な理学療法技術、小児期の電気生理学的特性について学ぶ。それまで受講した該当講義の復習を充分に行なって受講することが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	授業ガイダンス	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	演習	佐々木
2	知的障害児の発達の特徴	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	講義	佐々木・ (宮城島)・(笹川)
3	基本的な身体操作 GMFM と GMFCS	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	演習	佐々木・ (時田)
4	学外演習施設オリエンテーション	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	佐々木・田代
5	学外演習 1 (I 施設 AB グループ、II 施設 CD グループ)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
6	学外演習 1 (I 施設 AB グループ、II 施設 CD グループ)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
7	学外演習 1 (I 施設 AB グループ、II 施設 CD グループ)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
8	学外演習 1 (I 施設 AB グループ、II 施設 CD グループ)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃

9	施設演習フィードバック・グループワーク	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
10	学外演習2(I施設CDグループ、II施設ABグループ)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
11	学外演習2(I施設CDグループ、II施設ABグループ)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
12	学外演習2(I施設CDグループ、II施設ABグループ)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
13	学外演習2(I施設CDグループ、II施設ABグループ)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
14	小児リハビリテーションにおけるF-Words 家族の思い	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	佐々木・ (宮城島)
15	学外演習3(III施設Aグループ、グループワークBCDグループ) 情報および問題点の整理、レポート作成指導	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	佐々木・田 代・(鎌 塚)・(宮城 島)・(笹 川)
16	学外演習3(III施設Aグループ、グループワークBCDグループ) 情報および問題点の整理、レポート作成指導	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
17	学外演習3(III施設Aグループ、グループワークBCDグループ) 情報および問題点の整理、レポート作成指導	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
18	学外演習3(III施設Aグループ、グループワークBCDグループ) 情報および問題点の整理、レポート作成指導	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
19	学外演習4(IV施設ABCDグループ)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	佐々木・田 代
20	学外演習4(IV施設ABCDグループ)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
21	施設演習報告会(経過報告会)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	佐々木・菅 原・田代
22	施設演習報告会(経過報告会)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
23	小児理学療法(小児がん)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	講義・演習	佐々木・ (宮城島)
24	小児理学療法(ハイリスク新生児)	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	佐々木・ (鎌塚)
25	小児期神経筋の電気生理学的特性①	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	菅原
26	小児期神経筋の電気生理学的特性②	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
27	情報および問題点の整理、レポート作成指導	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	佐々木・田 代
28	施設演習報告会	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	佐々木・菅 原・田代・ (宮城 島)・(井 上)・(三 浦)・(齋 藤)・(江

				川)・(奥山)
29	施設演習報告会	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃
30	施設紹介と診療情報	事前・事後：教科書、配付資料の該当箇所を抄読	〃	〃

授業科目	高齢者理学療法学	3 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	井平光 (保健医療学研究棟 E402 号) e-mail : ihira@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木島輝美、田代英之、(綿谷美佐子)、(仙野聖太)、(櫻田周)、(秋田孝郎)、(矢幅圭一)、(山田幸雄)		
概要	高齢期の疾病、障害構造を理解しつつ、生理・生物学的、心理・認知的、社会的老化の影響を考慮して、高齢者を対象とした理学療法において、適切な評価と理学療法介入プログラムを立案することを学習する。		
到達目標	1. 高齢期の疾患・障害の特徴を言える 2. 心身、および社会的老化を説明できる 3. 居宅系リハビリテーションサービスの種別を説明できる 4. 運動、心理・認知、社会機能について適切な評価が実施できる 5. 介護老人保健施設やデイサービスにおける、対象者の課題を ICF にて説明できる。		
関連科目	「運動器障害学」などの臨床系講義や「地域理学療法」などで学んだ知識・技術を本科目で発展させ、「臨床実習」の円滑な遂行に結びつける。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	80%	
	レポート	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①島田裕之総編集／牧迫飛雄馬・山田実編 [2017] 「高齢者理学療法学」 医歯薬出版株式会社		
履修上の留意点	(介護保険領域を主とする)維持期や生活期を中心とした高齢者の理学療法の考え方や技術、理学療法プログラムの立案について学ぶ。それまでに受講した関係が深い領域の復習を十分に行って受講することが求められる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	高齢者理学療法の現状と課題	事後：講義内容の要約作成	講義・演習	井平
2	高齢者における諸機能の評価(ICF)	事前：前回の復習 事後：次回の予習	〃	〃
3	高齢者の心身機能および活動の評価 1	〃	〃	田代
4	高齢者の心身機能および活動の評価 2	〃	〃	〃
5	高齢者と認知症 1	〃	〃	木島
6	高齢者と認知症 2	〃	〃	〃
7	予防理学療法の概要と地域在住高齢者に対する支援 1	〃	〃	田代
8	予防理学療法の概要と地域在住高齢者に対する支援 2	〃	〃	〃
9	健康高齢者および要介護高齢者の運動機能と理学療法	〃	〃	〃
10	デイサービスにおける理学療法・理論 1	〃	〃	(綿谷)

11	デイサービスにおける理学療法・理論2	〃	〃	〃
12	介護老人保健施設における理学療法的評価・介入	〃	〃	(仙野)
13	在宅高齢者における理学療法・理論	〃	〃	(矢幅)
14	介護老人保健施設におけるリスク管理	〃	〃	(秋田)
15	介護保健領域における多職種連携	〃	〃	(櫻田)
16	高齢者の併存疾患	〃	〃	井平
17	老年症候群と理学療法1	〃	〃	〃
18	老年症候群と理学療法2	〃	〃	〃
19	実技試験1	〃	〃	井平・田代
20	実技試験2	〃	〃	〃
21	実技試験3	〃	〃	〃
22	リハ実施計画書作成演習1	〃	〃	〃
23	リハ実施計画書作成演習2	〃	〃	〃
24	リハ実施計画書作成演習3	〃	〃	〃
25	リハ実施計画書作成演習4	〃	〃	〃
26	リハ実施計画書作成演習5	〃	〃	〃
27	リハ実施計画書作成演習6	〃	〃	〃
28	リハ実施計画書作成演習7	〃	〃	〃
29	リハ実施計画書作成演習8	〃	〃	〃
30	リハ実施計画書作成演習9	〃	〃	〃

授業科目	理学療法治療学	4 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	佐々木健史 (保健医療学研究棟 E406 号) e-mail : t-sasaki@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	片寄正樹、菅原和広、岩本えりか、井平光、戸田創、根木亨、青木信裕、田代英之、他 演習講師		
概要	臨床実習 3 で経験した小児および高齢者を対象とした症例における演習をおこない、小児理学療法および地域高齢者理学療法の特性を学ぶ。また、臨床実習 4 の事前学習として、運動器系障害、神経系障害、内部系障害の病態特性に応じた機能評価診断、治療計画の立案、および治療の一連の過程について机上演習をおこない、臨床プロセスについて総合的に学習する。これと合わせて、臨床実習 4 に向けた施設実習での感染対策についての講義・演習を行う。本科目は、臨床実習 3 のフォローアップ、および臨床実習 4 における学習を効率的かつ充実したものにするための導入学習としての意義をもつ。演習にあたっては、臨床実習 3 および臨床実習 4 における臨床実習指導者も参加し、具体的臨床事例をもとに学習を展開していく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児理学療法の特性を説明することができる。 2. 地域高齢者理学療法の特性を説明することができる。 3. 運動器系障害、神経系障害、内部系障害の病態特性に応じた評価、分析、治療の一連の過程を説明できる。 4. 臨床現場における理学療法士としてのプロフェッショナルリズムを考察できる。 5. 臨床現場における医療安全とリスク管理、および感染管理の素養を習得し実践できる。 6. 根拠にもとづいた理学療法の手法を説明できる。 		
関連科目	運動器障害理学療法学、神経障害理学療法学、内部障害理学療法学、発達障害理学療法学、高齢者理学療法学、理学療法治療学演習、臨床実習 3、臨床実習 4		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	70%	提出物は提出状況、記載内容を評価する。 学習態度は、討議への積極的参加を評価する。
	学習態度	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	小児理学療法 症例演習 1	事前:臨床実習 3 担当症例の要約 事後:演習内容の要約作成	演習	佐々木・菅原・田代・(井上)・(齋藤)・(三浦利彦)・(江川)・(奥山)
2	小児理学療法 症例演習 2	事前:臨床実習 3 担当症例の要約 事後:演習内容の要約作成	〃	〃
3	地域高齢者理学療法 症例演習 1	事前:臨床実習 3 担当症例の要約 事後:演習内容の要約作成	〃	井平・田代・(櫻田)・(綿谷)・(仙野)・(秋)

				田)・(中野)・(矢幅)・(佐々木)
4	地域高齢者理学療法 症例演習 2	事前:臨床実習 3 担当症例の要約 事後:演習内容の要約作成	〃	〃
5	理学療法士としてのプロフェッショナリズム 演習 1	事前:配布資料の pre-reading 事後:演習内容の復習	〃	佐々木
6	理学療法士としてのプロフェッショナリズム 演習 2	事前:配布資料の pre-reading 事後:演習内容の復習	〃	〃
7	医療安全とリスク管理・感染管理 演習 1	事前:配布資料の pre-reading 事後:演習内容の復習	〃	〃
8	医療安全とリスク管理・感染管理 演習 2	事前:配布資料の pre-reading 事後:演習内容の復習	〃	〃
9	科学的根拠にもとづいた理学療法 演習	事前:配布資料の pre-reading 事後:演習内容の復習	〃	〃
10	神経障害系理学療法 机上症例演習 1	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	菅原・佐々木・田代・(林)・(小島)・(稲田)・(大谷)・(北村)・(高橋良輔)・(中嶋)・(三浦拓)・(古田)・(安田)
11	神経障害系理学療法 机上症例演習 2	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	〃
12	内部障害系理学療法 机上症例演習 1	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	岩本・井平・根木・(阿部)・(松村)・(皆上)・(荒谷)・(徳重)・(山田)・(山下)・(三浦利彦)・(宮城島)・(片野)・(尾山)
13	内部障害系理学療法 机上症例演習 2	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	〃
14	運動器障害系理学療法 机上症例演習 1	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	片寄・戸田・青木・

				(市川)・ (吉川)・ (木ノ 下)・(今 本)・(高 木)・(松 本)・(中 釜)・(高橋 歩)・(河 合)・(池 田)
15	運動器障害系理学療法 机上症例演習2	事前:配布資料の pre-reading 事後: ワークシート	〃	〃

授業科目	理学療法治療学演習	4 学年学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	佐々木健史 (保健医療学研究棟 E406 号) e-mail : t-sasaki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	片寄正樹、渡邊耕太、谷口圭吾、菅原和広、井平光、戸田創、岩本えりか、根木亨、青木信裕、田代英之、他 演習講師		
概要	臨床実習 4 で経験した運動器系障害、内部系障害、神経系障害の症例にもとづき、その機能評価診断、治療計画の立案、および治療について演習を行う。演習にあたっては、臨床実習 4 の実習指導者が学習を補佐し、具体的症例の理学療法について深く理解する。 4 年間のまとめとして理学療法における各領域の評価・治療について整理し、理解を深める。		
到達目標	1. 運動器系障害、内部系障害、神経系障害の症例に対する理学療法の特徴およびリスク管理について説明できる。 2. 運動器系障害、内部系障害、神経系障害の症例に対する機能評価診断、治療計画の立案、および治療について説明できる。 3. 理学療法各領域における評価・治療時の特徴について説明できる。 4. 理学療法各種先端的な応用手法について説明できる。		
関連科目	運動器障害理学療法学、神経障害理学療法学、内部障害理学療法学、発達障害理学療法学、高齢者理学療法学、理学療法治療学、臨床実習 3、臨床実習 4		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	レポート	50%	レポートは提出状況および記載内容を評価する。
	演習課題	50%	演習課題は症例演習の発表内容を評価する。
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	運動器障害系理学療法の実際と症例演習 1	事前：臨床実習 4 担当症例の要約 事後：演習内容の要約作成	演習	片寄・渡邊・青木・戸田・(市川)・(吉川)・(木ノ下)・(今本)・(高木)・(松本)・(中釜)・(高橋歩)・(河合)・(池田)
2	運動器障害系理学療法の実際と症例演習 2	事前：臨床実習 4 担当症例の要約 事後：演習内容の要約作成	〃	〃
3	内部障害系理学療法の実際と症例演習 1	事前：臨床実習 4 担当症例の要約 事後：演習内容の要約作成	〃	岩本・井平・根木・(阿部)・(松村)・

				(皆上)・ (荒谷)・ (徳重)・ (山田)・ (山下)・ (三浦利 彦)・(宮城 島)・(片 野)・(尾 山)
4	内部障害系理学療法の実際と症例演習 2	事前：臨床実習 4 担当症例の要約 事後：演習内容の要約作成	〃	〃
5	神経障害系理学療法の実際と症例演習 1	事前：臨床実習 4 担当症例の要約 事後：演習内容の要約作成	〃	菅原・佐々 木・田代・ (林)・(小 島)・(稲 田)・(大 谷)・(北 村)・(高橋 良輔)・(中 嶋)・(三浦 拓)・(古 田)・(安 田)
6	神経障害系理学療法の実際と症例演習 2	事前：臨床実習 4 担当症例の要約 事後：演習内容の要約作成	〃	〃
7	運動器障害系理学療法のまとめ	事前：運動器障害系理学療法の症例演習について復習する 事後：演習内容をグループ内で復習する	〃	片寄・谷 口・青木・ 戸田
8	内部障害系理学療法のまとめ	事前：内部障害系理学療法の症例演習について復習する 事後：演習内容をグループ内で復習する	〃	岩本・井 平・根木
9	神経障害系理学療法のまとめ	事前：神経障害系理学療法の症例演習について復習する 事後：演習内容をグループ内で復習する	〃	菅原・佐々 木
10	発達障害系理学療法のまとめ	事前：発達障害系理学療法について復習する 事後：演習内容をグループ内で復習する	〃	菅原・佐々 木・宮城 島・鎌塚・ 笹川
11	高齢者領域理学療法のまとめ	事前：高齢者理学療法の症例演習について復習する 事後：演習内容をグループ内で復習する	〃	井平・田代
12	理学療法トピックス：ウィメンズヘルスに関わる理学療法	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	(寒川)

13	理学療法トピックス：健康増進とヘルスプロモーション	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	(角谷)
14	理学療法トピックス：パラスポーツと理学療法	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	青木
15	理学療法トピックス：最先端の理学療法	事前:配布資料の pre-reading 事後:ワークシート	〃	佐々木

授業科目	地域理学療法学	3 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	井平光 (保健医療学研究棟 E402 号) e-mail : ihira@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田代英之、(濱本龍哉)、(梅田信吾)、(横山香理)、(松崎由里子)		
概要	リハビリテーションの理念を基に、地域リハビリテーションについて理解を深め、理学療法の役割や考え方、方法を学ぶ。在宅障害者(小児～高齢者、身体障害～精神障害)や高齢者のニーズを理解し、地域における理学療法の展開(通院、通所、訪問)を学ぶ。また、社会資源の理解とその活用法も学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域リハビリテーションの概念、およびその成立背景を説明できる。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割と他職種との連携の重要性を説明できる。 3. 地域・在宅における理学療法の方法を説明できる。 4. リハビリテーションにおける医療機関・施設と地域・在宅の連続性を説明できる。 5. 介護予防の必要性を理解し、その方法を説明できる。 		
関連科目	「理学療法概論」などで学んだリハビリテーションの理念を、地域に展開するための方法論やその法的根拠を学び、以降の実践系科目や臨床実習の履修へつなげる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	評価は筆記試験(100%)によって行う。
教科書	①大田仁史 [2020] 「地域リハビリテーション原論 ver. 7」 医歯薬出版株式会社		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	講義を中心に進めるが、適宜演習も実施する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	地域リハの歴史的経緯と定義	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	講義・演習	井平
2	国際生活機能分類による地域リハの考え方	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	〃
3	地域リハをめぐる諸制度・法規の理解	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	(濱本)
4	医療・保健・福祉の連携の意義と方法	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	(横山)
5	施設、通所リハビリの意義と方法	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	(梅田)
6	国際保健と CBR	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	(松崎)
7	介護予防の定義と実践 1	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	井平
8	介護予防の定義と実践 2	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	〃
9	介護予防における理学療法士の役割と参加 1	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	田代

10	介護予防における理学療法士の役割と参加2	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	田代
11	地域医療データの理解	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	井平
12	地域医療データの操作1	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	〃
13	地域医療データの操作2	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	〃
14	地域理学療法目的、評価、計画の立て方、地域資源と地域診断	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	〃
15	地域理学療法における指導の考え方とアプローチの方法	事前:配付資料の pre-leading 事後:work-sheet	〃	〃

授業科目	生活環境学	3 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	佐々木健史 (保健医療学研究棟 E406 号) e-mail : t-sasaki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田代英之		
概要	環境は、障害や老化により心身の機能が低下している方にとって、自立や QOL を規定する重要な要因となる。本科目では、ICF の考え方にない、健康や活動と環境の相互作用を理解し、その上で環境調整のための評価と方法論を学習する。また、住環境整備や福祉機器の選定に関する知識・技術を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは何かを理解し、さらに健康との相互作用を説明できる。 2. 環境が運動・動作に及ぼす影響を説明できる。 3. 生活環境支援の基本的理念と関連法規を説明できる。 4. 運動・動作に必要な物的・環境的要件を理解し、対象者の特徴に応じた福祉機器選定・環境整備を提案できる。 5. 福祉のまちづくりの理念について理解し、現状と今後の課題について説明できる。 		
関連科目	理学療法概論・日常生活活動学・日常生活活動学演習・地域理学療法学・神経障害理学療法学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	①鶴見隆正他 [2021] 「標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学(第6版)」 医学書院		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	特になし		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	理学療法における環境の捉え方とその変遷	事前:教科書指定範囲の予習 事後:授業内容の復習	講義	佐々木
2	屋内・屋外環境、環境と運動・行為	事前:教科書指定範囲の予習 事後:授業内容の復習	〃	〃
3	障害者の環境適応	事前:教科書指定範囲の予習 事後:授業内容の復習	〃	〃
4	環境整備と関連法規	事前:教科書指定範囲の予習 事後:授業内容の復習	〃	〃
5	住環境整備の進め方	事前:教科書指定範囲の予習 事後:授業内容の復習	〃	田代
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	事前:教科書指定範囲の予習 事後:授業内容の復習	〃	〃
7	福祉用具・社会生活用具による生活支援 1	事前:教科書指定範囲の予習 事後:授業内容の復習	講義・演習	佐々木
8	福祉用具・社会生活用具による生活支援 2	事前:教科書指定範囲の予習 事後:授業内容の復習	〃	〃

授業科目	保健医療総論 1	1 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314 号) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	中村 円 (保健医療学研究棟 E312 号) e-mail : m-nakamura@sapmed.ac.jp
担当教員	長谷川真澄、石井貴男、齊籐正樹、谷口圭吾、山本武志、中村 円、佐々木健史、戸田 創、木村恵美子、齊藤秀和、飯澤良祐、小木曾寛樹、早崎涼太、(大島寿美子)		
概要	保健・医療・福祉における他職種を含む様々な立場の人々と連携・協働できる基礎的能力醸成のため、コミュニケーションの構成要素や活用法、接遇の基本、情報リテラシー(倫理的取り扱い・管理方法)に関する講義やグループワーク、および実際のインタビュー体験を通して、基本的なコミュニケーションの概念と技術、および倫理的態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学習課題の遂行体験を基に、多職種連携の基盤となる基本的なコミュニケーションの重要性を理解し、自己の課題を述べることができる。 2. コミュニケーションの構成要素とその特徴を述べるができる。 3. 基本的接遇に必要な振る舞い方とマナーを述べるができる。 4. 報告、連絡、相談の重要性を述べるができる。 5. 自らのコミュニケーションを振り返り、課題を述べるができる。 		
関連科目	人間関係論、文化人類学、心理学概論, 保健医療総論 2・3・4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	各種レポート	90%	各種レポート：担当教員による絶対評価
	学習態度	10%	学習態度：グループワーク・発表会への参加態度、学習への集中度
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	グループを中心にした学習活動となるので積極的に所属するグループに関与されることを期待します。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項、医療人にとってのコミュニケーションの重要性を理解し、その技法を学ぶためのオリエンテーション	事前：要項の確認 事後：講演資料の確認	講義	学部内 全担当教員
2	「人をつなぐ私たちの営み-コミュニケーションについて考える-」に参加する	事前：要項の確認 事後：講演資料の再読	講演	(大島) 中村
3	コミュニケーションに対するイメージの言語化	事前：要項の確認 事後：言語化したイメージの確認	グループ 学習	戸田、 学部内 全担当教員
4	基本的接遇のロールプレイ	事前：要項の確認 事後：ロールプレイ内容のふり返り	〃	〃
5	インタビュー演習のオリエンテーション	事前：要項の確認 事後：オリエンテーション内容の確認	〃	齊藤、 学部内 全担当教員
6	インタビュー演習の企画書の作成	事前：要項の確認 事後：作成した企画書の点検	〃	〃

7	インタビュー演習の実施のためのアポイントメント	事前：基本的接遇のふり返り 事後：アポイント内容の確認	〃	〃
8	インタビュー演習の企画書の精査・点検とインタビュー演習の準備	事前：作成した企画書の確認 事後：企画全体のふり返り	〃	〃
9	インタビュー演習	事前：企画書内容の点検 事後：録音内容の確認	〃	〃
10	インタビュー演習	事前：企画書内容の点検 事後：録音内容の確認	〃	〃
11	インタビュー演習の内容の確認	事前：要項の確認 事後：インタビュー内容の確認	〃	〃
12	インタビュー演習の内容に基づく報告会準備	事前：要項の確認 事後：報告内容と手順の確認	〃	中村、 学部内 全担当教 員
13	報告会でのプレゼンテーション準備と会場準備	事前：要項の確認 事後：報告内容の最終確認	〃	〃
14	報告会での報告と質疑応答及び意見交換	事前：要項の確認 事後：報告内容のふり返り	〃	〃
15	報告会での報告と質疑応答及び意見交換とレポート提出	事前：要項にて提出物の確認 事後：レポート等の提出	〃	〃

授業科目	保健医療総論2	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	太田久晶 (保健医療学研究棟 E512 号) e-mail : hisoh@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	山田崇史、中村充雄、木島輝美、秋原志穂、澤田いづみ、松村博文、中村眞理子、澄川真珠子、田畑久江、青柳道子、白井紀子、深川周平、石貫智裕		
概要	介護老人保健施設、介護老人福祉施設、通所系サービスを利用している高齢者と実際にコミュニケーションをとり、対象者の理解に基づいたコミュニケーションの重要性と、保健医療福祉専門職の機能を知ることがを目的とする。さらに、世代や立場が異なる様々な人との関わりから考え方の多様性を理解し、今後の学習活動のレディネスを高める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活を支援する場における多職種連携の目的・方法を知ることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護施設における多職種連携の目的・方法を知ることができる。 2) 介護施設と医療施設における多職種連携の共通点と相違点を述べるることができる。 2. 対象者の理解に基づいたコミュニケーションの実践をとおして、その重要性を理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前学習に基づき、加齢による変化や疾病をもつ対象者に配慮したコミュニケーションができる。 2) 実習体験をとおして、対象者の特徴に応じたコミュニケーションのあり方を述べるることができる。 3. 対象者と関わる保健医療福祉専門職の種類と役割を知るとともに、保健医療専門職をめざす学習者としての自己の課題を認識できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者に関わる保健医療福祉専門職の種類と役割を述べるることができる。 2) 保健医療専門職をめざす学習者としての自己の課題を述べるることができる。 4. 本学習課題の達成という目標に向け、学生・教職員・施設職員で構成される学習チームの一員として主体的かつ協働的に行動できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習チームの一員として、学生メンバーおよび教職員や施設職員と主体的にコミュニケーションできる。 2) 世代や立場の異なる人との関わりから、考え方の多様性について述べるることができる。 3) 学習課題達成のために、学習チームの一員としての役割を果たすことができる。 5. 対象者の安全・安楽を守り、医療人としての倫理的態度に基づいた行動ができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者のプライバシーに配慮し、尊重した態度で接することができる。 2) 対象者の安全・安楽を守るために施設職員へ必要に応じて報告・連絡・相談ができる。 3) 「実習等における個人情報の取り扱い指針第3版」に基づき記録・情報を適切に管理できる。 		
関連科目	保健医療総論1、保健医療総論3、保健医療総論4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考 個人レポート：記録類の提出状況と内容および演習・実習での発言内容から学習目標の到達度に基づき評価。 学習態度：学内演習並びに施設実習における取り組み態度により評価。 いずれも、ルーブリックを用いて評価を行う。
	個人レポート	60%	
	学習態度	40%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	正当事由によりやむを得ず遅刻、早退、欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 臨地実習の受け入れ先の都合により、半数の学生は、実施回1-5と6-10を入れ替えた内容となる。 実習の形式が変更になる場合には、事前に周知する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-5	学内演習：学習目標1~3に関する事前学習の共有、高齢者疑似体験、動画の視聴、グループ内でのディスカッションを行う。 方法：2~3名の3学科混成グループを編成し、グループ学習を行う。 内容：コミュニケーション能力を含めた高齢者の特徴、介護	事前：事前課題に取り組む 事後：グループ学習の復習	演習	担当教員 全員

	<p>保険下の施設の特徴、保健医療福祉専門職の種類と役割について、事前学習、高齢者疑似体験、教材動画の視聴を通して、理解を深め、学習内容の共有を図る。また、教材動画の視聴を通じて、介護保険下の施設における感染症予防対策について学習する。</p>			
6-10	<p>臨地実習：高齢者が利用する施設、通所サービスで見学を中心とした実習を行う。</p> <p>方法：1施設2～4名程度のグループ単位で施設職員の指導のもと、臨地実習を行う。</p> <p>内容：施設概要に関する講義の受講ほか、日常業務の観察を通して、多職種連携、感染対策の実際を学ぶ。また、施設利用者とのコミュニケーションの重要性や専門職と施設利用者との関わりを学ぶ。実習終了後に施設内で学習内容を振り返る。</p>	<p>事前：事前課題に取り組む</p> <p>事後：実習記録の作成・提出</p>	臨地実習	〃
11-15	<p>学内演習：これまでの学内演習および臨地実習での学びを統合し、学生間で共有を図る。</p> <p>方法：3～4名の3学科混成グループを編成し、グループ学習を行う。</p> <p>内容：グループで学内演習及び臨地実習での学びを共有し、グループ討議の課題に基づき発表資料を作成する。教室別に報告会を行い、意見交換する。</p>	事後：個人レポートの作成・提出	演習	〃

授業科目	保健医療総論 3	3 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	今野美紀 (保健医療学研究棟 E112 号) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	堀口雅美、丹野雅也、坂上真理、中村裕二、浅利剛史、森元隆文、原田由香、田代英之、青木信裕、村川奨、小川賢一、竹内彩弥香、(加藤良和)、(清水兼悦)、(三上孝洋)、(中島純子)、(柿澤雅史)		
概要	チーム医療において他の医療専門職との連携を図る能力を身につけるために、医療機関において他の医療専門職の機能と役割を理解する。本科目における他の医療専門職とは看護師、理学療法士、作業療法士をさす。具体的には、看護学科の学生は理学療法士、作業療法士のいずれかに同行し、理学療法学科および作業療法学科の学生は看護師に同行し、各職種専門性を理解する。他の医療専門職と行動を共にして業務を体験することにより、他の医療専門職の視点から自分の目指す専門職の理解を深めることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療専門職の役割・機能について、施設の機能と関連させた説明ができる。 2. 他の医療専門職との同行体験を通して、自分が目指す職業の専門性を説明できる。 3. 他の医療専門職との連携に必要な能力について、学内学習および実習を踏まえて自分の意見を述べるができる。 4. 医療人としての倫理的態度に基づく行動をとることができる。 		
関連科目	保健医療総論 1, 保健医療総論 2, 保健医療総論 4		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	実習状況	45%	<ul style="list-style-type: none"> ・実習状況評価表と教員評価表(ルーブリック)により評価する。 ・評価の対象は実習への参加状況、事前学習、グループ学習・報告会への取り組み姿勢、および学習目標への到達状況である。
	個人学習・グループ学習・報告会・提出物	55%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は、事前オリエンテーションで配付される学習要項で確認する。 ・COVID-19 感染状況等により、学習方法等を変更する場合がある。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	保健医療総論 3 の主旨 病院実習に対する基本的姿勢について 看護師・理学療法士・作業療法士の業務と専門性について 他職種体験前課題の作成	事前：事前配付資料を読む。事前オリエンテーションで指示された内容の学習 事後：実習施設について調べる。	講義・グループ学習	今野・坂上・浅利・田代・(清水)・(加藤)・(三上)・(中島)・(柿澤)
2	保健医療総論 3 の主旨 病院実習に対する基本的姿勢について 看護師・理学療法士・作業療法士の業務と専門性について 他職種体験前課題の作成	事前：事前配付資料を読む。事前オリエンテーションで指示された内容の学習 事後：実習施設について調べる。	〃	〃
3	保健医療総論 3 の主旨 病院実習に対する基本的姿勢について 看護師・理学療法士・作業療法士の業務と専門性について 他職種体験前課題の作成	事前：事前配付資料を読む。事前オリエンテーションで指示された内容の学習 事後：実習施設について調べる。	〃	〃
4	各病棟・部署のオリエンテーション 配置された病棟もしくは部署の施設オリエンテーションを受	事前：実習施設について調べる。 事後：オリエンテーション内容のまと	講義	〃

	ける。	め。施設実習準備		
5	各病棟・部署のオリエンテーション 配置された病棟もしくは部署の施設オリエンテーションを受ける。	事前：実習施設について調べる。 事後：オリエンテーション内容のまとめ。施設実習準備	〃	〃
6	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	実習	今野・坂上・浅利・田代・堀口・丹野・中村・森元・原田・青木・村川・小川・竹内
7	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
8	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
9	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
10	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
11	他職種体験後課題の作成	事前：実習のまとめ 事後：報告会の準備	グループ 学習	〃
12	他職種体験後課題の作成	事前：実習のまとめ 事後：報告会の準備	〃	〃
13	学習目標について学生グループによる報告と質疑応答 全体討論会	事前：報告会の準備 事後：他職種体験実習のまとめを作成	〃	〃
14	学習目標について学生グループによる報告と質疑応答 全体討論会	事前：報告会の準備 事後：他職種体験実習のまとめを作成	〃	〃
15	学習目標について学生グループによる報告と質疑応答 全体討論会	事前：報告会の準備 事後：他職種体験実習のまとめを作成	〃	〃

授業科目	保健医療総論 4	4 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	仙石泰仁 (保健医療学研究棟 E508 号) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	城丸瑞恵、渡邊耕太、池田望、宇野智子、田口裕紀子、岡田尚美、井平光、根木亨、横山和樹、植木瞳、中島そのみ、岩本えりか、他		
概要	健康障害を持つ対象へのインタビュー、対象者評価、支援計画の立案を通じて、多職種連携の意義と方法について理解することができる。また、グループ討議に能動的に参加して自職種及び他職種の特性・専門性・役割について考え、その内容についてグループ間で共有して深めることができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの多職種連携に関する知識を踏まえ、異なる専門領域と協働した対象者への実践的なアプローチを通して、多職種による連携の重要性を説明することができる。 2. 礼節ある対応をおこない、対象者の安全・安心に配慮できる。また、意図的な情報収集から支援計画を作成する過程において、グループでの合意を見出すために、自分の意見を述べ、相手の意見に傾聴できる。 3. 自職種及び他職種の特性・専門性・役割について説明できる。 4. 健康障害を持つ対象者へのインタビュー、評価、目標・支援計画の立案を通して、専門職種間でどのように協働して目標を達成するか説明できる。 5. 医療人を目指すものとして、真摯な姿勢で学習に参加し、多様な価値観を尊重することができる。 		
関連科目	保健医療総論 1・2・3		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	レポート	60%	レポート評価は項目に沿った記載内容、ルーブリックを通して行う。 活動状況の評価はグループワークでの発言頻度や内容を通じて行う。
	活動状況	40%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	保健医療総論学修ガイドブックを持参すること		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	健康障害をもつ人への支援を検討する事前準備① ・事前情報を基に疾患の理解、生活状況のイメージを得る	事後：症例の疾病、障害について調べる	講義・演習	担当教員 全員
2	健康障害をもつ人への支援を検討する事前準備② ・インタビュー方法や各学科のアセスメント(評価)方法について学ぶ	事前：アセスメント・ 評価方法について調べる 事後：演習内容を整理する	〃	〃
3	健康障害をもつ人への支援を検討するためのインタビュー準備 ・インタビューの内容・方法についてグループで検討する	事前：なし 事後：インタビュー内容の見直し	〃	〃
4	健康障害をもつ人への支援を検討するためのインタビューの実際 ・対象者に来学してもらい、インタビューを行い、支援に必要な情報を収集する	事前：なし 事後：インタビュー結果の整理	〃	〃
5	健康障害をもつ人への支援を検討するためのインタビューのまとめ ・インタビューを行った内容についてまとめる	事前：なし 事後：まとめたインタビュー内容の整理	〃	〃
6	健康障害をもつ人への支援の検討① ・インタビュー内容から、対象者の全体像を把握する	事前：なし 事後：グループで共有された全体像を	〃	〃

		整理		
7	健康障害をもつ人への支援の検討② ・アセスメント(評価)を行い、支援を必要とする問題点や対象者の利点を明らかにする	事前：なし 事後：対象者の問題点や支援内容に対応する文献を確認する	〃	〃
8	健康障害をもつ人への支援の検討③ ・目標を実現するために必要な支援を討議する	事前：なし 事後：討議された支援内容の根拠を文献から調べる	〃	〃
9	健康障害をもつ人への支援の検討④ ・支援内容、支援方法を明確にし、具体的な作業を行う	事前：なし 事後：討議された支援内容の根拠を文献から調べる	〃	〃
10	健康障害をもつ人への支援の検討⑤ ・対象者に提示するための準備を行う	事前：なし 事後：グループでまとめら支援内容のプレゼン方法について検討	〃	〃
11	職種の違いによる思考の相違に対する気づき ・グループ討議を通じて、各学科で注目するポイントやアプローチ方法に相違があることに気づき、その背景について考え、相互の職種理解を図る	事前：なし 事後：グループでまとめら支援内容のプレゼン方法について検討	〃	〃
12	健康障害をもつ人への支援内容の発表① ・対象者に来学してもらい、支援内容について発表する	事前：なし 事後：対象者へプレゼンした際の反応について整理	〃	〃
13	健康障害をもつ人への支援内容の発表② ・対象者から支援の妥当性、有用性に関するフィードバックを受ける	事前：なし 事後：対象者へプレゼンした際の反応について整理	〃	〃
14	健康障害をもつ人へ提供した支援のまとめ ・対象者からのフィードバックをもとに支援内容の再検討を行う	事前：なし 事後：対象者への支援内容に関する文献検討	〃	〃
15	職種の違いによる思考やアプローチの相違に対する気づきのまとめ ・グループ討議を通じて、他職種の理解とともに自己の職種の特性、専門性、役割について再考し、医療におけるチームアプローチの可能性や重要性について考察する	事前：なし 事後：レポートの作成と提出	〃	〃

授業科目	北海道の生活と健康	1 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	井平光 (保健医療学研究棟 E402 研究室) e-mail : ihira@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村裕二、田代英之、深川周平、飯澤良祐、(森山知洋)、(原文宏)、(山崎幸治)、(木村眞司)		
概要	北海道民の保健医療ニーズに応えるためには、北海道特有の社会的状況や環境の健康に及ぼす影響を考慮する必要がある。本講義では、道民の保健・医療、そして生活と相互作用の関係をもつ北海道の歴史と特有の環境(地域の自然、地形、気候、産業、人口、交通)について学習し、多様な観点から北海道における健康・疾病ならびに保健・医療について学習する。		
到達目標	1. 北海道の生活を理解する多様な視点を説明できる 2. 北海道の歴史、自然と環境の概要を説明できる 3. 北海道の生活と健康のつながりを説明できる 4. 北海道の生活を踏まえた医療保健福祉政策を概説できる		
関連科目	地域看護学概論、地域・環境理学療法学、地域作業療法学、地域作業療法学演習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	提出物は、毎講義ごとのリフレクションカードとする。
	提出物	30%	
	報告会内容	20%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門分野の非常勤講師によるトピックス・バラエティに富んだ構成である。事前に講義に関連する情報をインターネットや本などで収集し、自己の関心事を明確にして参加すること。 ・フォトボイスという手法を用いて学びの共有を行う。フォトボイスとは、地域に暮らす人々が、健康にかかわる様々な角度から地域の暮らしを見つめ、写真(フォト)に収め、写真が意味していることを言葉で説明する(ボイス) ことによって、示された課題をみんなで討議して、強みの発見や問題提起をしていく手法である。 ・各講義を聞きながら、北海道の生活と健康のつながりを考える視点を磨き、フォトボイス作成に生かすこと。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション フォトボイスについてガイダンス 北海道の健康課題	事前：北海道の暮らしの特徴を考える 事後：関心事をまとめる	講義 演習	井平・中 村・田代・ 飯澤
2	北海道の気象 北海道の気象プラス一天気と健康を考える一	事前：北海道の気象について情報収集 事後：学びのまとめ	講義	(森山)
3	北海道の交通と産業 北海道の交通と地域づくり	事前：北海道の交通について情報収集 事後：学びのまとめ	〃	(原)
4	北海道の文化・芸術 モノからみたアイヌ文化	事前：アイヌの文化について情報収集 事後：学びのまとめ	〃	(山崎)
5	北海道の文化・芸術 北海道の医療の歴史	事前：札幌大の歴史について情報収集 事後：学びのまとめ	〃	(木村)
6	北海道の暮らしと健康 活動と暮らし	事前：北海道保健福祉部および札幌市 保健福祉部の HP 閲覧 事後：学びのまとめ	〃	井平
7	北海道の暮らしと健康 北海道の健康とまちづくり	事前：北海道保健福祉部および札幌市 保健福祉部の HP 閲覧	〃	深川

		事後：学びのまとめ		
8	フォトボイス報告会	事前：フォトボイスの作成 事後：レポート作成準備	演習	井平・中 村・田代・ 飯澤

授業科目	地域医療合同セミナー1	1 学年・通年・1 単位 (30 時間)	
		全学科	選択

科目担当責任者	磯山 響子 (教育研究棟 7 階 D712) e-mail : isoyamak@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	磯山響子、三原弘、長南行浩、杉村政樹、(相馬仁)、他(地域医療合同セミナー企画運営委員会委員)		
概要	<p>本科目は、医学部との合同カリキュラムである。地域医療を展開する上で必要となる基本的な知識と、パートナーシップを形成する基本的態度を獲得し、北海道が抱える保健医療課題への理解を深める。また、講義、演習、地域医療基礎実習を通じて、地域における多職種連携と地域住民との双方向コミュニケーションを実践的に学ぶ。</p> <p>学科・学部を越えた学生同士のディスカッション、地域保健医療スタッフおよび住民との関わりを通じて、地域の特性や社会的背景、健康課題に関心を持ち、自発的な学修によって深い理解を得ること、他者の受容と共感的態度を身につける。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 北海道の地域性、地域に暮らす住民の生活を理解し、地域医療に必要な基本的な知識を獲得する <ol style="list-style-type: none"> 北海道地域の人口構造と地域を支える産業構造を説明できる 地域の特徴を踏まえ、医療・福祉の関連を説明できる パートナーシップを形成する基本的態度を身につける <ol style="list-style-type: none"> 自己と他者の客観的理解に努めることができる 基本的信頼関係を構築できる態度をとることができる 基本的なコミュニケーション技能を身につけ、良好なコミュニケーションが取れる グローバルな視点を身につける <ol style="list-style-type: none"> 世界の地域医療の現状と課題を理解し、説明できる 世界事情に照らし合わせて、北海道の地域医療の特徴・課題を考え、説明できる 		
関連科目	北海道の生活と健康		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	60%	その他の評価には、能動的な学修態度や、演習における姿勢・積極性・協調性などを含む。
	成果発表	20%	
	その他	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 埼玉県立大学 (編) [2006] 「IPW を学ぶ：利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規出版 日本国際保健医療学会 (著) [2013] 「国際保健医療学」 杏林書院 日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会 合同編集委員会 (監修) [2019] 「国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門」 診断と治療社 		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療を展開する上で必要な基本的知識と態度を獲得することを目的としているので、講義を聞いて理解するという参加の仕方ではなく、自己学習において自ら情報収集・調査を行ったり、積極的な態度でワークショップ等の演習に参加することが求められる。 ・事前・事後学習については、各講義の前後に指示を出すことがある。授業内および学生サポートシステムで適宜通知する。 ・履修学生全員での「現地実習」は本科目では実施しない。参加可能な現地実習があれば、随時案内し参加者を募集する(正課外実習の扱いとなる) 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
-----	-----	---------	----	------

1	コースオリエンテーションとイントロダクション、北海道の地理的特徴と地域医療概論	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義	磯山
2	北海道地域の暮らし：北海道地域の生活等に関する基礎知識	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義	〃
3	北海道地域医療総論：北海道地域医療の特徴、地域の医療政策について	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義	〃
4	他者と関わる技法、チームワーク：他者と関わる技法、チームワークについて演習を通して学ぶ	事後：自身の課題を授業内で明らかにする。	講義・演習	〃
5	北海道地域医療概論：道東の地域医療の特徴と課題、連携と実践例	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義・演習	非常勤講師(川本雅樹)
6	地域介入研究紹介：高齢者を対象とした地域介入研究の成果	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(未定)
7	世界の地域医療事情と多職種連携概論：特に多くの地域医療課題を抱える国の事情と多職種連携と実践について	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(浅井悧)
8	事例による多職種連携理解：地域における保健医療福祉連携の実際	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(岩永輝明)
9	地域の健康課題に対する取り組み：道東地区における医療福祉連携と実践	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(藤田泰)
10	地域医療ワークショップ①	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	講義・演習	磯山・非常勤講師(未定)
11	地域医療ワークショップ②	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	磯山・非常勤講師(未定)
12	地域医療ワークショップ③	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	磯山・非常勤講師(未定)
13	地域医療ワークショップ④	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	磯山・非常勤講師(未定)
14	振り返り・総括① 報告会準備	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	演習	磯山
15	振り返り・総括② 全体報告会	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	〃

授業科目	地域医療合同セミナー2 (自由選択)	2 学年・通年・1 単位 (30 時間)	
		全学科	自由選択

科目担当責任者	長南行浩 (教育研究棟 7 階 D706) e-mail : y-osanami@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	長南行浩、磯山響子、三原弘、杉村政樹、大浦麻絵、木島輝美、村上孝徳、(相馬仁)、(松永卓也)、(尚和里子)、(西田タ子)、(地域スタッフ)、地域医療合同セミナー企画運営委員会委員		
概要	本科目は医学部との合同カリキュラムである。地域医療合同セミナー1 では、北海道遠隔地域の住民の生活様式、医療事情等を学んだ。本科目は地域医療合同セミナー1 に引き続く内容で、地域における健康課題に焦点を当て、一次予防を実践する。そのためにヘルスプロモーションの概念、ライフステージに関連した健康問題について学修する。北海道の地域課題を探り、健康推進のための方策を計画するプロセスを学ぶ。地域住民(対象は、子供から高齢者)に対して、健康教育を実践する。能動的に地域に深くかかわることにつながる。		
到達目標	<p>1. 地域における健康課題の理解</p> <p>①北海道遠隔地域の地域性にも関連付けて、住民の健康課題について説明できる</p> <p>②北海道地域の保健医療システムを説明できる</p> <p>2. 生活習慣病予防を目的とした課題への対応</p> <p>①地域の健康増進、疾病予防を目的とする活動を説明できる</p> <p>②ヘルスプロモーションの概要と目的を理解し、健康教育を計画できる</p> <p>③共感的態度で、地域住民と接することができる</p> <p>3. 能動的な学修態度の獲得と多職種連携の理解</p> <p>①学習を進めていく上で、および健康教育セミナー(もしくはメディカルカフェ)の準備の中で自身の課題に気づき、自分の力で解決する方法を見出せる</p> <p>②多職種が有機的に連携し、問題解決をする事例について、自分の言葉で説明できる</p>		
関連科目	地域医療合同セミナー1、地域医療合同セミナー3		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考 その他の評価には、学修に対する意欲や姿勢、演習及び実習における積極的な姿勢、チームワークなどを含む。
	レポート	60%	
	成果発表	20%	
	その他	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<p>①日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会 合同編集委員会 (監修) [2019] 「国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門」 診断と治療社</p> <p>②福田洋、江口泰正(編集) [2016] 「ヘルスリテラシー 健康教育の新しいキーワード」 大修館書店</p> <p>③宮坂忠夫、吉田亨、川田智恵子(著) [2013] 「健康教育論(最新保健学講座)」 メヂカルフレンド社</p>		
履修上の留意点	<p>・地域医療合同セミナー1(1 学年)からつながる内容であるが、地域医療合同セミナー1 を履修していなくても履修は可能である。しかし、地域医療合同セミナー1 の内容を自習で補う必要がある(科目責任者から指示がある)。</p> <p>・事前・事後学習については、適宜、授業内および学生サポートシステムで通知する。</p> <p>実習では、北海道内の諸地域に赴き、地域住民への健康教育(健康教室・メディカルカフェ)を学生が主体となって企画・運営する。日程は随時決定となるが、土日祝日、夏季休暇を含む可能性がある。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション ①教育内容、到達目標、年間計画 ②学生による健康教育セミナー(もしくはメディカルカフェ)の概要説明	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	講義	長南

2	特に、高齢者に焦点を当てた健康問題について ①内科的疾患の特徴	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	(松永)
3	ヘルスプロモーションの理論と実践① 健康教室の実践例	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	(尚和)
4	特に、高齢者に焦点を当てた健康問題について ②老化による認知機能低下と病的な低下	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	木島(保健 医療学部 看護学科)
5	特に、高齢者に焦点を当てた健康問題について ③運動機能の老化の特徴	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	村上(医学 部)
6	実習(学生による健康教育セミナー(もしくはメディカルカフェ))オリエンテーション	事後：実習に取り組むための自己学習	講義・演習	長南
7	ヘルスプロモーションの理論と実践② 小児に焦点を当てた生活と健康問題 児童のヘルスプロモーション(講義)	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	講義・演習	大浦(医学 部)
8	ヘルスプロモーションの理論と実践③ 小児に焦点を当てた生活と健康問題 児童のヘルスプロモーション(演習)	別途通知あり	〃	大浦(医学 部)
9	ヘルスプロモーションの理論と実践④ 介護専門職から見たヘルスプロモーションの在り方	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	(西田)
10	実習準備・リハーサル	事前：実習準備 事後：問題点を明らかにし実習本番に備える	演習	地域医療 合同セミ ナー企画 運営委員 会委員
11	実習準備・リハーサル	事前：実習準備 事後：問題点を明らかにし実習本番に備える	〃	〃
12	実習(健康教育セミナー/メディカルカフェ開催)①	事前：実習準備 事後：実習で得たことを整理しておく	実習	地域医療 合同セミ ナー企画 運営委員 会委員
13	実習(健康教育セミナー/メディカルカフェ開催)②	事前：実習準備 事後：実習で得たことを整理しておく	〃	〃
14	実習振り返り	事前：実習で得たことを整理しておく 事後：報告会準備	演習	地域医療 合同セミ ナー企画 運営委員 会委員
15	報告会(成果発表)	事前：実習で得たことを整理しておく 事後：レポート作成	〃	〃

授業科目	地域医療合同セミナー3 (自由選択)	3 学年・通年・1 単位 (30 時間)	
		全学科	自由選択

科目担当責任者	三原 弘 (医療人C教育開発研究部門 教員室 e-mail : h.mihara@sapmed.ac.jp)	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	杉村政樹、磯山 響子(医療人育成センター 教育開発研究部門)		
概要	本科目は、医学部との合同カリキュラムであり、1・2 年次に開講された「地域医療合同セミナー1・2」の積み上げ科目である。北海道の地域医療におけるシステム理解と連携について学ぶと同時に「地域包括ケアシステム」「北海道地域医療構想」についても学修する。「地域密着型チーム医療実習」(正課外)では医学部・保健医療学部の学生が混成チームを組み、モデル地域(根釧地区、留萌地区など)に滞在し、実習を行う。また、地域に在住する住民をケースとして健康づくりにおける支援策を検討する。		
到達目標	<p>学修到達目標(コンピテンシー)は以下のとおりである。</p> <p>1. 「システムに基づいた地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識・態度を習得し支援できる」</p> <p>①北海道が抱える地域医療の課題を理解し、地域における健康課題に対し介入方法を考案できる。 ②地域で暮らす様々な健康レベルにある人、その家族の生活について理解し、支援する方策を考えることができる。 ③地域社会を健康の視点から捉える方法論を説明できる。 ④地域で暮らす人々の健康を支える資源・システムの概要を説明できる。 ⑤ヘルスプロモーションの理念および地域の健康を推進する方策を提示できる。</p> <p>2. 「パートナーシップを形成する基本的姿勢を習得し実践できる」</p> <p>①他者と基本的な信頼関係を構築できる態度を示すことができる。 ②自己の専門性および他職種の役割を認識し、チーム医療の重要性を認識できる。 ③地域で暮らす人々と対話するスキルを習得し、実践できる。 ④地域医療におけるパートナーシップのあり方について自己の意見を発言することができる。</p> <p>3. 「能動的な学修態度を獲得し実践できる(自己主導型学習)」</p> <p>①小グループでの学習を通じて、チームメンバーと協調しながら自己の意見を述べることができる。 ②課題に対して関心をもち、能動的に学ぶプロセスを体験し、自己主導型学習を実践することができる。</p>		
関連科目	地域医療合同セミナー1・地域医療合同セミナー2・地域医療合同セミナー4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	
	成果発表	20%	
	その他	30%	
教科書	①指定しないが「評価方法」の備考を参照すること [***] [***] ***		
参考書	①磯部 光章 [2011] 「話を聞かない医師 思いが言えない患者」 集英社(新書) ②中根 晴幸 [2016] 「次代を担う医療者のための地域医療実践読本」 幻冬舎 ③自治医科大学(監修) [2009] 「地域医療テキスト」 医学書院 ④里見 清一 [2015] 「医師と患者のコミュニケーション論」 新潮社(新書) ⑤厚生統計協会 [最新号] 「国民衛生の動向」 厚生統計協会		
履修上の留意点	【予習】 ・地域において患者ケアに参加し得る医療資源と専門職を医療・看護・介護の面から調査すること。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療チームにおける各職種の役割を理解すること。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で得られた知識・経験をまとめ、ふりかえりや報告会発表に反映させること。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域医療合同セミナー1 および2」を受講してきた学生は本科目の受講を勧める。 ・実習の準備および実践は一部のメンバーだけに任せないこと。グループ全員が行い知識を共有する必要がある。(演習参加への姿勢・態度についての評価の比重が高いため留意すること) ・「定型的」な教科書は指定しないが、北海道保健福祉部のホームページ内の「北海道地域医療構想」のサイトを随時参照されたい。 ・COVID-19 の状況により、シラバスの変更を行うことがある。その場合は、あらかじめ履修学生に提示・説明するものとする。
--	--

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	コースオリエンテーション	事前：地域医療総論、事後：各自の課題検討	講義	三原・杉村
2	システムとしての地域医療 (1)	事前：地域医療と行政、地域医療を構成する職種、事後：各自の課題検討	講義	杉村
3	システムとしての地域医療 (2)	事前：医療計画・医療連携、事後：各自の課題検討	講義	三原
4	システムとしての地域医療 (3)	事前：保健制度概要、地域医療構想、事後：各自の課題検討	講義	杉村
5	システムとしての地域医療 (4)	事前：地域包括ケアシステム、事後：各自の課題検討	〃	〃
6	医療面接導入	事前：医療面接と患者コミュニケーション、事後：各自の課題検討	演習	三原
7	地域の安心安全を守る医学	事前：地域における予防医学、事後：各自の課題検討	〃	〃
8	患者との対話ワークショップ (1)	事前：Narrative Based Medicine (MBM)・パラレルチャート、事後：各自の課題検討	演習	寺田
9	患者との対話ワークショップ (2)	事前：Narrative Based Medicine (MBM)・パラレルチャート、事後：各自の課題検討	〃	〃
10	北海道の地域医療を学ぶ (1)	事前：北海道における地域医療 (道北)、事後：各自の課題検討	講義・演習	三原
11	北海道の地域医療を学ぶ (2)	事前：北海道における地域医療 (道東)、事後：各自の課題検討	〃	〃
12	北海道の地域医療を学ぶ (3)	事前：北海道における地域医療 (道南)、事後：各自の課題検討	〃	〃
13	北海道の地域医療を学ぶ (4)	事前：北海道における地域医療 (札幌)、事後：各自の課題検討	〃	〃
14	地域医療における医療面接	事前：地域医療における患者中心の医療面接、事後：各自の課題検討	演習	〃
15	課題発表会・質疑応答	事前：課題発表会・質疑応答、事後：振り返りレポート	〃	〃

授業科目	地域医療合同セミナー4 (自由選択)	4 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	自由選択

科目担当責任者	杉村 政樹 (教育研究棟 7 階 D709) e-mail : sugimura@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	磯山 響子(医療人育成センター教育開発研究部門)		
概要	<p>本科目は、保健医療学部と医学部の合同カリキュラムで、1、2、3 年次にそれぞれ開講された「地域医療合同セミナー1～3」の積み上げ科目である。前年まで学んだ地域医療合同セミナー(地域実習を含む)での学習体験をまとめるとともに、一般住民を相手に発表を行う機会を設ける。地域医療課題に解決に向けた提言などが盛り込まれることを期待する。</p> <p>なお、本科目は「自由選択科目」、かつ、演習・活動時間が「正課外」となることに留意されたい。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> ①地域で健康課題を持つ人の生活について、課題を明らかにし説明し、対応策を検討できる。 ②地域で暮らす人々の健康を支える資源の活用を説明できる。 ③地域社会を健康の視点から捉え、現状の課題とあるべき姿を説明できる。 ④北海道が抱える地域医療の課題とあるべき姿を説明できる。 パートナーシップを形成する基本的態度を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> ①基本的信頼関係を構築し、コミュニケーションが取れる。 ②自己の専門性および他職種の役割を理解したうえで、良好なコミュニケーションを取り、適切な連携ができる。 ③医療者として必要な能力の上に地域住民と適切に対話できる。 ④地域医療におけるパートナーシップのあり方について自分の意見がもてる。 能動的な学習態度を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> ①チームメンバーと協働しながら積極的に自己の意見を述べるができる ②課題に対して関心をもって取り組み、新たな自己の課題を発見できる。 		
関連科目	地域医療合同セミナー1、地域医療合同セミナー2、地域医療合同セミナー3		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	40%	
	成果発表	50%	
	その他	10%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、原則「地域医療合同セミナー1,3」(1,3 年次)、「医学概論・医療総論 3B(地域密着型チーム医療実習)」(3 年次)を受講した学生が対象となる。 ・4 月中に詳細予定を決定し、連絡する。 <p>参考書は講義内で紹介する。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション(地域医療合同セミナーの教育目的、地域医療合同セミナー4の進め方について)	事前：なし 事後：講義で不明な点を明らかにし、各自で解決する	講義	杉村・磯山
2	グループ作成と活動計画	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り、次回に向けて考えおく	講義・演習	〃

3	成果発表の準備1 ・グループ単位で、地域医療合同セミナー1～3での学体験を振り返り、まとめる	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	演習	〃
4	成果発表の準備2 ・グループ単位で、地域医療合同セミナー1～3での学体験を振り返り、まとめる	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
5	成果発表の準備3 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(テーマの選定、発表スライドの作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
6	成果発表の準備4 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(テーマの選定、発表スライドの作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
7	成果発表の準備5 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(テーマの選定、発表スライドの作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
8	成果発表の準備6 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(配布資料の作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
9	成果発表の準備7 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(配布資料の作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
10	成果発表の準備8 ・発表の予行	事前：予行に備え準備する 事後：予行を振り返り、修正する	〃	〃
11	成果発表の準備9 ・発表の予行	事前：予行に備え準備する 事後：予行を振り返り、修正する	〃	〃
12	成果発表(学習体験を自身の言葉で第三者(一般市民)に対してわかりやすく説明する)	事前：なし 事後：成果発表に参加した市民の声を振り返り、今後に生かす	〃	〃
13	成果発表(学習体験を自身の言葉で第三者(一般市民)に対してわかりやすく説明する)	事前：なし 事後：成果発表に参加した市民の声を振り返り、今後に生かす	〃	〃
14	成果発表(学習体験を自身の言葉で第三者(一般市民)に対してわかりやすく説明する)	事前：なし 事後：成果発表に参加した市民の声を振り返り、今後に生かす	〃	〃
15	振り返り	事前：なし 事後：学生個人で全体を振り返る	〃	〃

授業科目	自主課題実践	1-4 学年・前期・後期・1 単位 (45 時間)	
		全学科	選択

科目担当責任者	仙石泰仁 (保健医療学研究棟 E508 号) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	今野美紀		
概要	大学における学習は学内で行われる授業に限定されるものではない。私たちが生活する地域・社会の諸課題に関心を持ち、1 人の人間として意図的に課題に向き合うことで一定の解答が得られる場合もある。本科目は、教育課程に含まれないボランティアや調査研究のように、学生自身が創造的に取り組む主体的活動の教育的意義を評価するために設けられたものである。個々の学生が現実社会の中から課題を設定し、活動計画を立てて行動に移し、その経過と結果を振り返ることにより、社会に内在する諸問題の改善・改革に向けた方向性を検討し、社会的存在である自身の担う役割を考察する。自主的活動を通じて何を学び、事前の情報収集や計画立案、振り返りやディスカッションを通して知を深め、学習としての成果が認められた場合に単位を認定する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の諸課題の中から、興味関心のあるテーマを設定する。 2. テーマに即して情報収集を行い、学内外の活動に関する計画を立てる。 3. 立案した計画に基づき、学内外での活動を行う。 4. 日々の活動を振り返って言語化し、活動終了後には一連の過程を評価する。 5. 学生同士及び担当教員とのディスカッションを通して、自主課題研究として取り組んだ学びの意味を考察する。 		
関連科目	保健医療総論 1、保健医療総論 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	実施計画	30%	
	実施報告	40%	
	レポート	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	自ら計画を立て、実施し、報告を行うことが求められるため、主体的な行動が求められる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心のあるテーマの設定 ・テーマに関する情報収集と分析 ・活動計画の立案 	事前: 興味・関心のあるテーマについての事前調査 事後: 事前調査の整理	自主活動	仙石・今野
6-40	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画に沿った展開 ・活動中は各回の活動報告書を記載する。 	事前: 活動計画の見直し 事後: 計画と実施内容の振り返り	自主活動	仙石・今野
41-45	<ul style="list-style-type: none"> ・「何を学んだか」をテーマにしたレポートを作成 	事前: 活動内容のまとめ 事後: 活動内容の振り返り	自主活動	仙石・今野

授業科目	キャリアデザイン	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	長谷川真澄 (保健医療学研究棟 E305 号) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	岩本えりか、齊藤秀和、木村恵美子、(杉浦真由美)、(高橋文香)、(加藤拓也)、(三上裕貴)		
概要	医療を取り巻く環境が変化していく中で、専門職に求められる役割や、能力を発揮できる場面も多様化してきている。本授業では、人間性豊かな医療人になるためのキャリアデザインに関する理論を学ぶほか、医療現場で学ぶ際に求められる接遇とコミュニケーションスキルを修得する。さらに、現場で活躍する方々との対話を通して、自身のキャリアデザインについて考える機会とする。		
到達目標	1. キャリアデザインに関する理論を述べることができる。 2. 医療や介護の現場で学ぶ際に求められる接遇とコミュニケーションスキルを修得することができる。 3. 自身のキャリアプランを立案し、発表できる。		
関連科目	看護学概論、看護政策、理学療法概論、理学療法管理・政策学、作業療法概論、作業療法管理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	授業・ワークの参加度	30%	授業・ワーク：グループ学習の参加状況、質問や発言の状況 リフレクションシート：リフレクションシートの提出状況・内容 キャリアプラン：キャリアプランの発表内容、最終レポート
	リフレクションシート	40%	
	キャリアプラン	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①山崎京子、平林正樹 [2018] 「未来を拓くキャリア・デザイン講座」 中央経済社 ②濱田安岐子 [2018] 「看護師のためのキャリアデザイン BOOK」 つちや書店		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ワークを中心とした授業となるため、主体性・能動性が必要となります。 遅刻はワークに影響を及ぼすため厳禁です。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス キャリアデザインとは	事後：リフレクションシート	講義 ワーク	長谷川・岩本・齊藤
2	キャリア理論 ①	事前：授業内で指示 事後：リフレクションシート	〃	(杉浦)
3	キャリア理論 ②	事前：授業内で指示 事後：リフレクションシート	〃	〃
4	医療現場で求められる接遇とコミュニケーション	事前：授業内で指示 事後：リフレクションシート	〃	〃
5	キャリアデザイン：キャリアプランを立案する	事前：キャリアプラン立案準備 事後：リフレクションシート	ワーク	岩本・齊藤・木村・長谷川
6	現場で活躍する方々からキャリアデザインを学ぶ ①	事前：授業内で指示	講義	(高橋)・(加藤)・(三上)・齊藤・岩本・木村・長谷川
7	現場で活躍する方々からキャリアデザインを学ぶ ②	事後：リフレクションシート	〃	〃

8	キャリアデザイン：キャリアプランを発表する	事前：キャリアプラン発表準備 事後：リフレクションシート	発表	岩本・齊 藤・木村・ 長谷川
---	-----------------------	---------------------------------	----	----------------------

授業科目	臨床実習 1	1 学年・後期・1 単位 (45 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E413 号) e-mail : ktani@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田代英之		
概要	理学療法の実務的な視点で初めて病院・施設、あるいは患者に接する機会であり、理学療法概論に引き続き早期体験としての意義を持っている。臨床実習指導者をはじめ関係スタッフとの関わりの中で、理学療法士の業務や活動分野についての初歩的な理解を得ることを主眼にしている。さらに患者を通して障害及び障害者の理解を深め、リハビリテーションおよび理学療法が臨牀的に果たす役割を認識することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション関連分野の全体像を理解する。 2. 病院・施設の機能と地域社会における役割を知る。 3. 理学療法士の役割とチームワークの重要性を学ぶ。 4. 患者および障害の実像を知る。 5. 理学療法士としての基本的な心構えを理解する。 		
評価	臨床実習指導者による評価、実習サマリーとレポート、実習報告会の内容により評価する(評価にはルーブリックを用いる)。		
履修上の留意点	理学療法概論を履修し、合格していること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1 施設につき、1~3 人で実習を行う 2. 臨床実習施設にて実習指導者のもと、以下の課題に取り組む 3. 学生が行う課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院・施設の機能、リハビリテーション部門、理学療法部門の役割 2) 患者との接し方、理学療法士としての基本的な心構え、他職種との関わり方の観察 3) 患者および障害の状態の観察 4) 実習ノート及びレポートの作成・提出 5) 実習サマリーの作成と実習報告会での発表
実習期間	5 日間(2024 年度は 1 月 20 日~1 月 24 日)
実習場所	大学が指定する実習協力病院
実習時間	基本的に月曜日から金曜日までの 9:00~17:00 であるが、実習施設の就業時間およびスケジュールに従う。 上記以外の時間のケースカンファレンスや指導者による振り返り学習を含んで、1 週間あたり 45 時間を実習として行う。
実習内容	リハビリテーション関連分野の理解：施設内の構造配置および業務場面の見学 病院・施設の機能と地域社会における役割の理解：施設内の見学、地域における病院・施設の役割の把握 理学療法士の役割を考える：理学療法場面の見学 チームワークについて学ぶ：他部門の見学、リハビリテーションカンファレンスの見学 患者・障害の実像の理解：理学療法場面の見学及び治療補助体験 自分の考えを整理し、報告する：実習報告会と討論、レポート提出

授業科目	臨床実習 2	2 学年・後期・2 単位 (90 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	戸田創 (保健医療学研究棟 E401 号) e-mail : toda.h@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	菅原和広、谷口圭吾、佐々木健史		
概要	整形外科疾患、内科疾患、中枢系疾患、呼吸器疾患、循環器疾患などに対する基本的な理学療法評価・検査を実施し、得られた結果に対する分析を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動機能、形態学的な観点から障害を観察できる 2. 検査・測定を状況に即して実施できる 3. 検査結果から正常範囲を理解し、異常を判断できる 		
評価	学内演習での分野別 OSCE, 臨床実習指導者による評価、実習サマリーとレポート、実習報告会の内容により評価する。		
履修上の留意点	2 年次前期までのすべての専門必修科目を履修し、合格していること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1 施設につき、3~5 人(A~E グループ)で実習を行う 2. 実習期間内の金曜日に計 5 日間の実習を実施する 3. 臨床実習施設にて基本的な検査手技を試みる機会を得る 4. 学生が行う課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 担当教員の指導計画に則って、実習計画を事前に立案し、実習指導者の確認を得る 2) 実習経験・施設間連絡表は毎回、実習指導者に提出して内容の確認を得る 3) 逐次、検査記録を記載し、毎回、担当教員に提出して確認を得る 4) グループワークを行い、報告会で使用するサマリーを作成する 5) 報告会終了後に実習報告書を提出する 6) 上記のほかに別途、実習指導者、担当教員から指示された課題を遂行する 5. 学外実習の前後で学内演習を行う
実習期間	実習期間：後期 11 月下旬から 2 月下旬の 10 日間(ガイダンス, 学内演習を含む)
実習場所	大学が指定する実習協力病院(札幌医科大学附属病院、手稲溪仁会病院、溪仁会リハビリテーション病院、時計台記念病院、羊ヶ丘病院、柏葉脳神経外科病院)
実習時間	基本的に金曜日の 9:00-17:00 であるが、実習施設の就業時間およびスケジュールに従う。 上記以外の時間のケースカンファレンスや指導者による振り返り学習を含んで、合計 90 時間を実習として行う。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 各実習施設における特徴的な疾患を対象として、実習指導者の指導のもと適切な検査手技を実施する。 2) グループワークを行い、学生間で相互に検査手技を確認する。 3) 実習経験・施設間連絡表を実習終了後、毎回提出する。特に「実習中フォローアップ」には到達目標に照らし、自身の不足している部分、実習中に解決出来なかった事柄を具体的に記載し、次回の実習時の努力目標とする。 4) 学外実習の前後に学内演習として、客観的臨床能力試験(Pre-OSCE, Post-OSCE)を実施する。

授業科目	臨床実習3	3 学年・後期・4 単位 (180 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	井平光 (保健医療学研究棟 E402 号) e-mail : ihira@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	菅原和広、佐々木健史、田代英之		
概要	<p>小児発達障害理学療法系実習 脳性麻痺、小児神経筋疾患、二分脊椎、重症心身障害児・者などに対する基本的な理学療法評価を実施し、得られた結果に対する分析を行う。</p> <p>高齢者・地域理学療法系実習 心身に障害を有する高齢者の在宅施設系(訪問理学療法、介護老人保健施設等)の理学療法を体験し、高齢者における在宅・施設の理学療法的重要性を”生活支援や自立支援”の観点から学習する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例評価を通じて、各種の情報収集や検査・測定を計画的に実施できる。 2. 患者の社会的背景や、病院・施設内の他部門の関わり方およびアプローチに留意できる。 3. データを統合・解釈して、対象患者やクライアントの問題点を考察できる。 4. 実習を通じ、理学療法に求められる役割やニーズを理解する。 		
評価	<p>小児発達障害理学療法系実習 臨床実習指導者による評価、実習レポートにより総合的に評価する(評価にはルーブリックを用いる)。</p> <p>高齢者・地域理学療法系実習 臨床実習指導者による評価、実習レポートを基に総合的に評価する(評価にはルーブリックを用いる)。</p>		
履修上の留意点	実習前のオリエンテーションは必ず出席のこと。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<p>小児発達障害理学療法系実習 実習1期：10名を、3-4名のグループに分けて実施する。 実習2期：10名を、3-4名のグループに分けて実施する。</p> <p>高齢者・地域理学療法系実習 実習1期：10名を、2-3名のグループに分けて実施する。 実習2期：10名を、2-3名のグループに分けて実施する。</p>
実習期間	<p>実習1期：2月上旬の10日間 実習2期：2月下旬から3月上旬にかけての10日間</p>
実習場所	<p>小児発達障害理学療法系実習 実習1期施設(北海道立子ども総合医療・療育センター、北海道立旭川肢体不自由児総合療育センター、札幌あゆみの園) 実習2期施設(北海道医療センター、十勝リハビリテーションセンター、札幌医科大学附属病院)</p> <p>高齢者・地域理学療法系実習 1期・2期施設(トレリハセンターていね、平和の杜、グラーネ北の沢、ケアセンター栄町、サンビオース新琴似、はまなす、けあばんけい、JCHO 北海道病院、ひまわり、ケアセンターら・そしあ)</p>
実習時間	<p>小児発達障害理学療法系実習 基本的に9:00~17:00であるが、実習施設の就業時間およびスケジュールに従う。</p> <p>高齢者・地域理学療法系実習 基本的に9:00~17:00であるが、実習施設の就業時間およびスケジュールに従う。</p>

実 習 内 容	<p>小児発達障害理学療法系実習 評価と治療</p> <p>高齢者・地域理学療法系実習 リハビリテーション実施計画書案作成、その他適宜指定する。</p>
---------	--

授業科目	臨床実習 4	4 学年・前期・13 単位 (585 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	佐々木健史 (保健医療学研究棟 E406 号) e-mail : t-sasaki@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	片寄正樹、菅原和広、戸田創、岩本えりか、井平光、根木亨、青木信裕、田代英之		
概要	理学療法教育の最終段階として実施されるもので、「理学療法実務の総合的な臨床学習」を主眼とし、測定・評価に基づいて考察し立案した目標を実現するための理学療法の組み立て方や実践について体験学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価計画に沿って各種の情報収集と検査・測定手技を正確に手際よく実施できる。 2. 収集したデータを統合・解釈し、問題点を把握して目標を立案できる。 3. 目標を実現するための理学療法プログラムを立案し、実施することができる。 		
評価	実習姿勢、学習姿勢、実習報告書、実習報告会における発表内容を総合的に評価する。		
履修上の留意点	3 年次まで全ての専門必修科目を履修すること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設につき、2-4 人で実習を行う。 2. 臨床実習施設にて実習指導者のもと基本的な理学療法評価を実施し、得られたデータをもとに問題点を抽出し、適切な理学療法計画を立案する。 3. 学生が行う課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) ケースレポートの作成・提出 2) デイリーノートの作成・提出 3) 実習報告会での発表 4. 理学療法学科教員による実習施設での訪問指導 5. 実習後セミナー : 実習報告会を中心に、実習で実施した評価に関する討論を行う。
実習期間	学内演習 1 週間、施設実習 1 クール 4 週間で 3 施設で実施し、合計で 13 週間の実習期間とする。
実習場所	大学が指定する実習協力病院
実習時間	原則的に 9:00-18:00 であるが、実習内容、実習施設の就業時間およびスケジュールに従い、週 45 時間の実習時間を確保する。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価計画 : 担当症例の疾患や障害状況の把握に必要な情報や検査・測定を検討し、データ収集の方法・手順を含めた評価計画を立てる。 2. 情報収集と検査・測定 : 評価計画に沿って各種の情報収集と検査・測定手技を実施する。 3. 障害の理解 : 収集したデータを統合・解釈し、表出している障害の要因や構造を理解する。 4. 治療目標 : 問題点を整理・抽出して、理学療法が応えるべきニーズを把握し、症例の社会的背景を踏まえた総合的な視点から治療目標を考察する。 5. 治療 : 実習指導者の指導、助言のもと、立案した理学療法計画に沿った理学療法介入を体験学習する。理学療法介入を一定期間実施した後に再評価を行い、対象者の機能状態の変化に照らし合わせて立案した理学療法計画の見直しを実施する。さらに、一連のプロセスを繰り返す。